

WHOセーフコミュニティ協働センター
セーフコミュニティネットワークメンバー

認証申請書

(別添説明書)



2015年7月

鹿児島県鹿児島市

目 次

第1章	鹿児島市の概要	1
1	地勢	1
2	産業・観光・歴史・文化・教育・福祉・医療	3
第2章	セーフコミュニティへの取り組み	6
1	取り組みに至った経緯	6
2	これまでの取り組み状況	7
第3章	外傷による死亡・けがの状況	8
1	死亡の状況	8
(1)	病気を含めた死亡原因の状況	8
(2)	不慮の要因による死亡の状況	9
(3)	自殺の状況	11
2	けがの状況	12
(1)	救急搬送によるけがの状況	12
(2)	アンケート調査から推計する鹿児島市の傷害発生全体像	14
(3)	交通事故によるけがの状況	15
(4)	学校でのけがの状況	16
(5)	加害によるけがの状況	17
(6)	災害によるハイリスク環境の状況	21
(7)	労働によるけがの状況	23
第4章	7つの指標に基づいた取り組み	24
指標1	横断的な組織による協働・連携	24
(1)	セーフコミュニティ活動の推進体制	24
①	セーフコミュニティ推進協議会	25
②	外傷サーベイランス委員会	25
③	分野別対策委員会	26
④	鹿児島市役所内部組織（検討委員会、作業部会）	29
(2)	セーフコミュニティ普及啓発活動	29
(3)	モデル地区等の取り組み	30

指標 2	両性、全年齢、さまざまな環境をカバーする	
	長期・継続的な取り組み	31
(1)	予防活動の全体像	31
(2)	主な予防活動	32
指標 3	ハイリスクの集団や環境を対象とする取り組み	39
(1)	ハイリスクの集団や環境の概要と取り組み	39
①	自殺リスクの高い50・60歳代の人	39
②	虐待を受ける子ども	39
③	転倒によりけがをしやすい高齢者	40
④	虐待(DV)を受ける女性	40
⑤	夜間・歩行中の高齢者	40
⑥	ハイリスク環境の近くで生活する人	41
(2)	ハイリスク環境	41
①	火山活動による災害が予測される地域	41
指標 4	根拠に基づいた取り組み	42
(1)	地域診断に基づいた重点課題の設定	42
(2)	重点課題ごとの取り組み	43
①	交通安全	44
②	学校の安全	55
③	子どもの安全	66
④	高齢者の安全	73
⑤	DV防止	83
⑥	自殺予防	94
⑦	防災・災害対策	100
指標 5	傷害の程度や原因を記録する仕組み	109
(1)	外傷サーベイランス委員会の機能	109
(2)	外傷サーベイランスの全体像	109
(3)	外傷サーベイランスを構成するデータ	110
(4)	継続的なデータ収集の計画	111
(5)	外傷サーベイランス委員会の活動	111

指標6 評価の仕組み	114
(1) セーフコミュニティプログラムの進行管理	114
(2) 各重点課題の取り組みに対する評価指標	114
① 交通安全	115
② 学校の安全	120
③ 子どもの安全	123
④ 高齢者の安全	125
⑤ DV防止	128
⑥ 自殺予防	131
⑦ 防災・災害対策	133
指標7 ネットワーク・交流	134
(1) 国内ネットワークへの参加	134
(2) 視察対応	135
(3) 国際ネットワークへの参加	135
第5章 セーフコミュニティ活動の長期展望	137
1 長期的な目標	137
(1) セーフコミュニティの基本理念の共有	137
(2) 外傷データ等の有効活用	137
(3) 地域活動の推進及び活性化	137
(4) 国内外のネットワークとの連携	137
2 長期的な活動を確保するためのプログラム	138
(1) 鹿児島市総合計画に基づく長期的な活動の展開	138
参考資料	139
1 セーフコミュニティ広報パンフレット	139
2 セーフコミュニティ交通安全パンフレット	140
3 桜島大噴火 避難手順書	141

第1章 鹿児島市の概要

鹿児島市は、日本の九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央部にあり、波静かな錦江湾、悠然とそびえる活火山桜島に代表される世界に誇れる雄大な自然景観と、近代日本の黎明に幾多の英傑を輩出した個性ある歴史・文化など多彩な魅力にあふれる国際観光都市です。

気候は、夏季の最高気温が35.5度、冬季の最低気温が-0.86度、年間平均気温は18.6度という生活しやすい温暖な気候に恵まれています。また、年間降水量は2,355mmで、6月から7月にかけての梅雨期が最も多く、年間降水量の約44%はこの時期に降ります。

鹿児島のシンボルである活火山桜島(標高1,117m)は、市街地から錦江湾をへだてて約4kmの対岸にあり、年間400回以上噴火し、夏場は降灰に見舞われることもあります。火山の恵みの温泉も豊富で、大自然の魅力を体感できる場として「日本ジオパーク」に認定されています。

1889年に市制を施行し、1996年には中核市へ移行、2004年に隣接する5町との合併を経て、政治、経済、教育、文化等の高次な都市機能が集積した南九州の交流拠点都市として発展を続けています。



1 地勢

■ 地勢

- (1) 人口 : 605,610人 (2015年6月1日現在)
- (2) 世帯数 : 274,131世帯 (2015年6月1日現在)
- (3) 位置等 : 東経130度23分から130度43分、北緯31度17分から31度45分
面積547.07km² (東西約33km、南北約51km)

鹿児島市の人口は、2004年に隣接する5町との合併で約5万人増加し、以後、およそ60万人で推移しています。（表1-1）

合併（2004年）後の年齢3区分を比較すると、15歳未満の「年少人口」、15歳から64歳までの「生産年齢人口」がともに減少する一方、65歳以上の「老年人口」が増加しており、今後、総人口は減少するものの、65歳以上の「老年人口」は増加し、高齢化率が上昇していくことが予想されます。（図1-1）また、世帯構成でみると「核家族世帯」と「単独世帯」がともに増加していますが、特に「65歳以上の世帯員がいる世帯」や「65歳以上の高齢単独世帯」の増が顕著となっています。（表1-2）

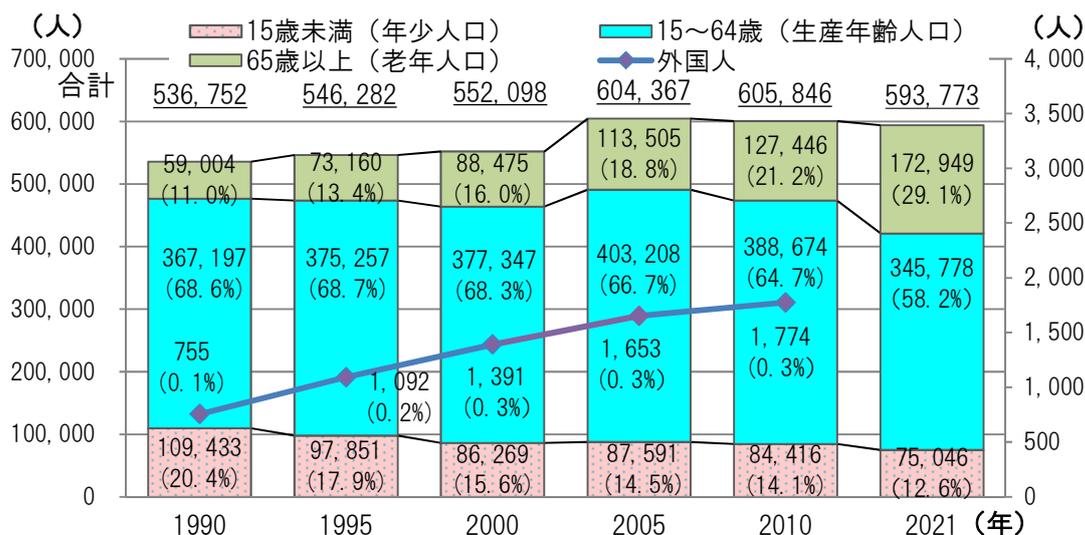
表1-1 人口の増減比指数

		1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
鹿児島市	人口（人）	536,752	546,282	552,098	604,367	605,846
	増減比指数	100.0	101.8	102.9	112.6	112.9
鹿児島県	人口（人）	1,797,824	1,794,224	1,786,194	1,753,179	1,706,242
	増減比指数	100.0	99.8	99.4	97.5	94.9
全国	人口（人）	123,611,167	125,570,246	126,925,843	127,767,994	128,057,352
	増減比指数	100.0	101.6	102.7	103.4	103.6

【出典】国勢調査（総務省統計局）【データ】国、県、市、両性、全年齢、1990～2010年

※ 鹿児島市：市町村合併（2004年）で約5万人増

図1-1 人口の推移



【出典】国勢調査（総務省統計局）【データ】市、両性、全年齢、1990～2010年

※ 2021年は、2010年の国勢調査による実績値等を基に算定した推計値

※ 合計は年齢不詳を含む ※ 鹿児島市：市町村合併（2004年）で約5万人増

表 1-2 一般世帯数・構成の推移

単位：人

	2005 年	2010 年	伸び率
一般世帯数	254, 694	264, 093	103. 7
うち核家族世帯	151, 173	152, 823	101. 1
うち単独世帯	88, 232	96, 554	109. 4
(再掲) 65 歳以上の世帯員がいる世帯	75, 509	83, 691	110. 8
うち 65 歳以上の高齢単独世帯	24, 271	27, 635	113. 9
うち高齢夫婦世帯 (夫 65 歳以上妻 60 歳以上の 1 組の一般世帯)	24, 369	27, 007	110. 8

【出典】国勢調査（総務省統計局）

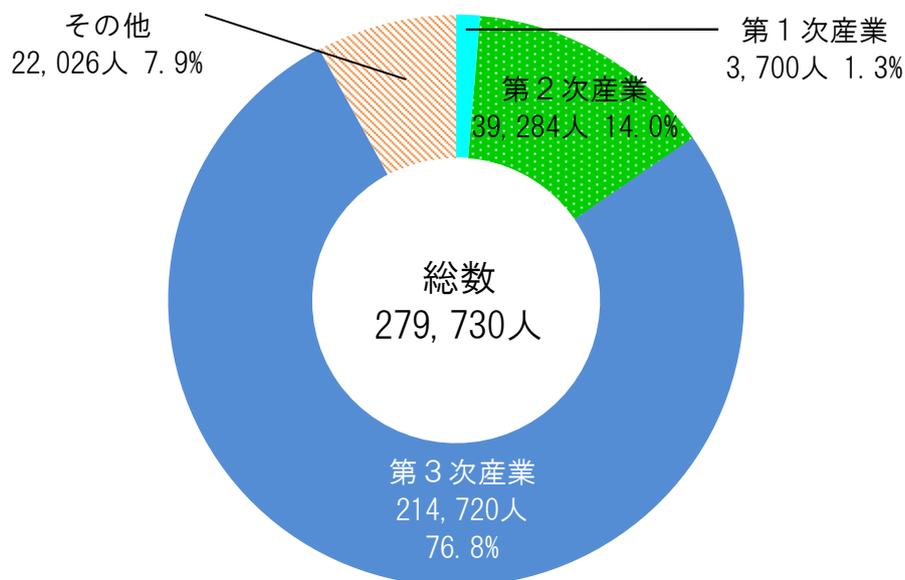
【データ】市、両性、全年齢、2005 年、2010 年

2 産業・観光・歴史・文化・教育・福祉・医療

■ 産業

鹿児島市の産業別就業人口をみると、第三次産業が約 8 割を占めています。（図 1-2）

図 1-2 産業別就業人口



【出典】国勢調査（総務省統計局）

【データ】市、両性、15 歳以上の就労者、2010 年

■ 観 光 ・ 歴 史 ・ 文 化

鹿児島市は、街中で気軽に楽しめる温泉や、芋焼酎、黒豚などの食、さつま切り子に代表される伝統工芸などの観光資源が豊富であり、南九州最大の祭り「おはら祭り」や約 15,000 発もの花火が打ち上がる花火大会などの魅力ある催しもあり、年間 950 万人が訪れる観光都市になります。

また、鹿児島市は、島津家の城下町として栄え、南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげてきました。19 世紀中頃には、ヨーロッパの機械文明をいち早く取り入れ、反射炉や溶鉱炉を作り、わが国における近代工業化の発祥の地となりました。

さらに、明治維新においては、原動力となった西郷隆盛や大久保利通などをはじめとして、数多くの偉人を輩出するなど、個性あふれる歴史と文化は独自の魅力として全国に広く知られています。



■ 教 育 ・ 福 祉 ・ 医 療

鹿児島市内には、幼稚園 49 園、小学校 81 校、中学校 45 校、高等学校 23 校、大学 6 校あり、幼稚園から大学まで教育施設が充実しています。

また、幼保連携型認定こども園 20 園や保育所 110 園、各種介護施設のほか、病院 98 施設、一般診療所 541 施設などあり、福祉、医療関係施設も充実しています。（表 1-3）

表 1-3 社会資源の状況

	種別	施設数
教育機関	幼稚園	49 園
	小学校（市立：78 校、国・私立：3 校）	81 校
	中学校（市立：39 校、国・私立：6 校）	45 校
	高等学校（市立：3 校、県・私立：20 校）	23 校
	大学	6 校
教育・福祉機関	幼保連携型認定こども園	20 園
福祉施設	保育所	110 園
	児童発達支援・放課後デイサービス	86 施設
	介護老人福祉施設	38 施設
	認知症対応型共同生活介護施設	115 施設
医療機関	病院	98 施設
	一般診療所	541 施設

【出典】鹿児島市関係課調べ 【データ】市、2015 年

第2章 セーフコミュニティへの取り組み

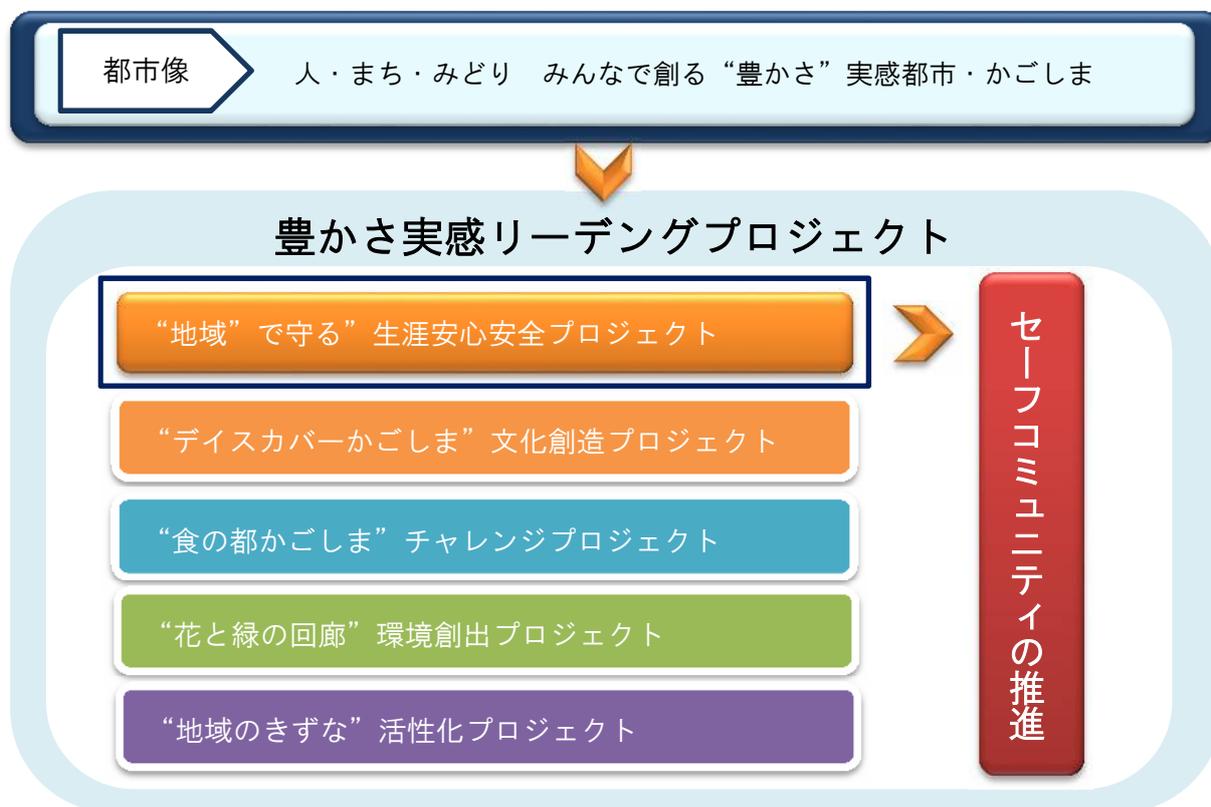
1 取り組みに至った経緯

鹿児島市では、2005年10月に「鹿児島市安心安全まちづくり条例」を制定し、自らの安全は自らで守るとの基本理念のもと、市と市民、事業者等が連携し、協働による安心安全なまちづくりを展開してきました。

しかしながら、甚大な被害が生じた東日本大震災や頻発する集中豪雨、高齢者や子どもが巻き込まれる交通死亡事故のほか、桜島の火山活動の活発化に伴う災害への不安などから、市民の安心安全に対する関心の一層の高まりや人口減少、地域力の低下など、社会環境の変化に対応するより積極的な取り組みが必要であると考えました。

そのため、鹿児島市では、2012年4月から10年間を計画期間とする第五次鹿児島市総合計画において、特に先導的かつ重点的に取り組む“地域で守る”生涯安心安全プロジェクトを立ち上げ、2013年1月に市長がセーフコミュニティの取組宣言を行い、これまで以上に、地域の多様な人材や資源の活用・活性化を図り、鹿児島市ならではの地域の特性を生かしたまちづくりを積極的に推進し、世界基準の安心安全都市を目指します。

図2-1 第五次鹿児島市総合計画（2012～2021年度）におけるセーフコミュニティの位置づけ



2 これまでの取り組み状況

年月	主要事項
2011. 1	・ セーフコミュニティに関する職員研修会の開催
2012. 1	・ 第五次鹿児島市総合計画を策定し、セーフコミュニティの推進を位置づける
4	・ 安心安全まちづくりアドバイザーを配置
8	・ 鹿児島市セーフコミュニティ検討委員会・作業部会を設置
	・ 事故やけがに関するアンケート調査を実施
11	・ 鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会、外傷サーベイランス委員会を設置
2013. 1	・ セーフコミュニティ取組宣言
2	・ セーフコミュニティ推進協議会にて7つの取組分野を決定
5	・ 分野別対策委員会（交通安全、学校の安全、子どもの安全、高齢者の安全、自殺予防、防災・災害対策）を設置
6	・ 鹿児島県警察本部にセーフコミュニティ支援推進委員会を設置
8	・ 分野別対策委員会（DV防止）を設置
9	・ 分野別対策委員会（DV防止、自殺予防を除く）のモデル地区を決定
10	・ 事故やけがに関するアンケート調査の実施
2014. 10	・ 鹿児島市セーフコミュニティ プレ現地審査を実施
11	・ 事故やけがに関するアンケート調査の実施

※ 国内外のネットワークとの交流については、指標7（P134～136）に記載

第3章 外傷による死亡・けがの状況

1 死亡の状況

(1) 病気を含めた死亡原因の状況

病気を含めた年齢層別死亡原因の状況をみると、幼少時は「不慮の要因」が上位にあり、中高年は三大疾病の「悪性新生物」、「心疾患」、「脳血管疾病」が上位を占めており、ほぼ全ての年齢層で「不慮の要因」が死亡原因の5位以内に入っています。

また、三大疾病を除くと、20歳～64歳では、「自殺」が1位となっています。（表3-1）

表3-1 年齢層別死亡原因の状況

() は人数

年齢(歳)	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0～4	不慮の要因(10)	悪性新生物	肺炎、肝疾患		心疾患、腎不全
5～9	悪性新生物	不慮の要因(3)	肺炎		
10～14	自殺、悪性新生物、腎不全(2)			不慮の要因(1)	
15～19	不慮の要因、悪性新生物(7)		自殺(6)	心疾患、腎不全	
20～24	自殺(24)	不慮の要因(12)	悪性新生物、心疾患		脳血管疾患、肝疾患
25～29	自殺(38)	不慮の要因(10)	心疾患	悪性新生物	脳血管疾患
30～34	自殺(40)	悪性新生物	不慮の要因(12)	心疾患	脳血管疾患
35～39	悪性新生物	自殺(39)	不慮の要因、心疾患(17)		脳血管疾患
40～44	悪性新生物	自殺(34)	心疾患	不慮の要因(17)	脳血管疾患
45～49	悪性新生物	心疾患	自殺、脳血管疾患(39)		肝疾患
50～54	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺(58)	不慮の要因(22)
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺(76)	不慮の要因、肝疾患(34)
60～64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺(62)	不慮の要因(45)
65～69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の要因(61)
70～74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の要因(64)
75～79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の要因(97)
80～84	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の要因(135)
85～89	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	腎不全
90～	肺炎	心疾患	脳血管疾患	悪性新生物	老衰
合計	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の要因(750)

【出典】かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

【データ】市、両性、全年齢、2008～2012年合計

(2) 不慮の要因による死亡の状況

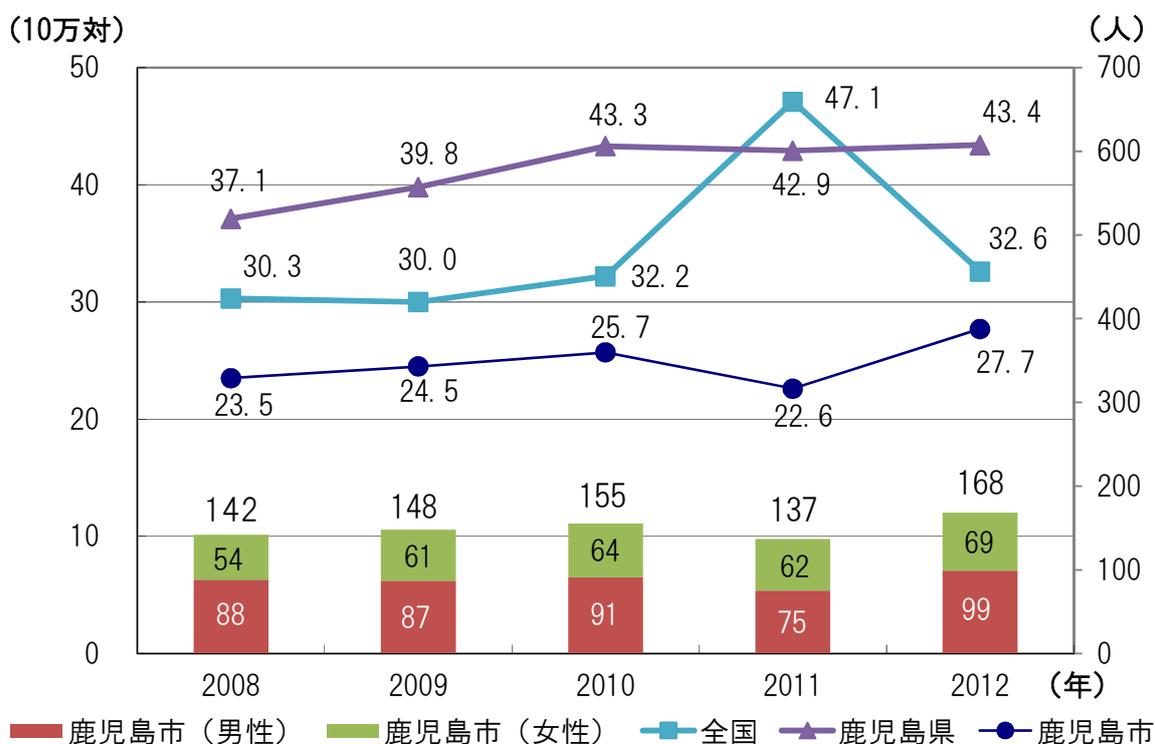
不慮の要因による死亡者の推移をみると、死亡者は年間に約 150 人前後で推移し、全国・鹿児島県と比較すると低くなっています。（図 3-1）

原因別でみると、「転倒・転落」が 22.8%で最も多く、次いで、「窒息」が 22.0%、「交通事故」が 16.7%となっています。（図 3-2）

年齢層別でみると、65 歳以上（高齢者）が約 7 割（545 人）を占めており、男女別でみると、男性が多く、男女ともに年齢層が高くなるほど、多くなる傾向があります。

また、65 歳以上の原因別では、「転倒・転落」、「窒息」の合計（273 人）が全原因別（545 人）の半数以上を占めています。（図 3-3）

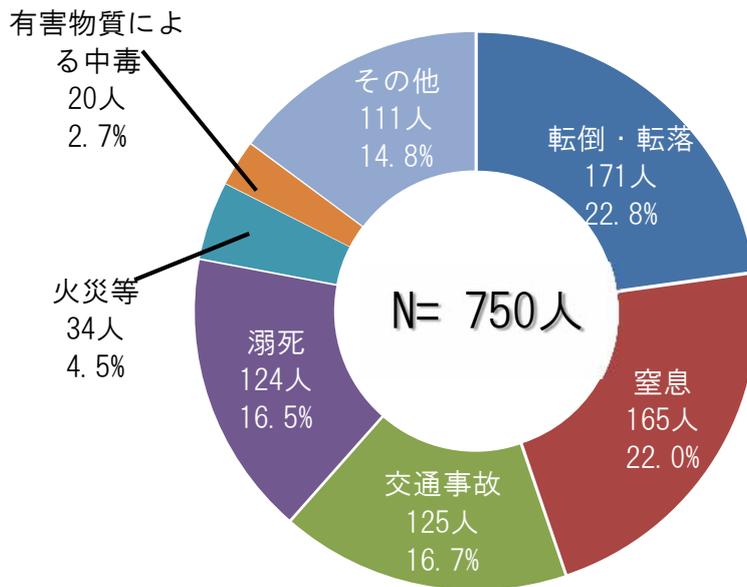
図 3-1 不慮の要因による死亡者の推移



【出典】 かがしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

【データ】 国、県、市、両性、全年齢、2008～2012 年

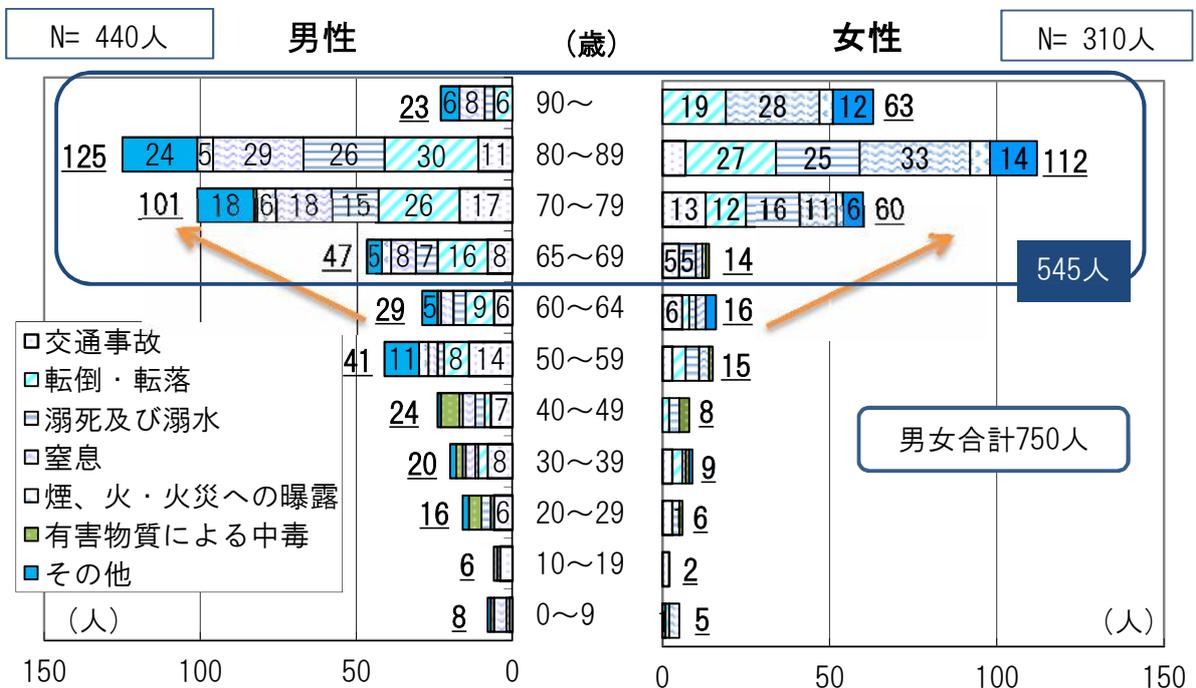
図 3-2 不慮の要因による原因別死亡者の状況



【出典】かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

【データ】市、両性、全年齢、2008～2012年合計

図 3-3 不慮の要因による男女別・年齢層別及び原因別死亡者の状況



【出典】かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

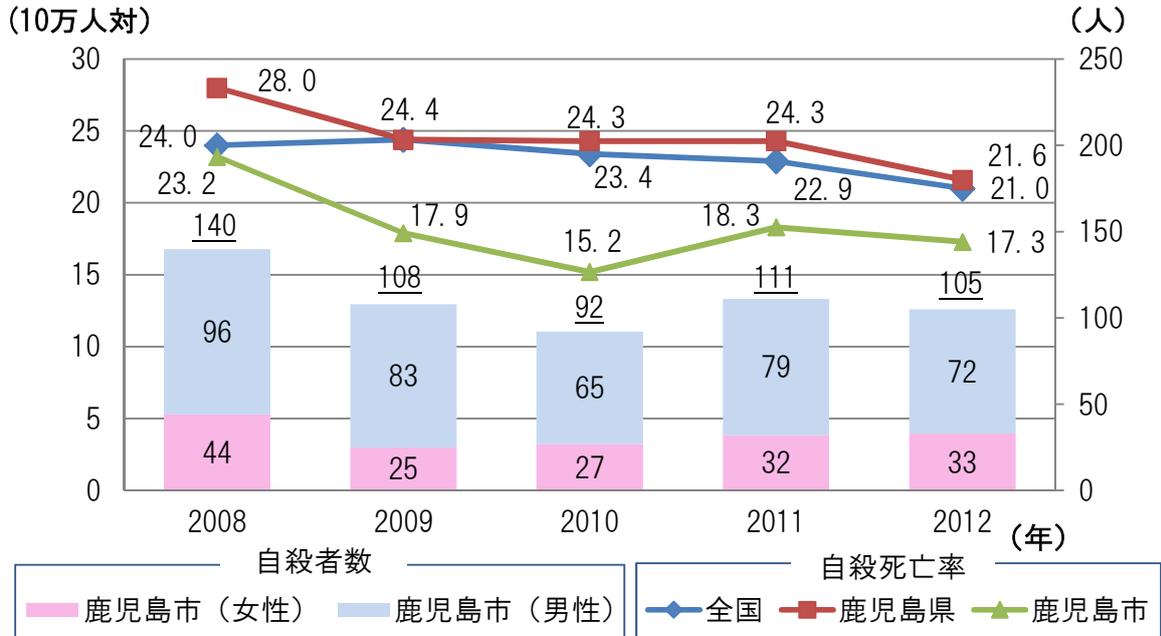
【データ】市、両性、全年齢、2008～2012年合計

(3) 自殺の状況

自殺者は年間に約 100 人で推移し、全国・鹿児島県と比較すると低くなっています。

(図 3-4) また、幅広い年代で自殺者がおり、中でも 50 歳代、60 歳代の男性の自殺が多く、男性が女性の 2 倍以上となっています。(図 3-5)

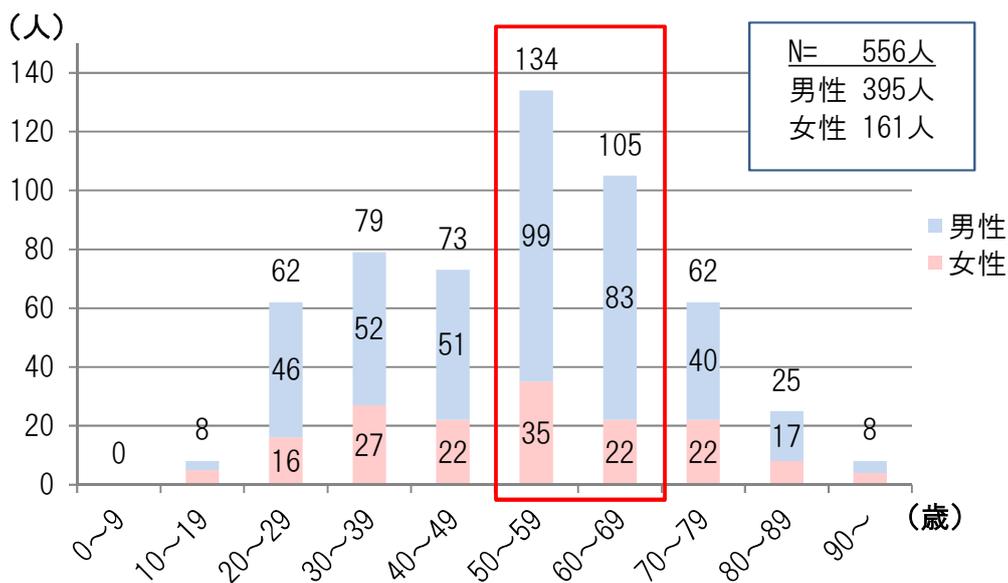
図 3-4 自殺者の推移



【出典】かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

【データ】国、県、市、両性、全年齢、2008 年～2012 年

図 3-5 年齢層別、男女別自殺者の状況



【出典】かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）（鹿児島市）

【データ】市、両性、全年齢、2008～2012 年合計

2 けがの状況

(1) 救急搬送によるけがの状況

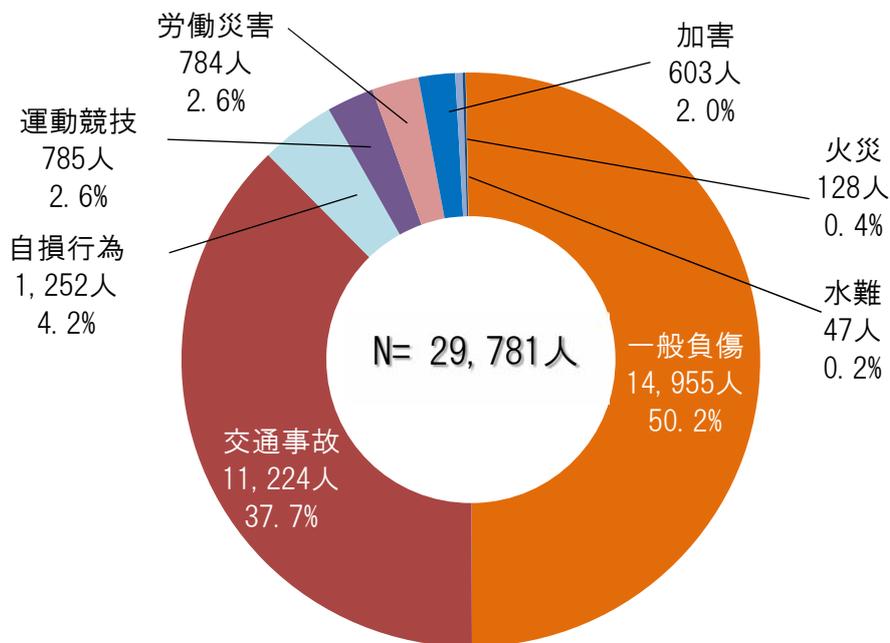
事故種別救急搬送の状況を見ると、「一般負傷」が50.2%で最も多く、次いで、「交通事故」が37.7%となっています。（図3-6）

年齢層別及び事故種別救急搬送の状況を見ると、65歳以上（12,012人）が約4割を占めており、0～6歳及び65歳以上では、転倒などの「一般負傷」が多く、それ以外の年齢層では「交通事故」が多くなっています。0～6歳では、「一般負傷」（1,236人）が約8割を占めており、0歳～17歳の救急搬送者（3,632人）の約3割を占めています。（図3-7）

救急搬送による「一般負傷」の内訳を見ると、「転倒」が約7割を占めています。

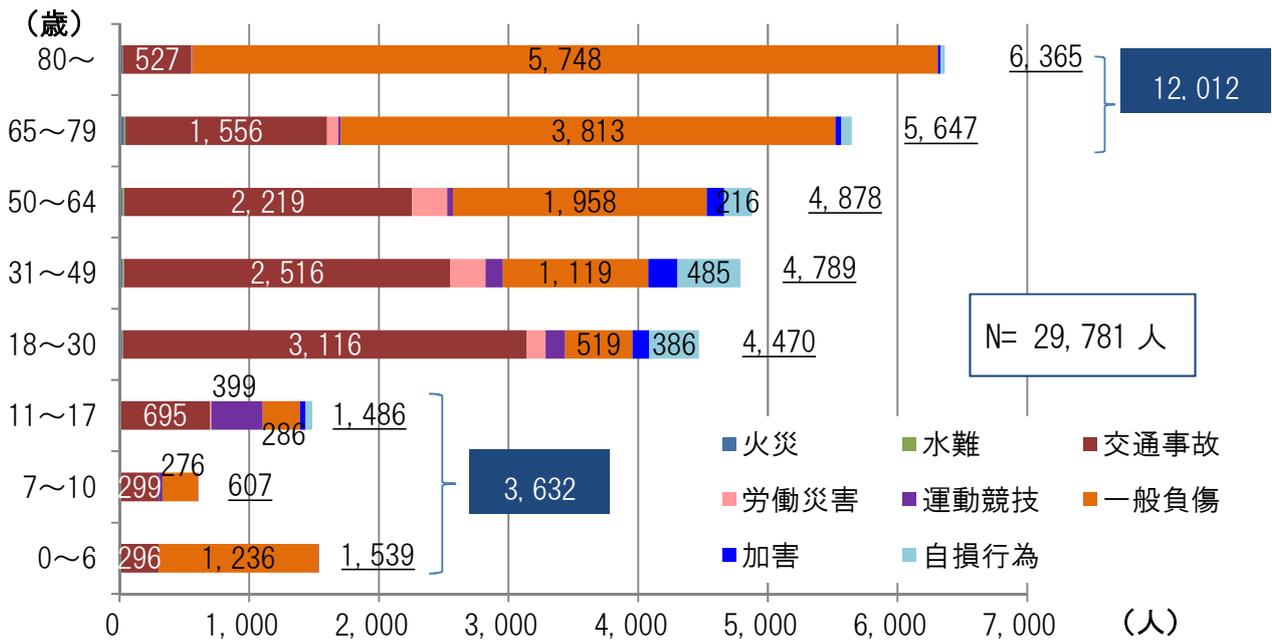
（図3-8）

図3-6 事故種別救急搬送の状況（急病、その他（転院転送など）を除く）



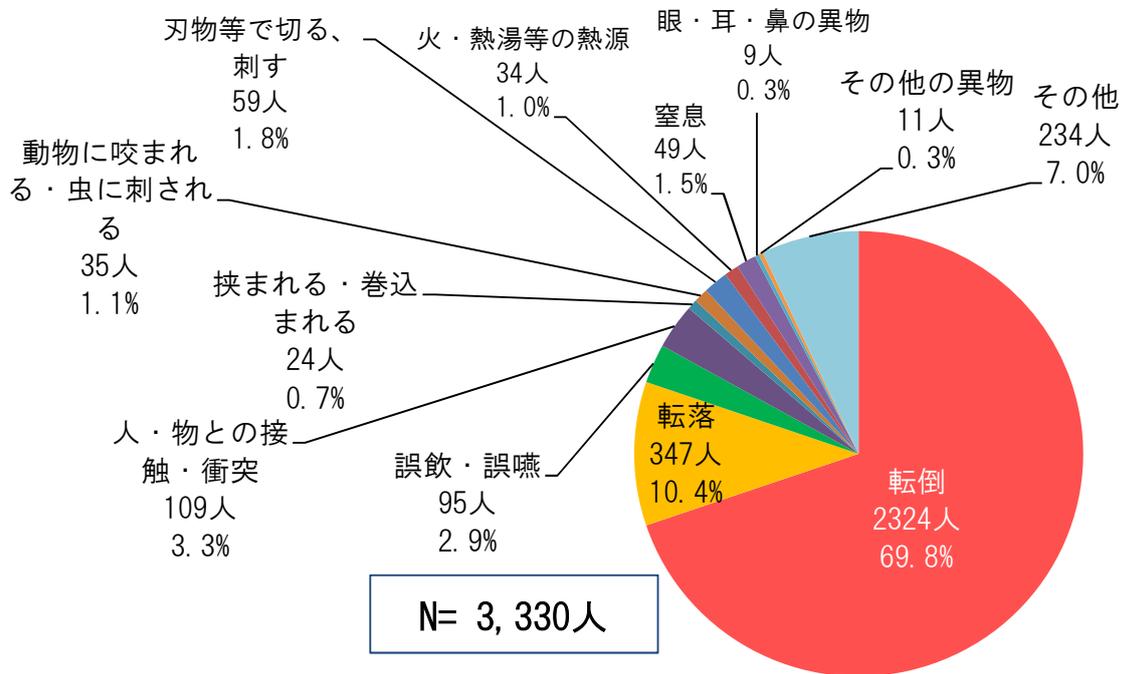
【出典】消防年報（鹿児島市）【データ】市、両性、全年齢、2010～2014年合計

図 3-7 年齢層別及び事故種別救急搬送の状況（急病、その他（転院転送など）を除く）



【出典】消防年報（鹿児島市）【データ】市、両性、全年齢、2010～2014年合計

図 3-8 救急搬送における「一般負傷」の内訳



【出典】市消防局調べ（市消防局）【データ】市、両性、全年齢、2014年4月～2015年3月合計

(2) アンケート調査から推計する鹿児島市の傷害発生の全体像

アンケート調査結果から得られた1年間のヒヤリハットや負傷による入院・通院の状況(表3-2)と人口動態統計データから、死亡に対し、約700倍のヒヤリハットが存在されると推測されます。(表3-3、図3-9)

表3-2 1年間における事故やけがの経験、入院、通院、ヒヤリ体験の状況 単位：人

区分	回答数	事故やけがの経験有	入院	通院	ヒヤリ
乳幼児	1,316	394	3	149	667
小中学生	1,274	353	4	194	517
一般	943	132	4	73	161
高齢者	1,420	196	32	99	107
全体	4,953	1,075	43	515	1,452

【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

【データ】市、両性、全年齢、2012年度

表3-3、図3-9 アンケートから推計する鹿児島市の傷害発生の全体像 単位：人

区分	人口	死亡実数	入院推計	通院推計	ヒヤリ推計
乳幼児	28,665	2	65	3,246	14,529
小中学生	57,585	3	181	8,769	23,368
一般	389,206	41	1,651	30,129	66,450
高齢者	129,664	109	2,922	9,040	9,770
全体	605,120	155	4,819	51,184	114,117

※ 各区分の人口は町丁別住民基本台帳人口(2013年3月末現在)による

※ 死亡については、2010年の人口動態統計から得られた実数になります。

入院、通院、ヒヤリハットについては、表3-2の調査結果を基に鹿児島市の人口に合わせて推計した数になります。



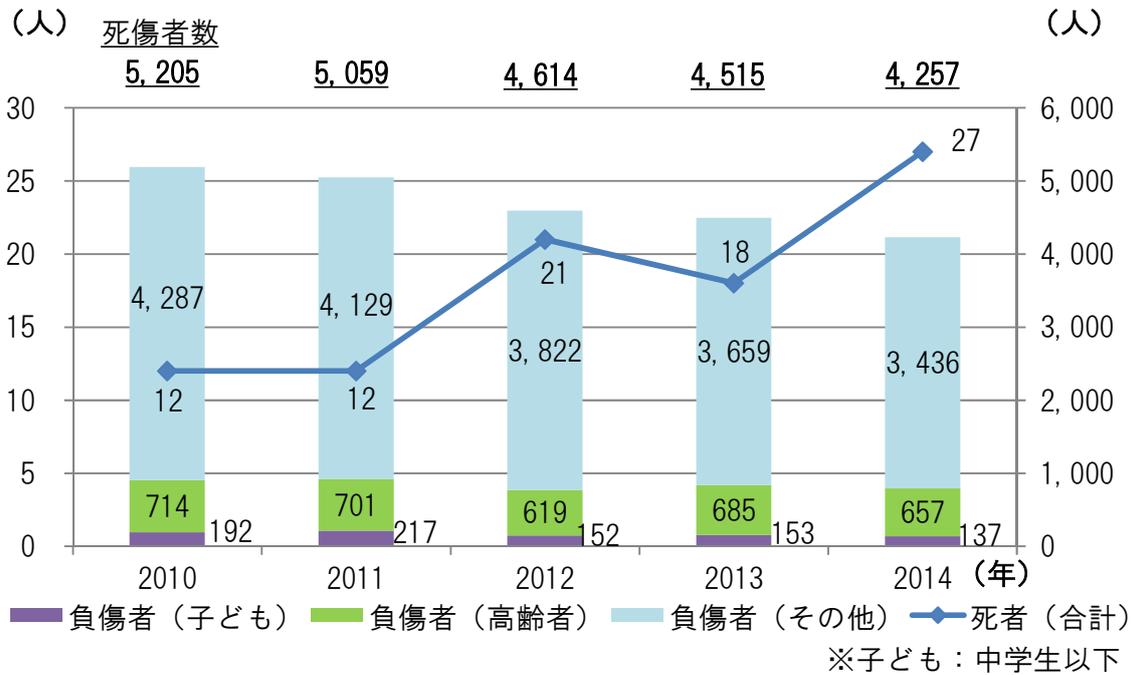
※死亡を1とした場合の比率

(3) 交通事故によるけがの状況

交通事故（市内三署）による死傷者の発生状況を見ると、年間4,000人以上が死傷し、毎年10人以上が死亡しています。（図3-10）

また、年間約2万件の交通事故が発生しています。（図3-11）

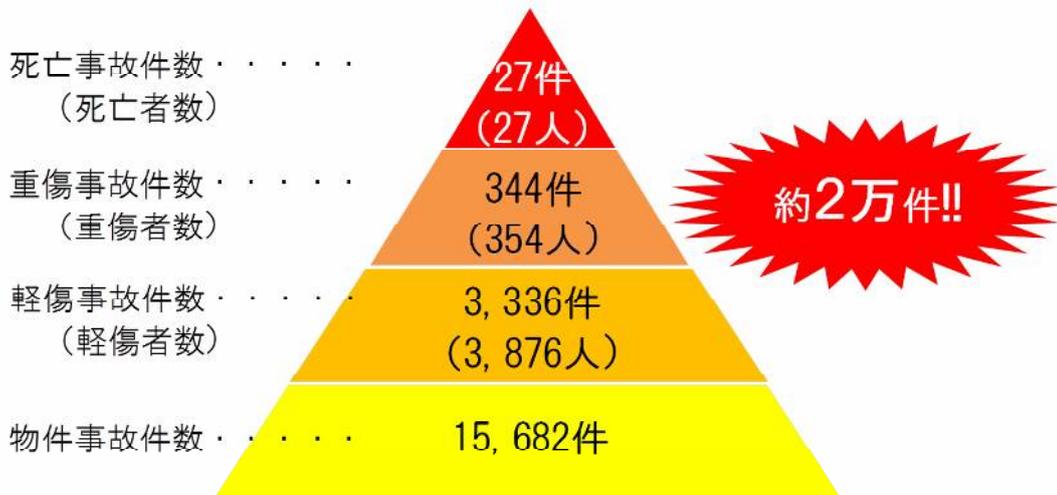
図3-10 交通事故（市内三署）による死傷者の発生状況



【出典】交通事故分析表（鹿児島県警察）

【データ】市内三署（高速道路を除く）、両性、全年齢、2010～2014年

図3-11 交通事故発生状況（物件事故を含む）



【出典】交通事故分析表（鹿児島県警察）

【データ】市内三署（高速道路を除く）、両性、全年齢、2014年

(4) 学校でのけがの状況

小中学生における事故等の場所別発生状況をみると、「学校」が45.3%で最も多く発生しています。(図3-12)

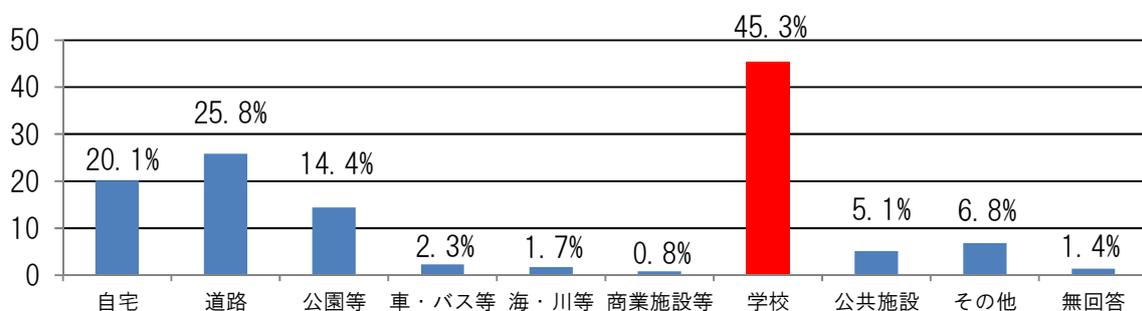
市立小中学生における学校内での事故等の状況をみると、2012年で年間3,349件の事故が発生し、小学生で約17人に1件、中学生で約12人に1件の割合でけがによる治療を受けています。(図3-13、P17表3-4)

いじめの認知件数は2012年度に大幅に増加しましたが、その後、減少傾向にあります。

(P17表3-5)

※ 2012年度は、詳細な項目による調査を実施し、「からかい」などの軽微なものについても件数として計上したことにより、大幅に増加したものと考えられます。

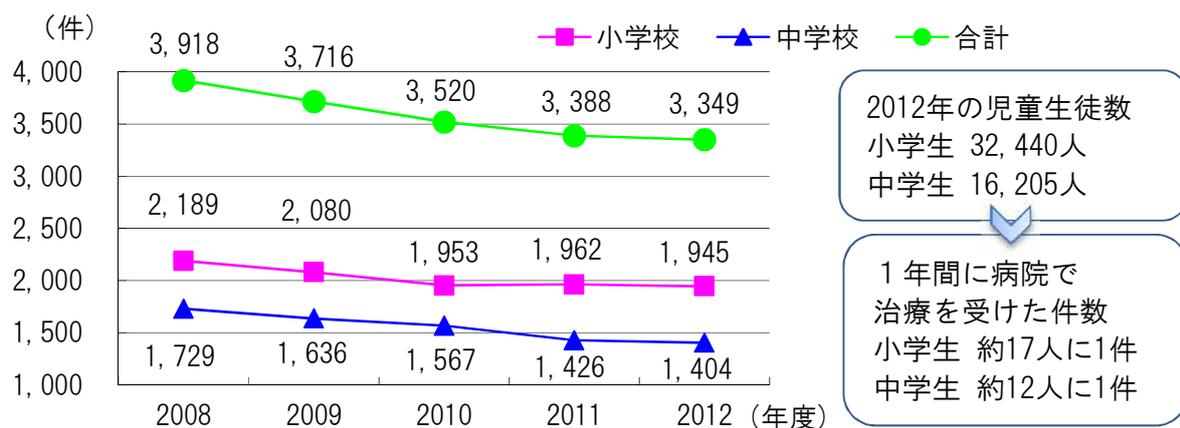
図3-12 小中学生における場所別事故等の発生状況



【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

【データ】市、両性、小中学生、2012年度

図3-13 市立小中学生における学校内事故等の状況



【出典】日本スポーツ振興センター

【データ】市、両性、市立小中学生、2008~2012年度

表 3-4 市立小中学校の児童生徒数 (人)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
小学生	33,013	32,878	32,816	32,655	32,440
中学生	17,109	16,743	16,397	16,365	16,205

【出典】鹿児島市の教育（市教育委員会）

【データ】市、両性、市立小中学生、2008～2012 年度

表 3-5 市立小中学校におけるいじめ認知件数 (人)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
小学校	36	30	43	20	14,043	777
中学校	94	88	85	58	4,134	676
合 計	130	118	128	78	18,177	1,453

【出典】鹿児島市の教育（市教育委員会）

【データ】市、両性、市立小中学校、2008～2013 年度

(5) 加害によるけがの状況

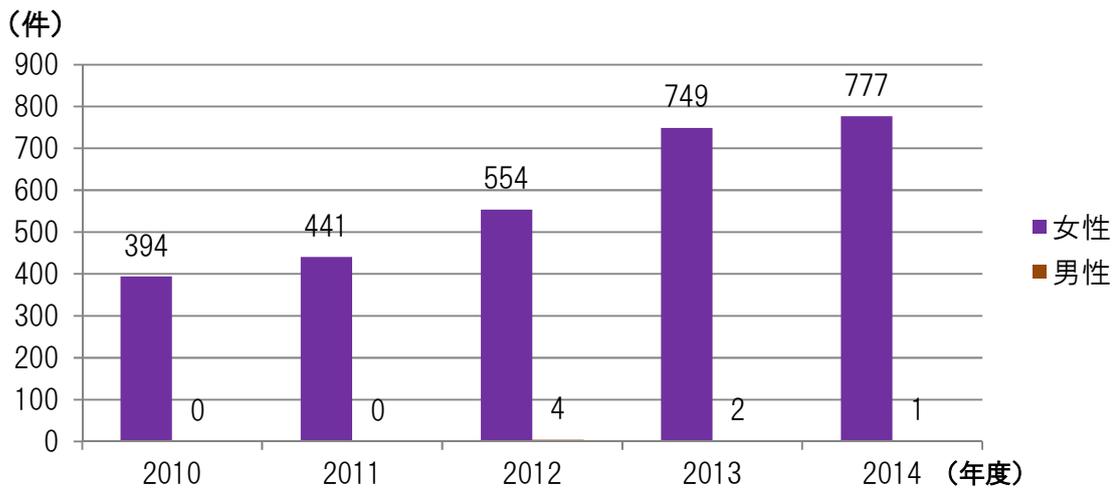
DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談件数は年々増加傾向にあり、特に2013年度は、配偶者暴力相談支援センターを新たに開設したこともあり、2012年度と比べて1.3倍以上となっており、2010年度と比べると約2倍近く増加しています。（図 3-14）2014年度は、あらゆる年齢層からの相談があり、中でも30代、40代の相談が多くなっている一方で、10代、20代の相談は少ない状況です。（図 3-14②）また、身体的な暴力を受けた経験のある女性の割合は30.3%あり、これは全国・鹿児島県よりも高い状況にあります。（図 3-15）

児童虐待に関する相談は年間200件以上あり（図 3-16）、これを年齢別にみると、就学前児童が約56%と最も多くなっています。（図 3-17）

高齢者（65歳以上）虐待相談対応件数は、70件程度で、年々増加傾向にあります。

（図 3-18）

図 3-14 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する男女別相談件数の状況

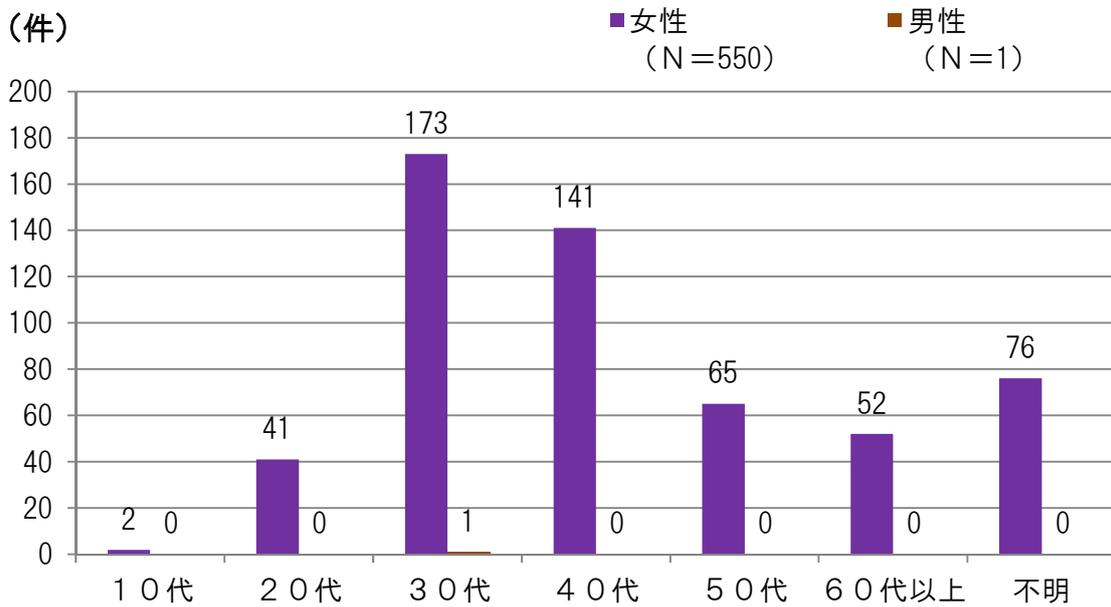


【出典】鹿児島市DV相談件数統計（鹿児島市）

【データ】市、両性、10歳以上、2010～2014年度

図 3-14② サンエールかごしまの年代別DV等相談件数実績

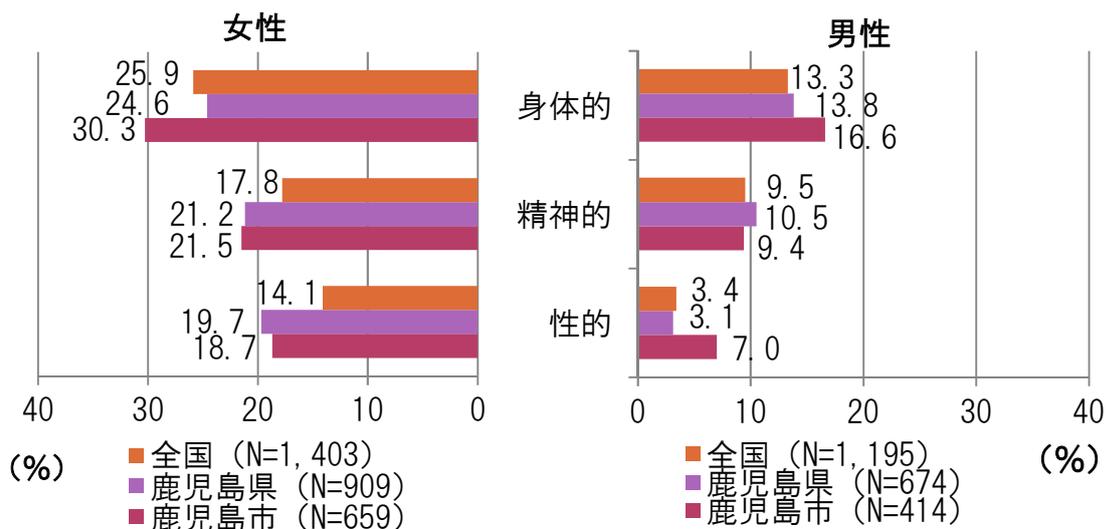
※ DV・デートDV以外の13件を含む



【出典】鹿児島市DV相談件数統計（鹿児島市）

【データ】市、両性、10歳以上、2014年度

図 3-15 配偶者からのDV被害の経験の有無（回答：何度もあった及び1・2度あった）



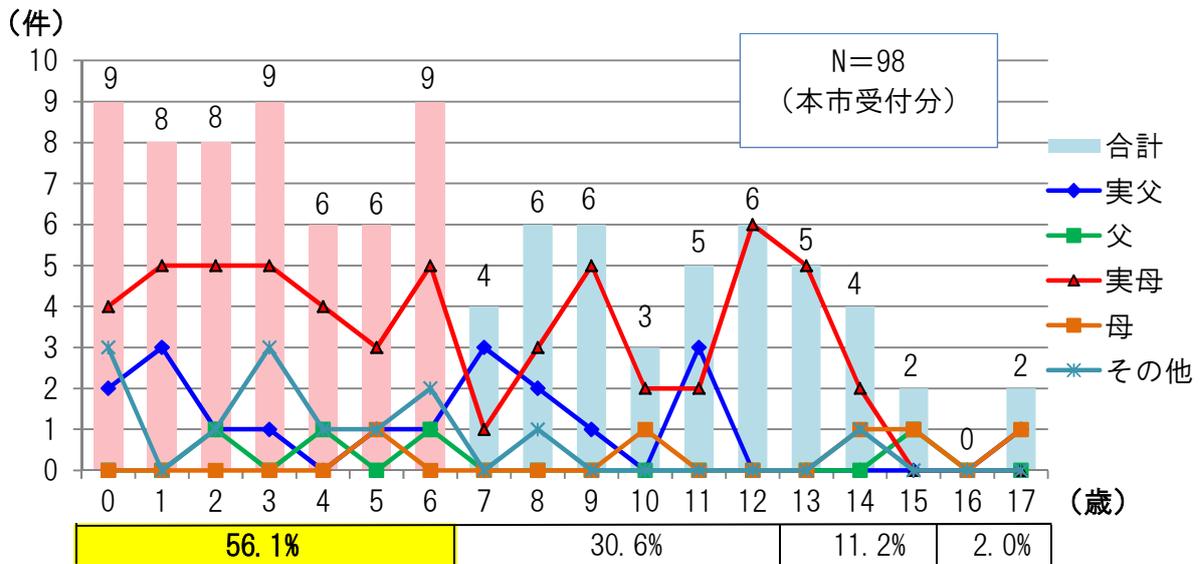
【出典】男女間における暴力に関する調査（国）【データ】国、両性、20歳以上、2012年度
 【出典】鹿児島の男女の意識に関する調査（県）【データ】県、両性、20歳以上、2012年度
 【出典】鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査（市）
 【データ】市、両性、20歳以上、2010年度

図 3-16 児童虐待に関する相談受付件数、児童虐待認定件数の状況



【出典】市こども福祉課調べ（県児童相談所受付の本市分及び本市受付合算件数）
 【データ】市、両性、0～18歳、2009～2014年度

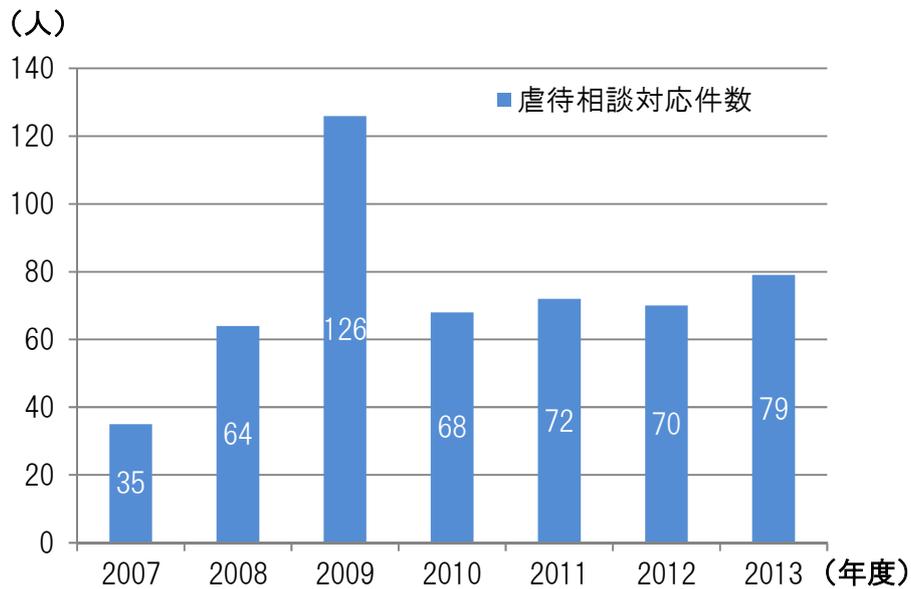
図 3-17 児童虐待による年齢別被虐待児の状況



【出典】市こども福祉課調べ（県児童相談所受付の本市分及び本市受付合算件数）

【データ】市、両性、0～18歳、2014年度

図 3-18 高齢者虐待相談対応件数の状況



【出典】かごしま市の保健と福祉（鹿児島市）

【データ】市、両性、65歳以上、2007～2013年度

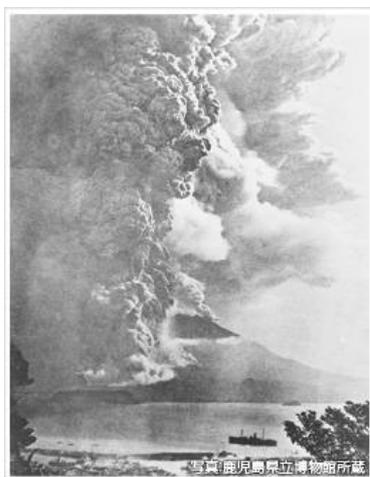
※ 2009年度は、高齢者虐待対応マニュアルが整備されたことにより、これまで報告されていなかったものも報告され、件数が伸びたものと考えられます。

(6) 災害によるハイリスク環境の状況

桜島は、1914年の大正噴火から100年が経過し、マグマの蓄積状況から同様の噴火が起こる可能性が高まっています。大噴火が起こると、大量の噴石・降灰、火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがあります。（写真3-1、図3-19）

また、桜島には、約4,500人が生活しているほか、国内外から多くの観光客が訪れていますが、大隅半島とつながる桜島口を除き周囲55kmを海に囲まれ、1本しかない外周道路が寸断されれば孤立する恐れがあります。（図3-20）

写真3-1 桜島大正噴火の教訓



火砕流



降灰



溶岩流

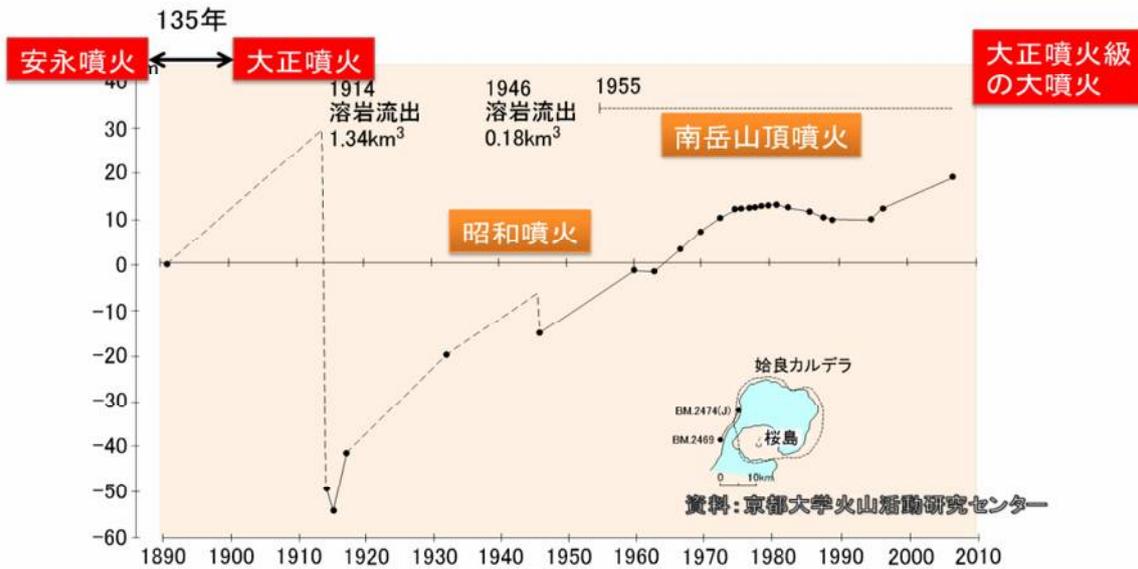


地震

[桜島大正噴火の被害状況]

- 1914年1月12日の大噴火と地震（マグニチュード7.1）により、甚大な被害が発生
- ・ 死者・行方不明者：58名
 - ・ 負傷者：112名
 - ・ 家屋焼失：2,148棟
 - ・ 家屋全半壊：315棟

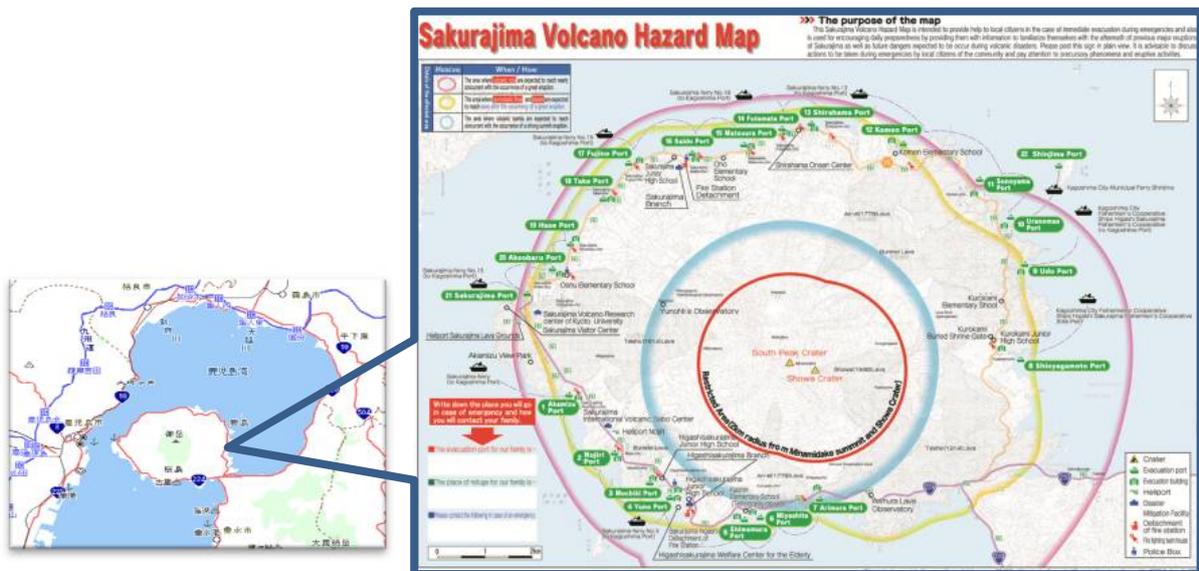
図 3-19 迫る次の大噴火<マグマの蓄積>



[始良カルデラ周辺の地盤の昇降]

- ・ グラフは桜島火山へマグマを供給している始良カルデラ周辺の地盤の昇降を示したものの
- ・ 大正噴火の大量の溶岩流出により地盤が約 90 cm 下がり、その後、マグマの蓄積により地盤は上昇。
- ・ 現在、大正噴火が起こる前の約 9 割まででマグマが蓄積しており、このまま 2020 年代には大正噴火レベルまで戻ることが推定されている。

図 3-20 桜島の地理的要因

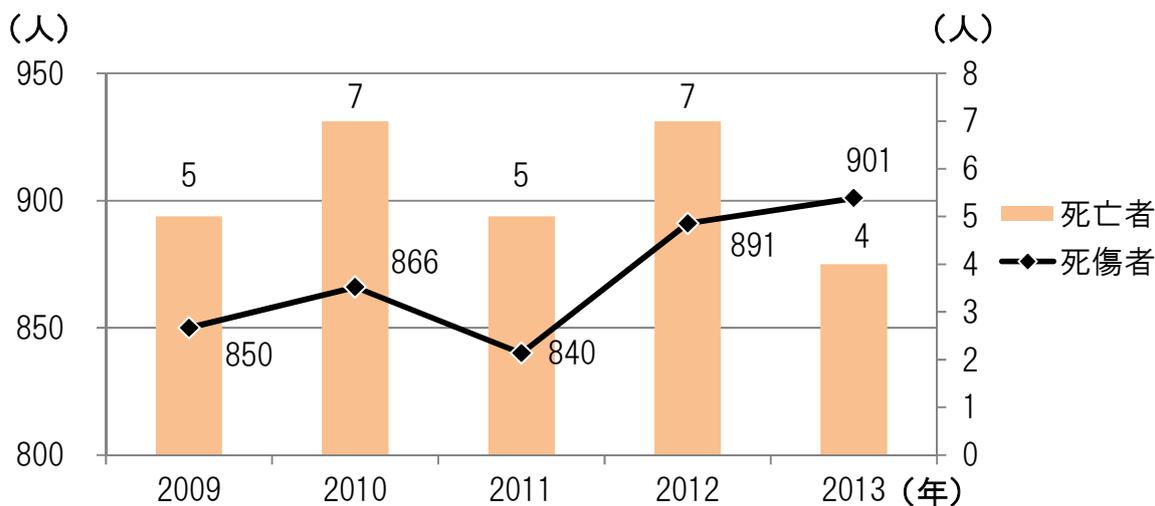


(7) 労働によるけがの状況

労働による死亡者の状況を見ると、5人前後で推移しているが、死傷者の状況を見ると、2012年、2013年と増加傾向となっています。（図3-21）

死傷者の状況を業種別で見ると、「製造業」が17.6%と最も多く、次いで「商業」が16.9%、「建設業」が16.1%となっています。（図3-22）

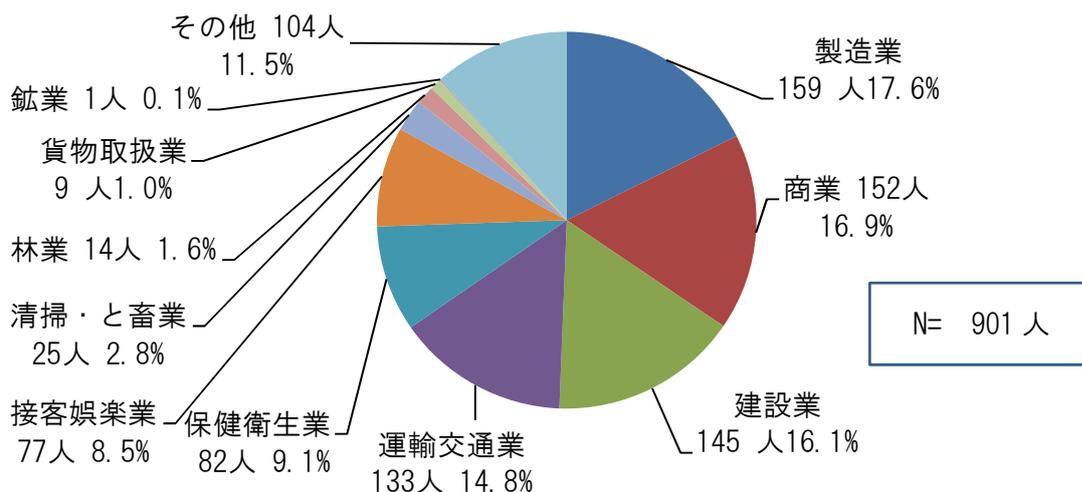
図3-21 労働による死亡者・死傷者の状況



【出典】 署別・業種別労働災害発生状況（鹿児島労働局）

【データ】 鹿児島労働基準監督署管内就業者、両性、全年齢、2009～2013年

図3-22 労働による業種別死傷者の状況



【出典】 署別・業種別労働災害発生状況（鹿児島労働局）

【データ】 鹿児島労働基準監督署管内就業者、両性、全年齢、2013年

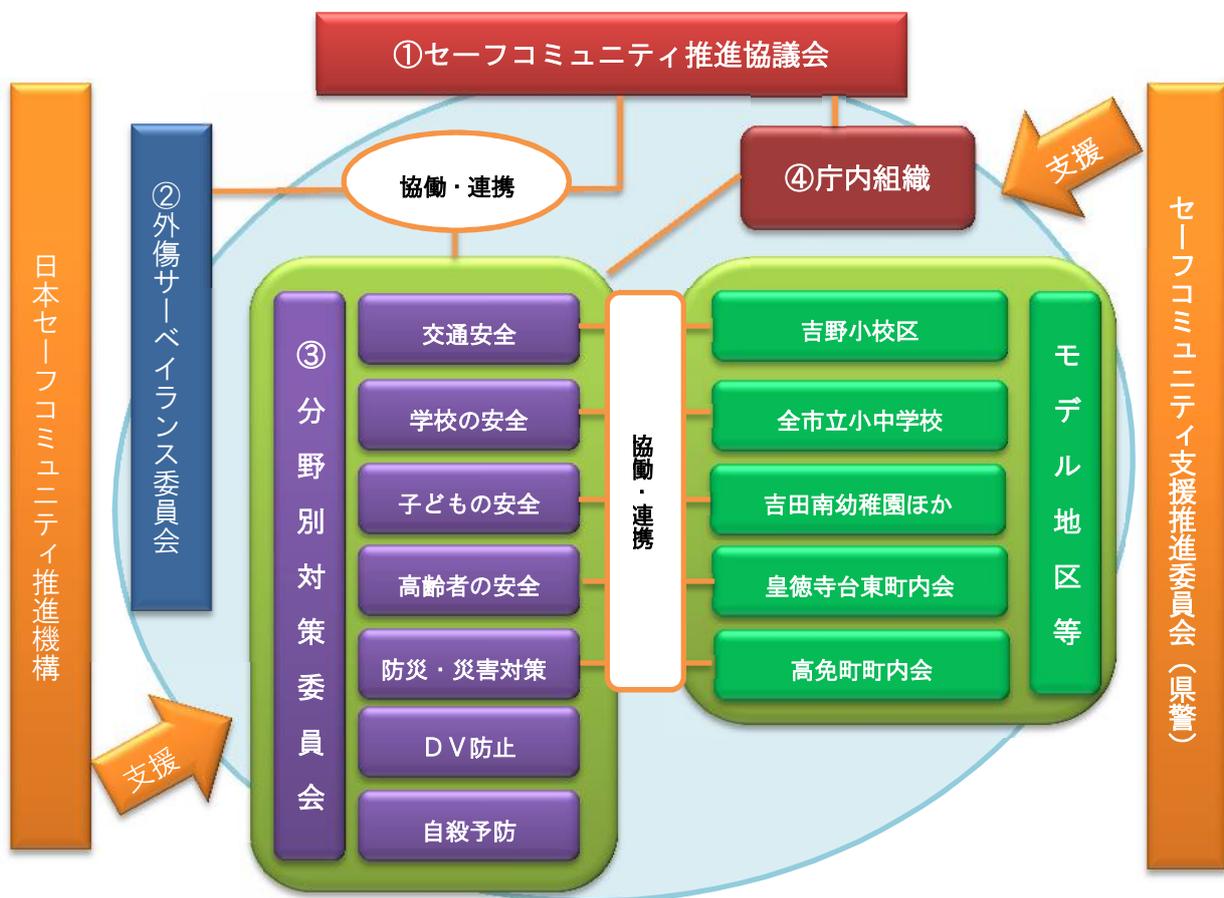
第4章 7つの指標に基づいた取り組み

指標1 横断的な組織による協働・連携

(1) セーフコミュニティ活動の推進体制

鹿児島市では、安心安全なまちづくりに携わる様々な団体等で構成する推進組織を設置し、分野を越えた協働・連携を推進しています。

また、日本セーフコミュニティ推進機構からの専門的な助言・指導や活動の外部評価などの様々な支援のほか、鹿児島県警察から各対策委員会への委員就任や情報共有などの支援を受けながら、セーフコミュニティ活動を推進しています。



① 鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会

【構成】 安心安全なまちづくりに携わる関係団体等の代表者等で構成 29人

会長：鹿児島市長

- 【役割】
- ・セーフコミュニティ推進の方針の決定
 - ・セーフコミュニティ活動の総括的な評価
 - ・分野別対策委員会の取組施策に関する指示・助言

【開催回数】 13回



表 4-1-1 推進協議会の委員構成

委員構成	
地域団体等	市交通安全母の会、市PTA連合会、市老人クラブ連合会、市あいご会連合会、市地域婦人会連絡協議会、NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず、鹿児島県防犯協会、市民生委員児童委員協議会、市身体障害者福祉協会、市レクリエーション協会、鹿児島県弁護士会、鹿児島商工会議所
医療関係機関等	鹿児島県助産師会、鹿児島市医師会、鹿児島県看護協会、
教育機関等	鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島女子短期大学
専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構
行政機関	鹿児島県鹿児島地域振興局、鹿児島県警察本部、市（市民局、企画財政局、健康福祉局、消防局、教育委員会、市立病院）

② 外傷サーベイランス委員会

【構成】 保健、医療、消防等の関係機関で構成 8人

委員長：鹿児島市保健所長

- 【役割】
- ・外傷データ等の収集、分析
 - ・評価の仕組みづくり
 - ・分野ごとの取り組み評価の検証
- （詳細については、指標 5（P109～113）に記載）

【開催回数】 14回



表 4-1-2 外傷サーベイランス委員会の委員構成

委員構成	
地域団体等	高齢者介護予防協会かごしま
医療関係機関等	市医師会
教育機関等	志學館大学
専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構
行政機関	鹿児島県警察本部、市（保健所、消防局、市立病院）

③ 分野別対策委員会

【構成】・7つの重点課題（取組分野）ごとに設置

・地域組織や各分野に関係する地域住民・団体、関係機関等で構成

※ 表 4-1-3 のとおり

【役割】・課題の分析

・重点課題の解決に向けた取組施策の検討

・取組施策の実施、検証・評価



表 4-1-3 対策委員会の委員構成及び開催状況 ※ ◎は委員長

対策委員会	委員構成	
交通安全 (22人) 【開催回数】 14回 2013年度：6回 2014年度：6回 2015年度：2回	住民組織	吉野校区安心安全ネットワーク会議
	地域団体等	◎鹿児島県交通安全協会、鹿児島県交通安全協会鹿児島中央地区協会、市PTA連合会、市交通安全母の会、日本自動車連盟鹿児島支部、市老人クラブ連合会、志學館大学学生
	行政機関等	鹿児島県警察本部交通部交通企画課、鹿児島中央警察署交通課、鹿児島西警察署交通課、鹿児島南警察署交通課、鹿児島国道事務所交通対策課、鹿児島県鹿児島地域振興局建設部土木建築課、市（安心安全課、地域振興課、長寿支援課、子育て支援推進課、道路建設課、消防局警防課、教育委員会保健体育課）
学校の安全 (18人) 【開催回数】 11回 2013年度：4回 2014年度：5回 2015年度：2回	学識経験者	◎鹿児島大学教育学部
	地域団体等	市PTA連合会、発表校PTA、鴨池・南防犯パトロール隊
	行政機関等	鹿児島中央警察署生活安全課、市（小学校校長代表、中学校校長代表、小学校安全担当者代表、中学校安全担当者代表、発表校校長、発表校安全担当者、消防局警防課、教育委員会総務課・施設課・学校教育課・保健体育課・青少年課・生涯学習課）

子どもの安全 (17人) 【開催回数】 13回 2013年度：4回 2014年度：6回 2015年度：3回	学識経験者	◎鹿児島女子短期大学
	地域団体等	市民生委員児童委員協議会、鹿児島子どもの虐待問題研究会、大竜地区民生委員児童委員協議会、市母親クラブ連絡協議会
	医療関係機関等	市医師会、鹿児島県看護協会、市社会福祉協議会
	教育機関等	市保育園協会、市私立幼稚園協会
	行政機関	市（子育て支援推進課、保育課、母子保健課、こども福祉課、地域福祉課、教育委員会保健体育課、消防局警防課）
高齢者の安全 (15人) 【開催回数】 14回 2013年度：5回 2014年度：7回 2015年度：2回	住民組織	皇徳寺台東町内会
	地域団体等	市老人クラブ連合会、高齢者介護予防協会かごしま、市民生委員児童委員協議会、市社会福祉協議会、 ◎介護支援専門員協会鹿児島、鹿児島県社会福祉士会、市訪問看護ステーション連絡協議会、認知症の人と家族の会鹿児島支部、市食生活改善推進員連絡協議会、市健康づくり推進員協議会
	行政機関	市（長寿支援課、介護保険課、地域福祉課、保健所保健予防課）
DV防止 (16人) 【開催回数】 10回 2013年度：3回 2014年度：5回 2015年度：2回	学識経験者	◎鹿児島県助産師会
	地域団体等	鹿児島県母子生活支援施設協議会、鹿児島県弁護士会両性の平等に関する委員会、DV被害者支援ゆうすげの会、鹿児島大学サークル「ピア☆ぴあ☆かごしま」（デートDVの予防活動を行う学生ボランティア団体）
	医療関係機関等	市医師会、鹿児島県臨床心理士会
	行政機関	鹿児島県警察本部生活安全部生活安全企画課ストーカー・配偶者暴力対策室、鹿児島中央警察署生活安全課、鹿児島西警察署生活安全課、鹿児島南警察署生活安全課、鹿児島県県民生活局青少年男女共同参画課男女共同参画室、鹿児島県女性相談センター、市（健康福祉局子育て支援部、教育委員会教育部、市民局市民文化部）

自殺予防 (25人) 【開催回数】 10回 2013年度：3回 2014年度：5回 2015年度：2回	地域団体等	◎鹿児島いのちの電話協会、NPO法人いじめ対策プロジェクト、鹿児島商工会議所、鹿児島県弁護士会、鹿児島県司法書士会、市社会福祉協議会、市民生委員児童委員協議会、鹿児島地域産業保健センター
	医療関係機関等	市医師会、市薬剤師会、鹿児島県看護協会鹿児島地区、鹿児島県精神保健福祉士協会、鹿児島県臨床心理士会
	行政機関	鹿児島労働基準監督署安全衛生課、鹿児島県精神保健福祉センター、鹿児島中央警察署生活安全課、鹿児島南警察署生活安全課、鹿児島西警察署生活安全課、市（市民局市民文化部、健康福祉局すこやか長寿部、健康福祉局福祉部、保健所、市立病院総務課、消防局総務課、教育委員会教育部）
防災・災害対策 (20人) 【開催回数】 11回 2013年度：4回 2014年度：5回 2015年度：2回	住民組織	高免町町内会、◎桜洲校区公民館運営審議会
	学識経験者	京都大学防災研究所火山活動研究センター
	防災機関	市消防団、鹿児島地方气象台、自衛隊鹿児島地方協力本部広報企画室、鹿児島県警察本部警備課
	行政機関	鹿児島県危機管理局危機管理防災課、市（危機管理課、地域振興課、市民局市民文化部東桜島支所、市民局桜島支所総務市民課、地域福祉課、桜島保健福祉課、建設局管理部管理課、消防局警防課、交通局総務課、水道局総務課、船舶局、教育委員会事務局教育部保健体育課）

④ 鹿児島市役所内部組織（検討委員会、作業部会）

■検討委員会

【設置】 市役所の組織内におけるセーフコミュニティ推進の方針決定や各分野間の連携を図るため設置

【構成】 セーフコミュニティ関係部・課長で構成 21人

委員長：市民局危機管理部長

【役割】 セーフコミュニティ推進協議会に提案するセーフコミュニティ推進の方針の協議・検討や実施に係る連携・調整

【開催回数】 9回

■作業部会

【設置】 各分野に関係する庁内組織の連携を図るため、分野別に設置

【構成】 各分野に関係する課・係長等で構成 91人（延べ人数）

部会長：各分野担当事務局の課長等

【役割】 ・課題の分析

・重点課題の解決に向けた取組施策の検討、実施に係る連携・調整

【開催回数】 22回

(2) セーフコミュニティ普及啓発活動

鹿児島市では、セーフコミュニティ活動を推進していくために、セーフコミュニティの普及啓発活動にも力を入れています。

①横断幕やのぼり旗、啓発ベストの作成・活用

セーフコミュニティ活動を周知するため、横断幕やのぼり旗、啓発ベストを作成し、イベントなどで活用しています。



横断幕



のぼり旗



啓発ベスト

②様々な媒体による広報活動

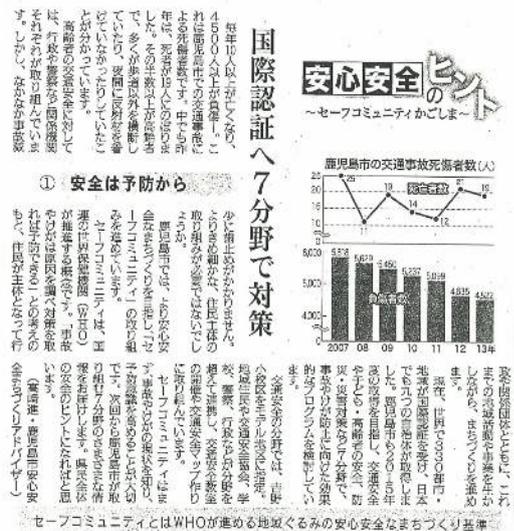
多くの市民にセーフコミュニティ活動を周知するため、鹿児島市の全世帯に配布する広報紙「市民のひろば」や市ホームページ等を活用し、周知しています。

また、セーフコミュニティの取り組み等を掲載したパンフレットの配布や地方紙（南日本新聞）にセーフコミュニティ関連記事を掲載（2014年7月から2015年4月まで18回掲載）しています。

さらに、各分野では、交通安全マップを掲載したパンフレットの配布や自殺予防のための相談窓口案内ポスターを鹿児島市の電車への掲出なども行っています。



広報パンフレット



地方紙 ※南日本新聞 2014年7月21日掲載

(3) モデル地区等の取り組み

鹿児島市では、重点課題の解決に向けた取り組みを実施するモデル地区等（DV防止、自殺予防分野を除く）を設定し、各対策委員会との連携・協働による取り組みを展開しています。

モデル地区等での取り組みを評価し、その評価を基に工夫・改善を行い、モデル地区等におけるセーフコミュニティの手法に基づく取り組みを市全域に広めていくこととしています。

(表 4-1-5)

表 4-1-5 モデル地区等の設置状況

対策委員会	モデル地区等
交通安全対策委員会	吉野小校区
学校の安全対策委員会	全市立小中学校 ※小学生：満7～12歳 中学生：満13～15歳
子どもの安全対策委員会	吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネット Early Years Center (母親クラブ)
高齢者の安全対策委員会	皇徳寺台東町内会
防災・災害対策委員会	高免町町内会

指標2 両性、全年齢、さまざまな環境をカバーする長期・継続的な取り組み

(1) 予防活動の全体像

鹿児島市では、これまでも安心安全に関する取り組み（128事業）が行われており、全ての性別、年齢、環境に対する予防活動を実施しています。下表の各環境・年齢層における上段の数値は、対策の数を示しています。また、それぞれに代表的な対策を選んで、次ページ以降で説明しています。下段のアルファベットは、次ページ以降の個々の対策に対応しています。

表 4-2-1 年齢層別・環境別予防活動数

		子ども 0～14歳	青年 15～24歳	成人 25～64歳	高齢者 65歳以上
不慮の要因	①交通安全（12事業）	12	10	10	10
		A、B	A	A	A
	②家庭、余暇時間の安全（9事業）	7	7	7	6
		C、D	C、D	C、D	C、D
	③子どもの安全（7事業）	7	1	/	/
		E、F	E		
	④高齢者の安全（15事業）	/	/	/	15
					G、H
	⑤労働安全（5事業）	/	5	5	4
			I、J	I、J	I、J
	⑧防災及び災害対策（23事業）	23	23	23	23
		K、L	K、L	K、L	K、L
	⑨公共（場）の安全（20事業）	20	20	19	19
M、N		M、N	M、N	M、N	
⑩病院の安全（1事業）	1	1	1	1	
	O	O	O	O	
⑪スポーツの安全（4事業）	2	2	1	2	
	P	P、Q	Q	Q	
⑫水の安全（4事業）	4	4	4	4	
	R	R	R	R	
⑬学校の安全（12事業）	12	12	/	/	
	S、T	S、T			
意図的要因	⑥暴力予防（12事業）	8	11	5	6
		U、V	U、V	V	V、W
⑦自殺予防（4事業）	4	4	4	4	
	X、Y	X、Y	X、Y	X、Y	

※ 各年齢層の対策の数には、全年齢に対する取り組み及び複数の環境に対する取り組みも含まれます。

※ 取り組みについては、基本的に両性を対象としています。

(2) 主な予防活動

ここでは、鹿児島市で実施されている主な予防活動をご紹介します。

①交通安全

A：交通安全教室

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	交通事故防止	市民等の交通安全の知識、技能の普及並びに意識の高揚を図るため、学校、幼稚園、町内会、老人クラブ等において、横断歩道の正しい横断方法の指導等を行います。	鹿児島県交通安全協会、鹿児島県警察、日本自動車連盟、鹿児島市等

B：児童通学保護員の設置

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども	登校時における児童・園児の交通事故防止	通学児童の登校時等における道路交通の安全を保持するため、児童・園児の保護誘導及び通行方法の指導を行います。	鹿児島市、児童通学保護員

②家庭、余暇時間の安全

C：公園維持管理、公園遊具等安全点検

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	公園内での事故防止	公園に設置した遊具等を安全に維持管理するため、専門業者による安全点検を行うほか、危険が及ぶ恐れがある場合は応急措置を行います。	鹿児島市、指定管理者

D：安心安全ガイドブックの作成

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	事故防止等の支援	市民の日頃の備えや緊急時の対応の参考となるよう、防災・防犯・事故防止などに関する情報を掲載したガイドブックを作成し、全戸配布及び転入者への配付をしています。	鹿児島市

③子どもの安全

E：家庭児童相談員設置

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども、青年	家庭における適正な児童養育、その他家庭児童の福祉の向上	家庭における児童養育上の諸問題に対し、相談・指導を行います。	鹿児島市

F：乳幼児健康診査

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども	子ども（乳幼児）の事故やけが防止	健診において、年齢発達段階に応じた事故防止を遊びを交えながら行うほか、年齢別の事故防止対策のチラシなどを配付する。	鹿児島市

④高齢者の安全

G：認知症オレンジサポーター養成

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
成人、高齢者	認知症高齢者等の正しい理解及び地域における支援	認知症に対する理解者、認知症の人や家族を支えるボランティア等の養成及び介護家族等の不安や負担を軽減するとともに、参加者の交流、仲間づくりを支援します。	鹿児島市、認知症の人と家族の会

H：はつらつ元気づくり教室

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
高齢者	高齢者の介護予防、自立支援	介護状態になるおそれのある高齢者が要介護状態になることを予防するため、運動器機能向上プログラムと複合プログラム（運動器機能向上と栄養改善・口腔機能向上を併設したもの）からなる通所型の教室を実施します。	鹿児島市、フィットネス系事業所、介護保険事業所 等

⑤労働安全

I：雇用・労働相談

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
青年～高齢者	職場の労働環境等相談による支援	労働災害等の労働・雇用に関する相談を行う。	鹿児島市、鹿児島労働基準監督署

J：リスクアセスメントの促進

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
青年～高齢者	職場内のけが防止	自主的に事業場の危険性又は有害性等の調査に基づき、適切な労働災害防止対策が講じられるよう実施を促進します。	鹿児島労働基準監督署、事業所

⑥暴力予防

U：児童虐待防止街頭キャンペーン

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども、青年	児童虐待の防止	毎年11月の「児童虐待防止推進月間」に合わせて、児童虐待防止のための広報・啓発活動を実施します。	鹿児島市、鹿児島市要保護児童対策地域協議会 等

V：パープルリボンキャンペーン

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	女性に対する暴力の防止	街頭広報活動や講演会を開催し、暴力を許さない環境づくりを行います。	鹿児島市、鹿児島県、県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、民間支援団体 等

W：高齢者虐待防止対策

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
高齢者	高齢者虐待防止、早期発見及び被虐待者・養護者の支援	高齢者虐待防止や早期発見、被虐待者や養護者への支援を行うとともに、関係機関の連携体制の強化を図ります。	鹿児島市、地域包括支援センター、鹿児島市高齢者虐待防止ネットワーク協議会

⑦自殺予防

X：自殺に関する相談

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	自殺の防止	様々な問題を抱え、悩んでいる人の相談を受け、必要な専門機関につなげます。	鹿児島市、鹿児島いのちの電話協会、市医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察 等

Y：自殺対策に関する普及啓発活動

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	自殺の防止	自殺を防止するために、相談窓口に関する広報やメンタルヘルス講演会等を行います。	鹿児島市、市医師会、県看護協会、鹿児島産業保健総合支援センター、県精神保健福祉士協会 等

⑧防災及び災害対策

K：自主防災組織育成

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	地域における災害時の被害軽減	自主防災組織の結成や活動に対し、補助金による支援を行い、地域における災害時の被害軽減を図ります。	鹿児島市、町内会

L：桜島火山爆発総合防災訓練

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	桜島火山爆発に対する防災	大正噴火級の大噴火及び地震を想定し、島外避難訓練、救出訓練等を行う。	鹿児島市、県、市消防団、警察、自衛隊、地域住民、ライフライン事業者 等

⑨公共（場）の安全

M：地域安心安全ネットワーク会議活動支援

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	地域のけが等の防止活動支援	小学校区ごとに地域の安全確保のために活動している団体等で構成する「地域安心安全ネットワーク会議」の事故防止活動を支援します。	鹿児島市、地域安心安全ネットワーク会議

N：AEDの設置・周知

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	傷病者の救命	迅速な救命活動を行えるようAEDを設置し、国県等のAED設置施設情報とともにホームページ上の地図情報システムで周知を図ります。	鹿児島市、AED設置事業者 等

⑩病院の安全

○：市立病院安心安全に関する職員全体研修

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	病院内での事故やけがの防止	職員に対する研修会を実施し、病院の事故やけがを防止するための安全衛生の向上を図ります。	鹿児島市立病院

⑪スポーツの安全

P：スポーツ少年団指導者研修会

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども、青年	少年団員のけが防止	スポーツ少年団の指導者保護者を対象に、安全指導に関する講話及び実技研修を行い、指導者としての資質向上を図ります。	鹿児島市、スポーツ少年団

Q：社会体育指導者の養成

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
青年～高齢者	スポーツ対象者のけが防止	社会体育指導者を対象に、スポーツ・レクリエーションや健康体力づくり指導に関する専門的な内容やスポーツを通じた人づくり等に係る研究を行い、資質向上を図ります。	鹿児島市

⑫水の安全

R：桜島フェリーの事故処理に関する訓練

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
全年齢	桜島フェリーにおけるけがの防止	桜島フェリー機関故障による乗員乗客の避難誘導訓練を行います。	鹿児島市

⑬学校の安全

S：地域ぐるみの学校安全体制整備

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
小中学生（市立）	学校及び児童生徒の安全確保	防犯の専門家が巡回指導や学校安全整備の評価を行い、家庭や地域の関係機関等と連携しながら地域社会全体で学校安全に取り組んでいます。	鹿児島市教育委員会、スクールガード・リーダー
		防犯の専門家であるスクールガード・リーダーの指導の下、通学路等で児童生徒の見守り活動に取り組んでいます。	スクールガード

T：教育相談（いじめなど）

対象者	目的	活動概要	実施者（関係者）
子ども、青年	いじめの防止等	いじめなどの様々な教育上の悩みを持つ児童生徒、保護者、教職員に対して相談活動を実施し、青少年の健全な発達を支援します。	鹿児島市教育委員会

指標3 ハイリスクの集団や環境を対象とする取り組み

(1) ハイリスクの集団や環境の概要と取り組み

鹿児島市では、ハイリスクグループとして、①自殺リスクの高い50・60歳代の人、②虐待を受ける子ども、③転倒によりけがをしやすい高齢者、④虐待（DV）を受ける女性、⑤夜間・歩行中の高齢者、⑥ハイリスク環境の近くで生活する人を設定しています。

また、ハイリスク環境として、①火山活動による災害が予測される地域を設定しています。その設定理由や主な取り組みについては、次のとおりです。

なお、アルファベットは、49ページ以降の個々の対策に対応しています。

①自殺リスクの高い50・60歳代の人

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間で100人前後の人が自殺で死亡している実態がある。 ・特に50歳代・60歳代が多い。
主な取り組み	指標4-⑥ 自殺予防対策委員会で対応 AE 自殺予防の普及啓発（広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施） AF 支援者への支援（ゲートキーパー養成講座の開催） AG 相談しやすい場の設定 AH 相談窓口の周知 （詳細はP94～100）
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島いのちの電話協会、県医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察、鹿児島市など

②虐待を受ける子ども

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談は年間200件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。 ・被虐待者のうち、就学前児童が約56%である。
主な取り組み	指標4-③ 子どもの安全対策委員会で対応 T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 U 児童虐待予防の学習会 （詳細はP66～73）
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネット Early Years Center、鹿児島子どもの虐待問題研究会、鹿児島市 など

③転倒によりけがをしやすい高齢者

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による高齢者の死亡原因は転倒・転落が多い。 ・一般負傷による救急搬送も転倒・転落が圧倒的に多い。
主な取り組み	指標 4-④ 高齢者の安全対策委員会で対応 V・W 転倒予防のための料理教室・講習会、転倒予防教室等の実施 X 住環境の改善 (詳細は P73～83)
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・皇徳寺台東町内会、市健康づくり推進員協議会、市食生活改善推進員連絡協議会、鹿児島市 など

④虐待（DV：ドメスティック・バイオレンス）を受ける女性

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に比べて女性の方がDV被害に遭う割合が高く、女性のDV被害者からの相談件数は増加傾向にある。 ・誰にも（どこにも）相談しない人が多く、DVへの理解度を高め、相談先情報の周知を図る必要がある。
主な取り組み	指標 4-⑤ DV防止対策委員会で対応 AA・AC・AD DV防止のための啓発講座や研修会等の実施 AB 相談員の資質向上（DV被害者支援啓発講座等の開催） (詳細は P83～93)
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆ぴあ☆かごしま（デートDVの予防活動を行う学生ボランティア団体）、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市 など

⑤夜間・歩行中の高齢者

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故死者は高齢者の割合が高く、そのうち歩行中の死者が約7割を占める。 ・交通事故死傷者は夜間が約4割を占め、なかでも高齢者の割合が高い。
主な取り組み	指標 4-① 交通安全対策委員会で対応 D 参加・体験型の交通安全教室等の開催 E 高齢者の世帯訪問による交通安全教育 F 夜光反射材の着用啓発 (詳細は P44～55)
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など

⑥ハイリスク環境の近くで生活する人

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 ・マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 ・大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 ・島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。
主な取り組み	指標 4-⑦ 防災・災害対策委員会で対応 AI 住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） AJ 避難行動要支援者の避難体制の確立 AK 避難訓練の充実強化 （詳細は P100～108）
実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など

(2) ハイリスク環境

①火山活動による災害が予測される地域

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 ・マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 ・大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 ・島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。
主な取り組み	指標 4-⑦ 防災・災害対策委員会で対応 AI 住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） AJ 避難行動要支援者の避難体制の確立 AK 避難訓練の充実強化 （詳細は P100～108）
実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など

指標 4 根拠に基づいた取り組み

(1) 地域診断に基づいた重点課題の設定

鹿児島市では、不慮の要因による死傷や自殺、救急搬送などの様々なデータのほか、事故やけがに関するアンケート調査などの地域診断結果を踏まえ、重点的に取り組む課題を以下のとおり設定し、予防活動を展開しています。（表 4-4-1）

表 4-4-1 地域診断に基づいた重点課題の設定

地域診断から得られた課題	重点課題の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による死亡のうち約 2 割が交通事故である。（P10 図 3-2） ・救急搬送者の約 4 割が交通事故に起因している。（P12 図 3-6） ・年間 4,000 人以上を超える交通事故死傷者がいる。（P15 図 3-10） 	①交通安全
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の事故等が発生した場所は、「学校」が 45.3%で最も多く発生している。（P16 図 3-12） ・小学生で約 17 人に 1 件、中学生で約 12 人に 1 件の割合でけがによる治療を受けている。（P16～17 図 3-13、表 3-4） 	②学校の安全
<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送者のうち、0～6 歳では、「一般負傷」が約 8 割を占めており、0～17 歳の全搬送者の 3 割を超えている。（P13 図 3-7） ・児童虐待に関する相談は年間 200 件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。（P19 図 3-16） 	③子どもの安全
<ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による死亡のうち高齢者（65 歳以上）が約 7 割を占めている。（P10 図 3-3） ・救急搬送者のうち、高齢者が約 4 割を占めている。（P13 図 3-7） ・高齢者の虐待相談対応件数は、増加傾向にある。（2007 年度：35 件、2010 年度：68 件、2013 年度：79 件）（P20 図 3-18） 	④高齢者の安全
<ul style="list-style-type: none"> ・DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談件数は、増加傾向（2010 年度：394 件、2012 年度：554 件、2014 年度：777 件）にあり、（P18 図 3-14）DV被害の実態が依然としてある。（P19 図 3-15） 	⑤DV防止
<ul style="list-style-type: none"> ・10～64 歳の年齢層別死亡順位では、自殺が上位を占めている。（P8 表 3-1） ・年間に約 100 人が自殺で死亡している。（P11 図 3-4） 	⑥自殺予防
<ul style="list-style-type: none"> ・桜島は 1914 年の大正噴火から 100 年が経過し、マグマの蓄積状況から同様の噴火がいつ起こってもおかしくない状況にあり、大噴火により甚大な被害が発生する恐れがある。（P21～22 写真 3-1、図 3-19） ・桜島内には外周道路が 1 本しかなく、大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。（P22 図 3-20） 	⑦防災・災害対策

(2) 重点課題ごとの取り組み

鹿児島市では、設定した7つの重点課題（取組分野）ごとに分野横断的な対策委員会を設置し、「目的」、「具体的な目標」を掲げ、地域住民、関係団体、行政などの協働による根拠に基づく取り組みを実施しています。（表4-4-2）

また、5分野（DV防止、自殺予防分野を除く）では、全市域に展開するためのモデル地区等を設定しています。（P30 表4-1-5 参照）

表4-4-2

対策委員会	目的	具体的な目標
交通安全対策委員会	・交通事故の減少	・自動車による交通事故減少 ・高齢者の交通事故減少 ・子ども（中学生以下）の交通事故減少
学校の安全対策委員会	・児童生徒の事故の減少	・市立小中学校の校内等でのけがの減少
子どもの安全対策委員会	・子どもの身体と心の安心・安全を守る	・家庭内等での事故・けがの減少 ・子育て中の親への支援
高齢者の安全対策委員会	・高齢者の外傷の減少 ・高齢者虐待の減少	・高齢者の転倒による外傷の減少 ・虐待や認知症への啓発・理解の促進
DV防止対策委員会	・DVの防止	・若年者に対する予防啓発の充実 ・DVの正しい理解と気づきの促進
自殺予防対策委員会	・自殺者数の減少	・中高年（50～69歳）の自殺者数の減少
防災・災害対策委員会	・地域防災力の向上	・桜島地区における避難体制の再構築

ここからは、入手可能なデータや事故やけがに関するアンケート調査結果などの分析結果から得られた課題に対する取り組みについて、設定した7つの対策委員会ごとに説明します。

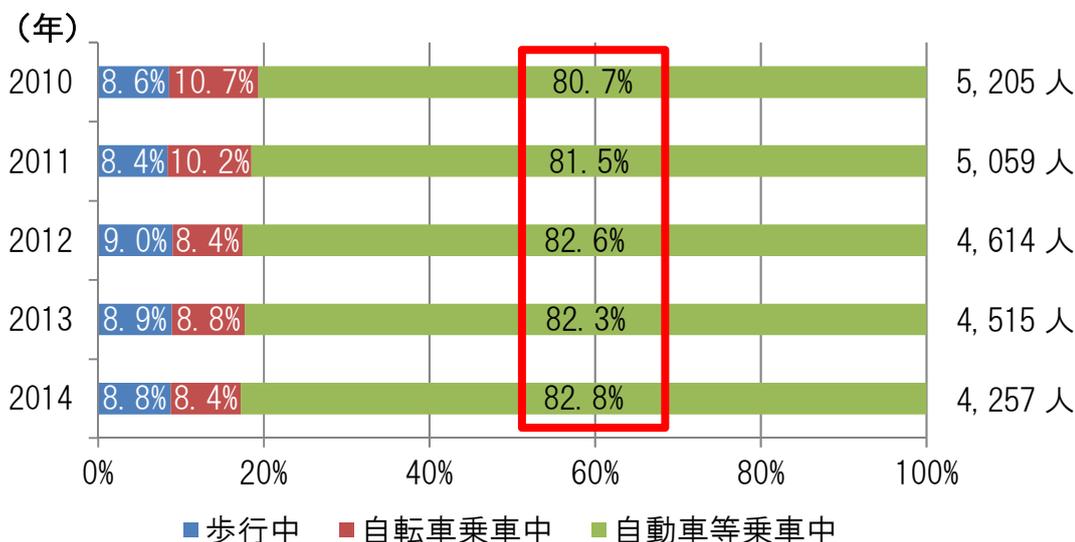
なお、取り組みの実績（活動指標など）については、指標6（P114～133）にて説明します。

① 交通安全

■データと課題

【課題1】 事故状態別では自動車等乗車中の死傷者が8割を占めています。

図 4-4-①-1 交通事故死傷者の発生状況

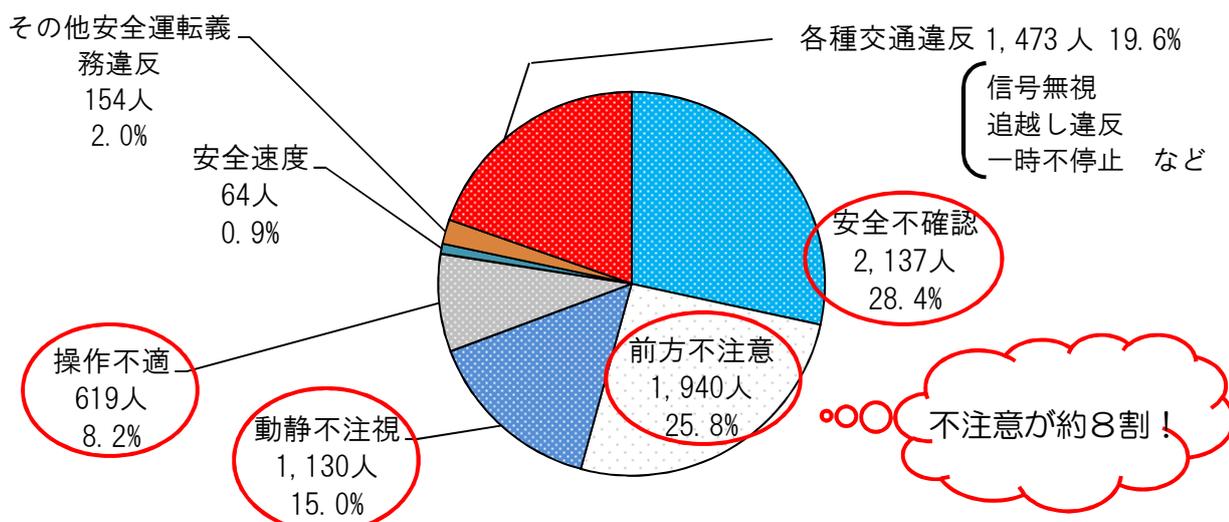


【出典】交通事故統計分析表（鹿児島県警察）

【データ】市内三署（高速道路を除く）、両性、全年齢、2010～2014年

【課題2】 ちょっとした不注意が交通事故を引き起こしています。

図 4-4-①-2 車両（軽車両を除く）運転者の事故原因



N= 7,517人

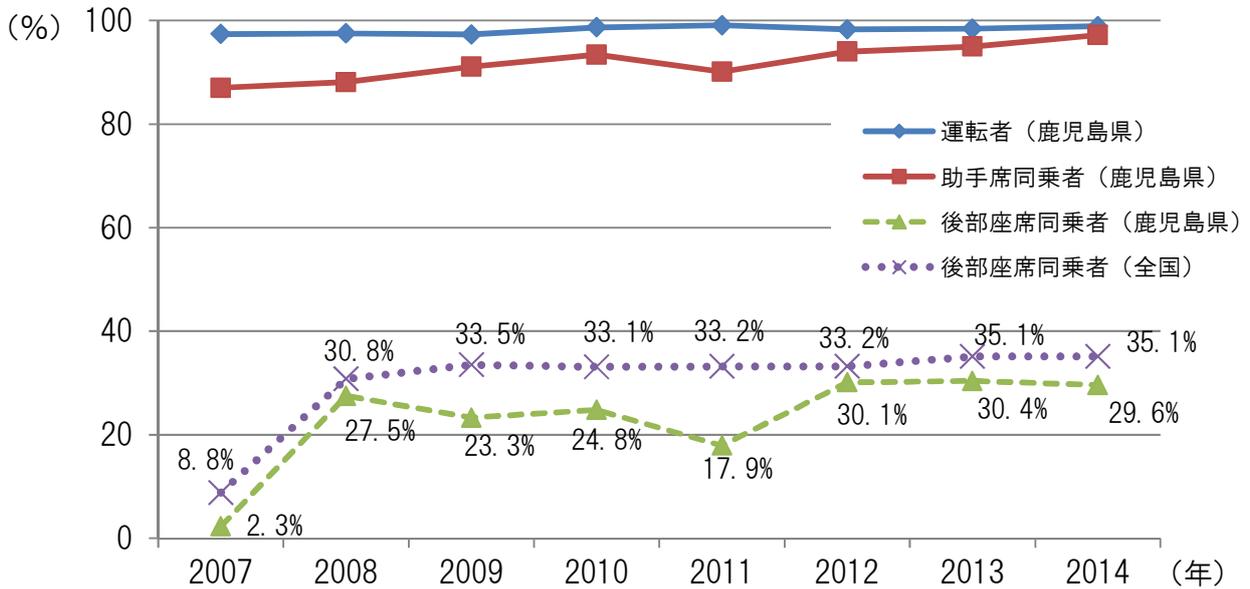
【出典】鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

【データ】市（高速道路を含む）、両性、全年齢、2013～2014年合計

※車両（軽車両を除く）・路面電車に原因

【課題3】 後部座席のシートベルト着用率が低くなっています。

図 4-4-①-3 シートベルト着用率の推移

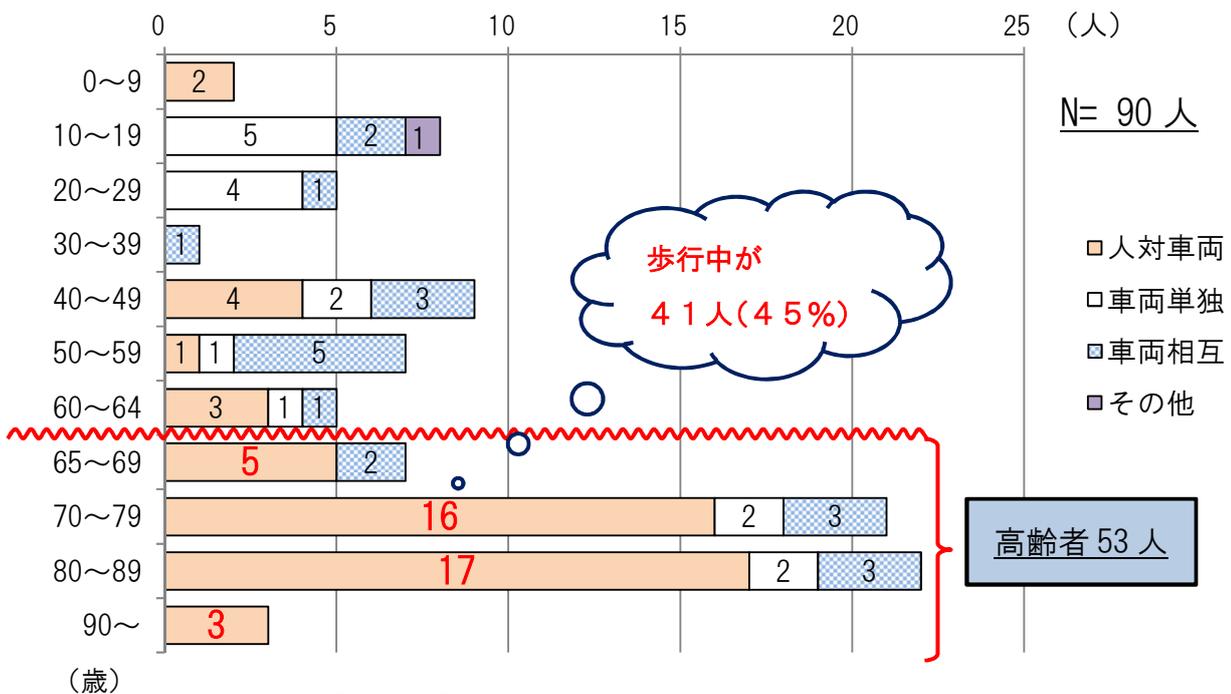


【出典】シートベルトの着用状況全国調査（警察庁、日本自動車連盟）

【データ】県・国（一般道のみ）、両性、全年齢、2007～2014年

【課題4】 交通事故死者は歩行中の高齢者が多くなっています。

図 4-4-①-4 交通事故による年齢層別死者の状況

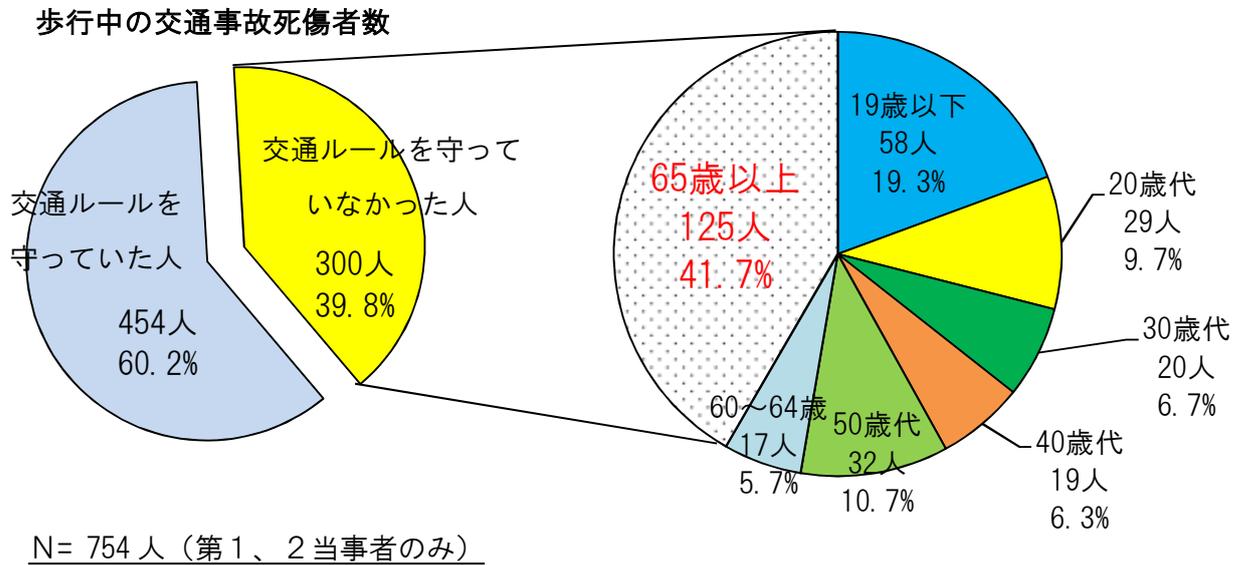


【出典】鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

【データ】市（高速道路除く）、両性、全年齢、2010～2014年合計

【課題5】 交通ルールを守らずに死傷した歩行者のうち、高齢者が4割を占めています。

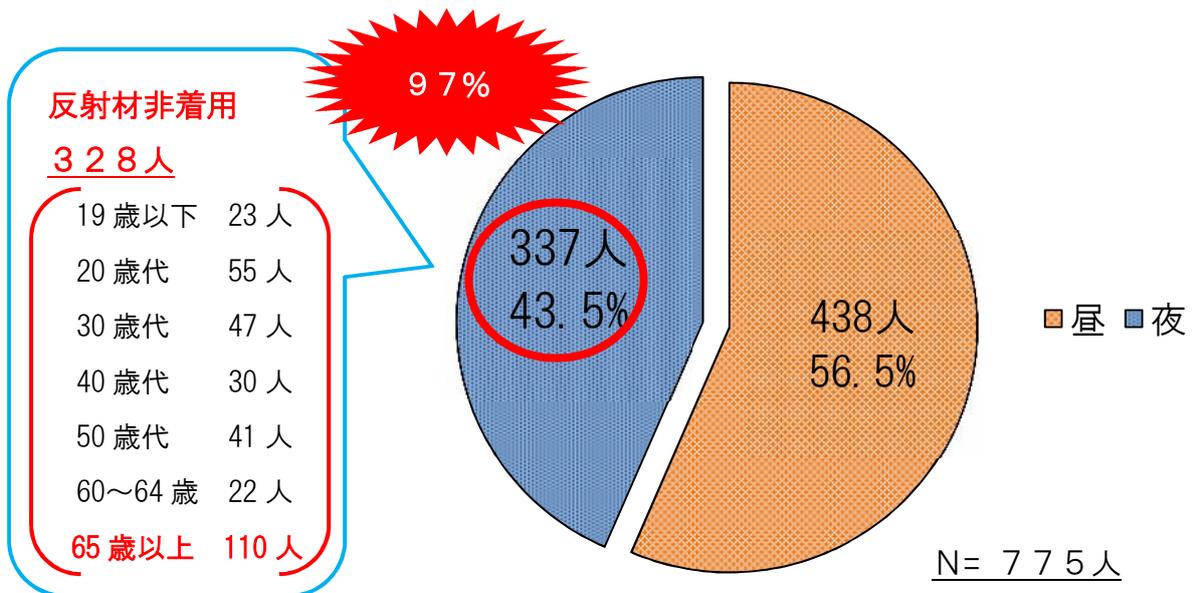
図 4-4-①-5 年齢層別の交通事故死傷者数



【出典】 鹿児島県警察本部 (交通企画課) 調べ
【データ】 市、両性、全年齢、2013~2014年合計

【課題6】 歩行中の交通事故死傷者は夜間が4割を占め、うち高齢者が多く、その大部分が夜光反射材を着用していません。

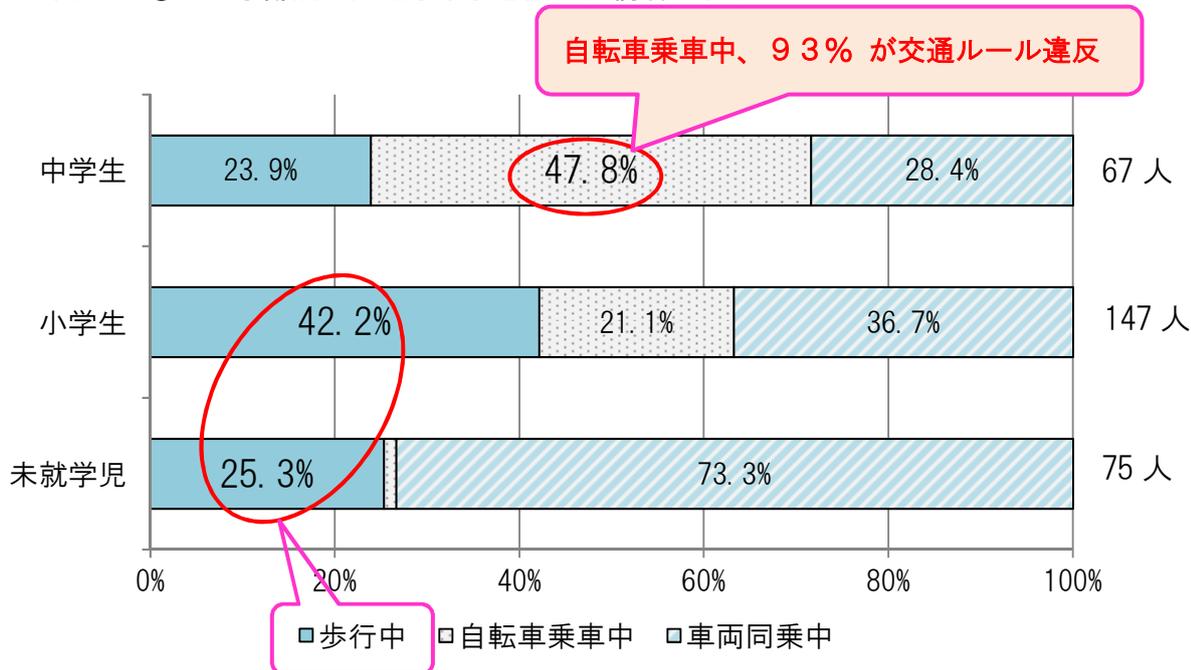
図 4-4-①-6 歩行中の交通事故死傷者数と夜光反射材着用率の関係



【出典】 鹿児島県警察本部 (交通企画課) 調べ
【データ】 市、両性、全年齢、2013~2014年合計

【課題7】 中学生は自転車乗車中の死傷者が多く、未就学児・小学生は歩行中の死傷者が多くなっています。

図 4-4-①-7 学齢別・交通事故状態別の死傷者の状況

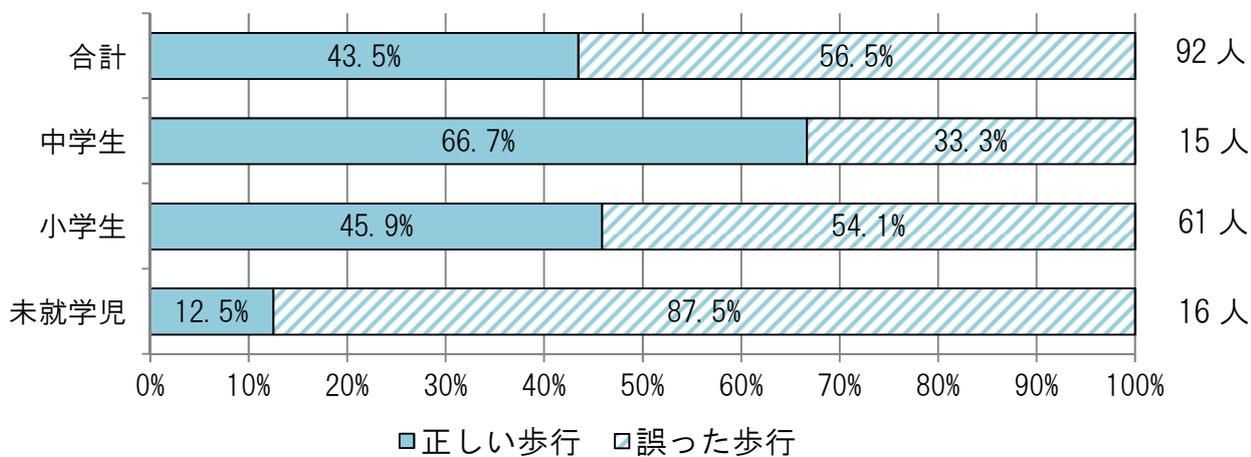


【出典】 鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

【データ】 市、両性、中学生以下、2013～2014年合計

【課題8】 子どもは交通ルールを守らずに交通事故に遭い、死傷することが多くなっています。

図 4-4-①-8 学齢別における歩行中の交通事故死傷者の状況



(第1、2当事者のみ)

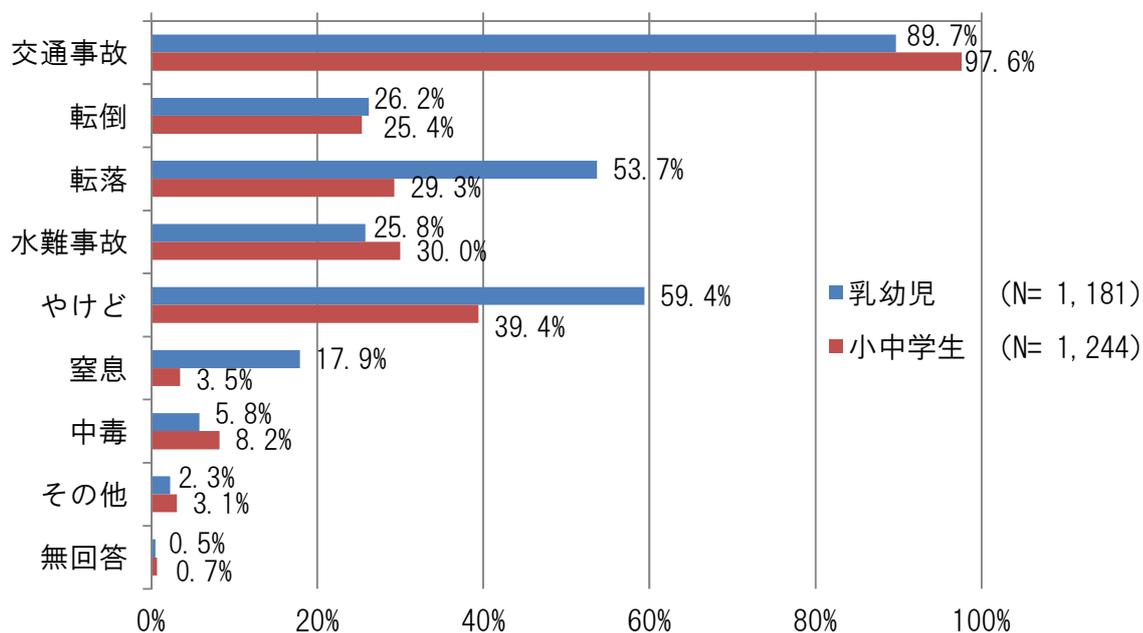
(交通ルールを守っていない歩行)

【出典】 鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

【データ】 市、両性、中学生以下、2013～2014年合計

【課題9】 保護者の多くは子どもの交通事故を懸念しています。

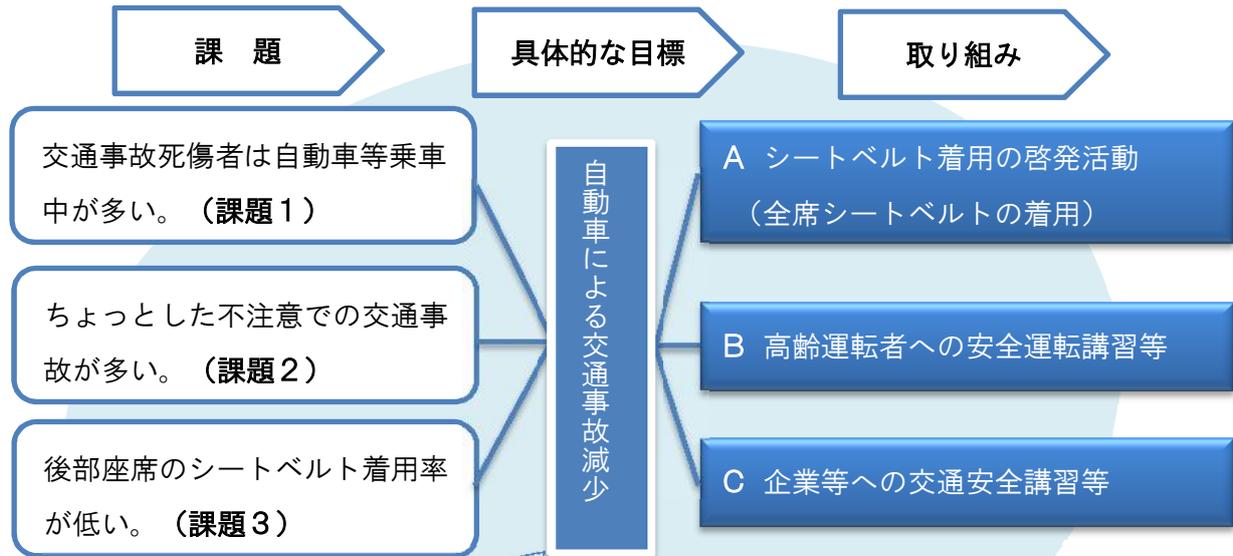
図 4-4-①-9 子どもの保護者が懸念する事故の種類（L A）



【出典】事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

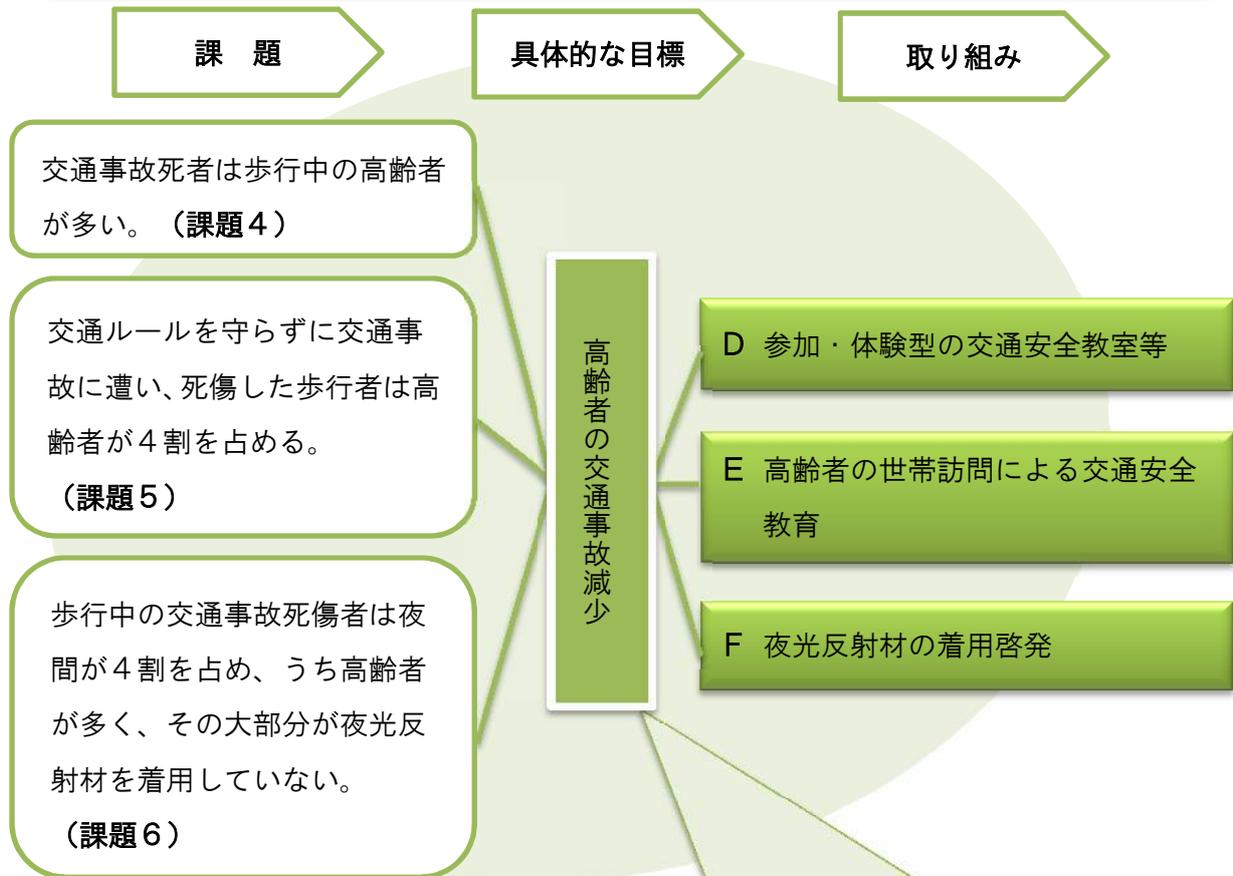
【データ】市、両性、乳幼児・中学生の保護者、2012年度

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



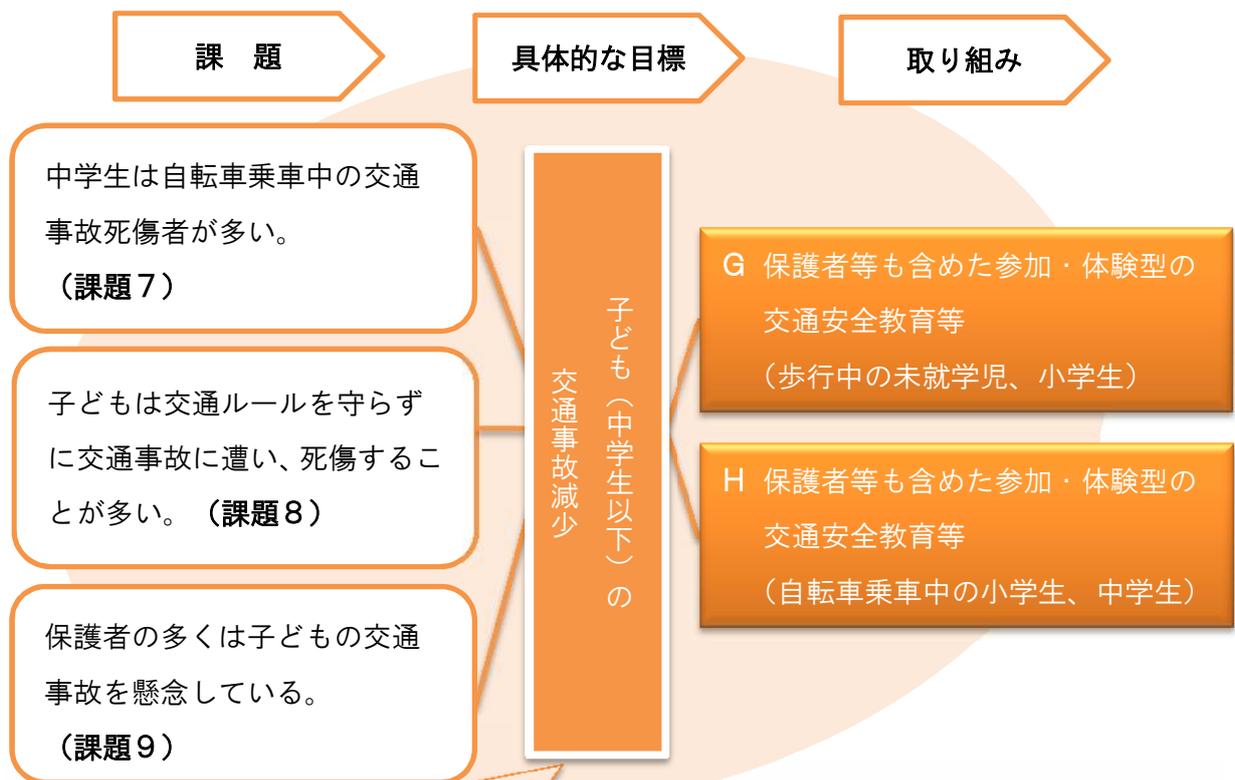
■対策委員会での主観的な意見

- ・運転者の緊張感の欠如などが交通事故を引き起こす。
- ・高齢運転者は、自身の身体能力や認知能力の低下を認識できていないかもしれない。



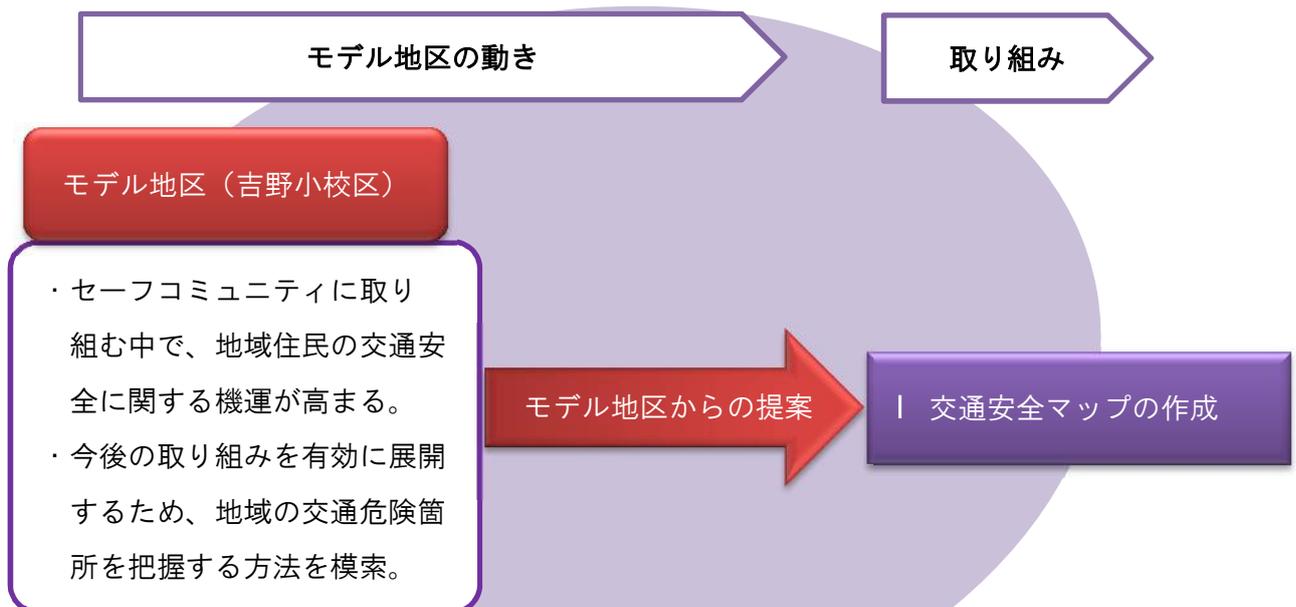
■対策委員会での主観的な意見

- ・高齢者に対して個別具体的な指導を行う必要がある。
- ・夜光反射材をいかに高齢者に着用してもらうか。



■対策委員会での主観的な意見

- ・子どもと保護者等と一緒に交通ルールを学ぶ機会があるとよい。
- ・発達段階ごとに、どういった交通安全教室を行っていくかが重要である。
- ・自転車大会等を開催することで、マナーを守った自転車の走行を促すことができる。



〔課題に基づく取り組み〕 ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	
A シートベルト着用の啓発活動 (全席シートベルトの着用) 【拡充】	運転者	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-①-1
<p>・ 地域住民や関係団体が主体となり、街頭キャンペーンや交通安全教室などでシートベルトの重要性や交通ルール・マナーを周知し、全席シートベルト着用などの啓発活動を行う。</p> <p>実施に際しては、<u>交通量の多い県道にて、直接、運転者へ啓発活動を行うなど、対象者に合った効果的な実施方法を検討し、実施した。</u></p>		

取り組み	対象者	
B 高齢運転者に対する安全運転講習等 【拡充】	運転者	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、日本自動車連盟、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-①-2
<p>・ 地域住民や関係団体が主体となり、高齢運転者を対象とした交通安全教室を開催し、ドライビングシミュレータなどを活用した安全運転講習を実施する。</p> <p>実施に際しては、<u>これまでも行っていた防犯教室や高齢者の活動の場である「お達者クラブ」などを積極的に活用し、実施回数の増加を図った。</u></p>		

取り組み	対象者	
C 企業等への交通安全講習等 【新規】	運転者	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島中央警察署、県交通安全協会、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-①-3
<p>・ <u>地域住民や関係団体が主体となり、自動車を運転する機会の多い企業等の運転者（従業員等）を対象とした交通安全教室を開催し、地域の運転マナーの向上を図る。</u></p>		

取り組み	対象者	
D 参加・体験型の交通安全教室等【拡充】 F 夜光反射材の着用啓発【拡充】	歩行中の高齢者	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など		
実施内容		
<p>・ 地域住民や関係団体が主体となり、歩行中の高齢者を対象とした交通安全教室を開催し、歩行シミュレータの活用や夜光反射材の効用体験など、<u>実際に参加・体験しながら交通安全について学ぶことができる機会を提供する。</u></p> <p>実施に際しては、これまでも行っていた防犯教室や高齢者の活動の場である「お達者クラブ」などを積極的に活用し、実施回数の増加を図った。</p>		

写真 4-4-①-4

取り組み	対象者
E 高齢者の世帯訪問による交通安全教育【拡充】	歩行中の高齢者
実施者（予定）	
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会 など	
実施内容（予定）	
<p>・ 交通安全教室等に参加することのない高齢者が多いことから、地域住民や関係団体が主体となり、直接、高齢者世帯を訪問し、交通安全教育を行うことで、交通ルール・マナーを広く周知する。</p> <p>実施に際しては、<u>県交通安全協会や鹿児島県警察が実施する既存の訪問事業を活用するなど、あらゆる訪問の機会を捉えた、より効果的な交通安全教育の方法を検討する。</u></p>	

取り組み	対象者	
G・H 保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等【 拡充 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行中の未就学児、小学生 ・ 自転車乗車中の小学生、中学生 	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-①-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や関係団体が主体となり、子どもやその保護者等を対象とした交通安全教室を開催し、横断実技や自転車実技など、実際に参加・体験しながら交通安全について学ぶことができる機会を提供する。 <p style="margin-left: 2em;">実施に際しては、これまでも行っていた防犯教室や学校行事の場を積極的に活用し、実施回数の増加を図った。</p>		

取り組み	対象者	
I 交通安全マップの作成【 新規 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転者 ・ 歩行中の高齢者 ・ 歩行中の未就学児、小学生 ・ 自転車乗車中の小学生、中学生 	
実施者		
吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-①-6
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地域住民が主体となり、地域の交通事故発生箇所等を調査・分析のうえ、交通安全マップを作成し、各世帯等へ配布することで地域全体の交通安全に関する意識の向上を図る。</u> <p style="margin-left: 2em;"><u>また、マップ作成に伴い明らかとなった交通危険箇所に対し、現場診断を行い、ハード整備等の改善を検討する。</u></p> <p style="margin-left: 2em;"><u>このほか、新たに見えてきた課題や気づき（幹線道路沿いに事故が集中し、若年者の運転者が事故に遭っている）を今後の取り組みにフィードバックする。</u></p>		

〔2015 年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
A シートベルト着用の啓発活動 (全席シートベルトの着用)			随時実施	
B 高齢運転者に対する安全運転講習等			随時実施	
C 企業等への交通安全講習等			随時実施	
D 参加・体験型の交通安全教室等 F 夜光反射材の着用啓発			随時実施	
E 高齢者の世帯訪問による交通安全教育	実施方法検討			実施予定
G・H 保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等			随時実施	
I 交通安全マップの作成	マップの配付		危険箇所の周知・広報	
			危険箇所整備方法の検討	

■モデル地区等の設定理由及び特徴

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の安全確保のための活動を行う「地域安心安全ネットワーク会議」が活発である。 ・地域の児童数や高齢者数が増加傾向にある。 ・交通安全を地域の課題として認識している。
モデル地区等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部から北へ約8kmである。 ・標高180mから260mの高台にある。 ・交通量の増加に伴う交通渋滞を緩和するため、区画整理が進行中である。 ・県道鹿児島吉田線一帯で交通事故が多発している。



■セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 吉野校区安心安全ネットワーク会議に幼稚園や長寿クラブなど12団体が新たに参加し、地域の組織力が向上しました。
- ◎ 対策委員会を通じて、地域住民や関係団体、行政などが実施している活動を共有することで、積極的に交通安全の取り組みを行うことができるようになりました。
- ◎ 鹿児島県警察本部に「セーフコミュニティ支援推進委員会」が設置されたことで、鹿児島市に特化した統計データの提供体制が充実し、緻密なデータ分析が可能となりました。
- ◎ これらのことから、対策委員会委員やモデル地区住民の双方の問題意識が向上し、交通安全対策に充実が見られました。

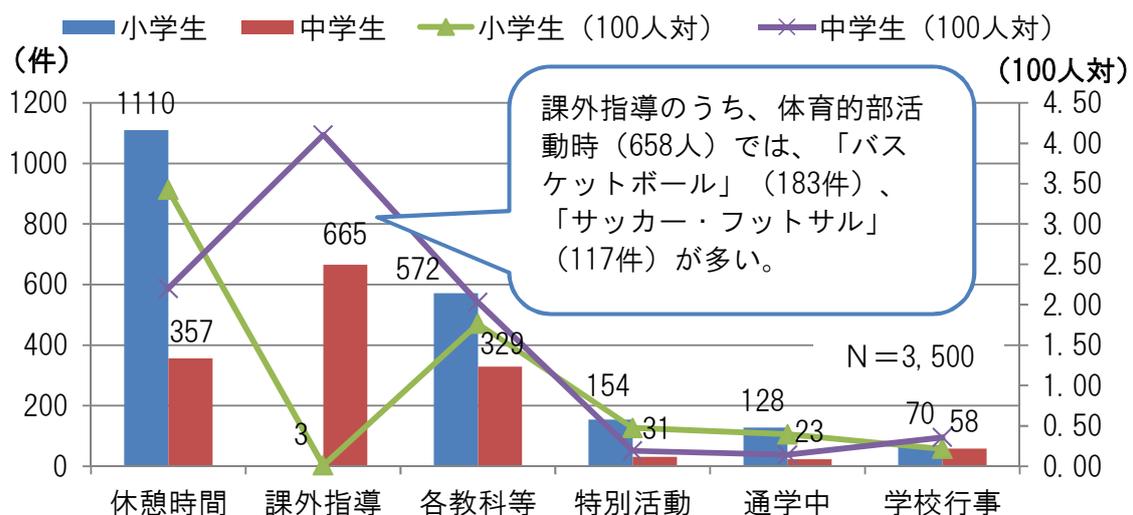
■課題	■今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 交通安全教室等への参加者が固定化する傾向がある。 ◎ モデル地区の取り組みをいかに全市に広めていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 活動に参加しない人への参加を促し、地域住民が一体となった交通安全運動を進めていく。 ◎ 吉野小校区の取り組みをモデルに、それぞれの地域にあった取り組みとして、市内全域に拡大していく。

② 学校の安全

■データと課題

【課題1】 校内におけるけがは、休憩時間が多く、中学生では、課外指導、休憩時間の順に多くなっています。

図4-4-②-1 校内のけがの状況（場合別発生件数）

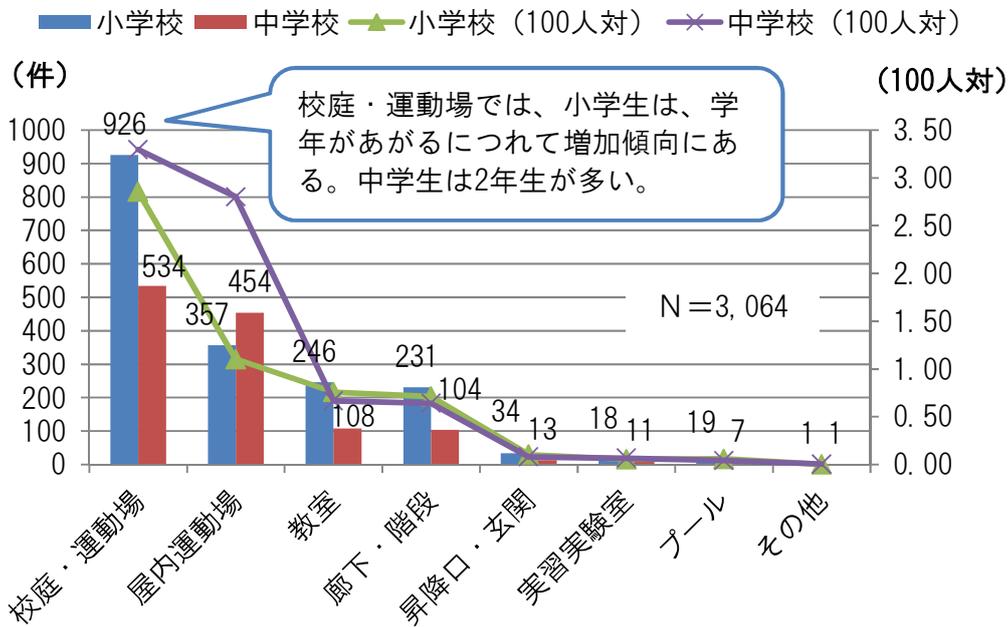


休憩時間では、小学生は特に、6年生(222件)、5年生(215件)が多い。

【出典】日本スポーツ振興センター
 【データ】市、両性、市立小中学生、2012年度
 ※ 特別活動:学級活動(LHR)や朝・帰りの会(SHL)

【課題2】 けがの発生場所は、校庭・運動場等が多くなっています。

図 4-4-②-2 校内のけがの状況（場所別発生件数）

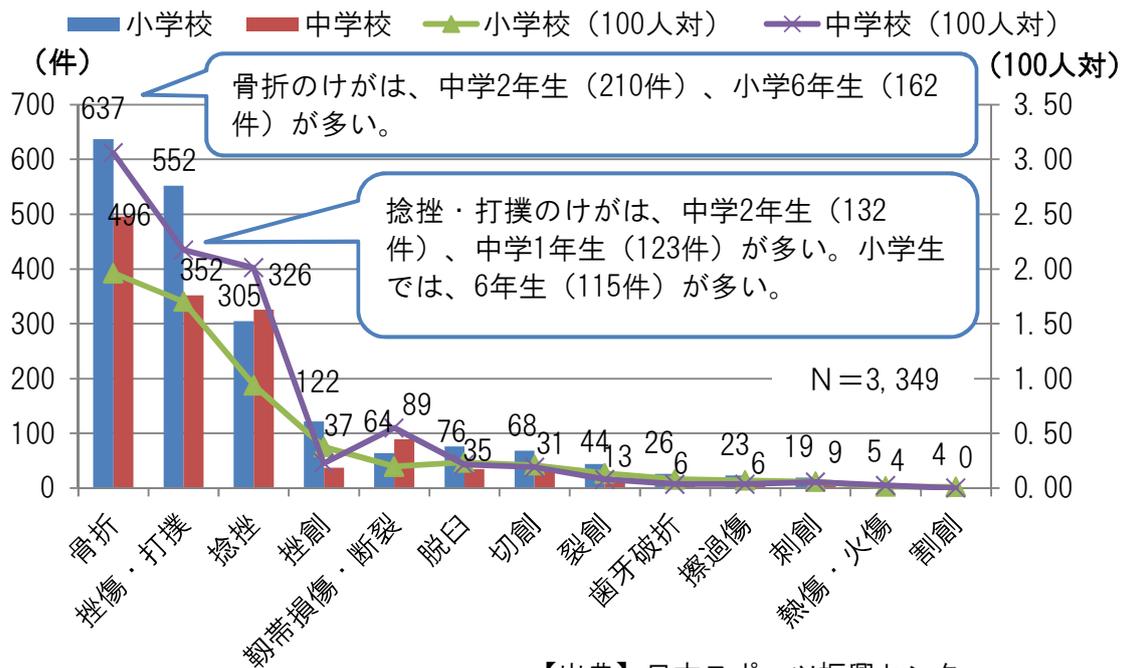


【出典】日本スポーツ振興センター

【データ】市、両性、市立小中学生、2012年度

【課題3】 けがの種類は、骨折、挫傷・打撲、捻挫が多くなっています。

図 4-4-②-3 校内のけがの状況（種類別発生件数）

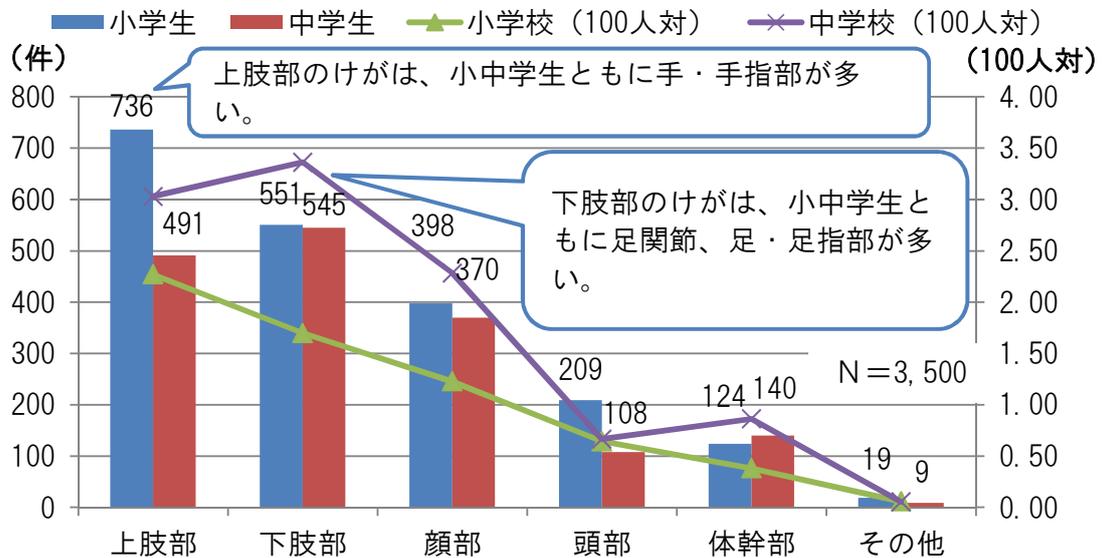


【出典】日本スポーツ振興センター

【データ】市、両性、市立小中学生、2012年度

【課題4】 けがの部位は、上肢部、下肢部が多くなっています。

図 4-4-②-4 校内のけがの状況（部位別発生件数）

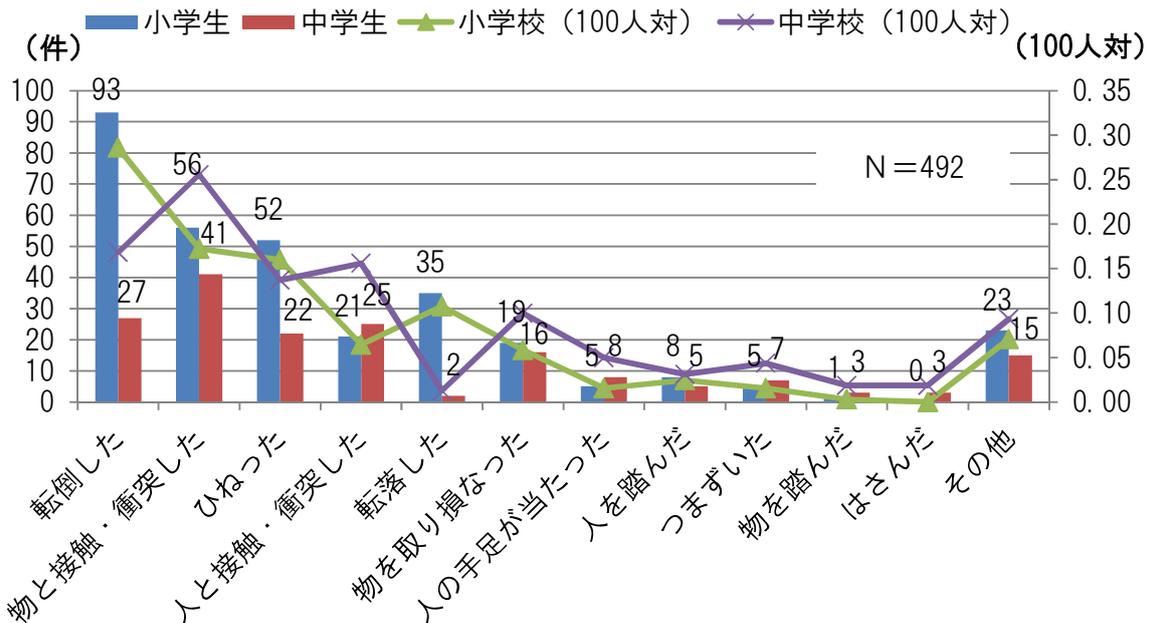


【出典】日本スポーツ振興センター

【データ】市、両性、市立小中学生、2012年度

【課題5】 けがの原因は、小学校では転倒、中学校では、物との接触・衝突、ひねったなどが多くなっています。

図 4-4-②-5 校内のけがの状況（原因別発生件数）



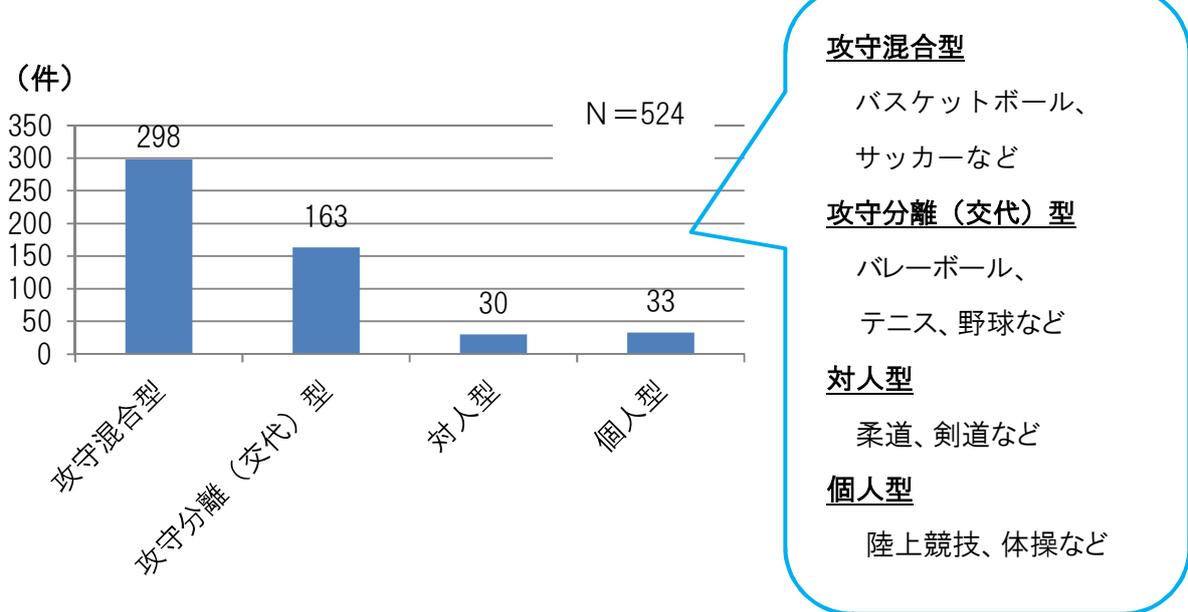
【出典】鹿児島市教育委員会（保健体育課）調べ

【データ】市、両性、市立小中学生、2014年度

【課題 6】 中学校の部活動時におけるけがは、バスケットボールなどの攻守混合型が最も多く、けがの原因は人との接触、などが多くなっています。

(図 4-4-②-6、図 4-4-②-7)

図 4-4-②-6 部活動のけがの状況（競技型別発生件数）

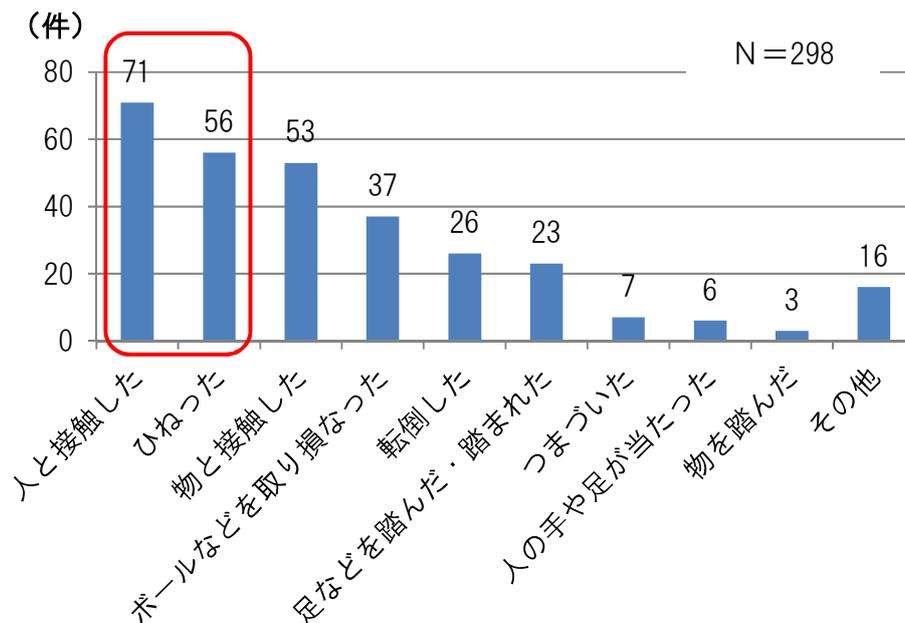


【出典】 鹿児島市教育委員会（保健体育課）調べ

【データ】 市、両性、市立中学生、2014 年度

図 4-4-②-7 攻守混合型のけがの原因（発生件数）

(件)



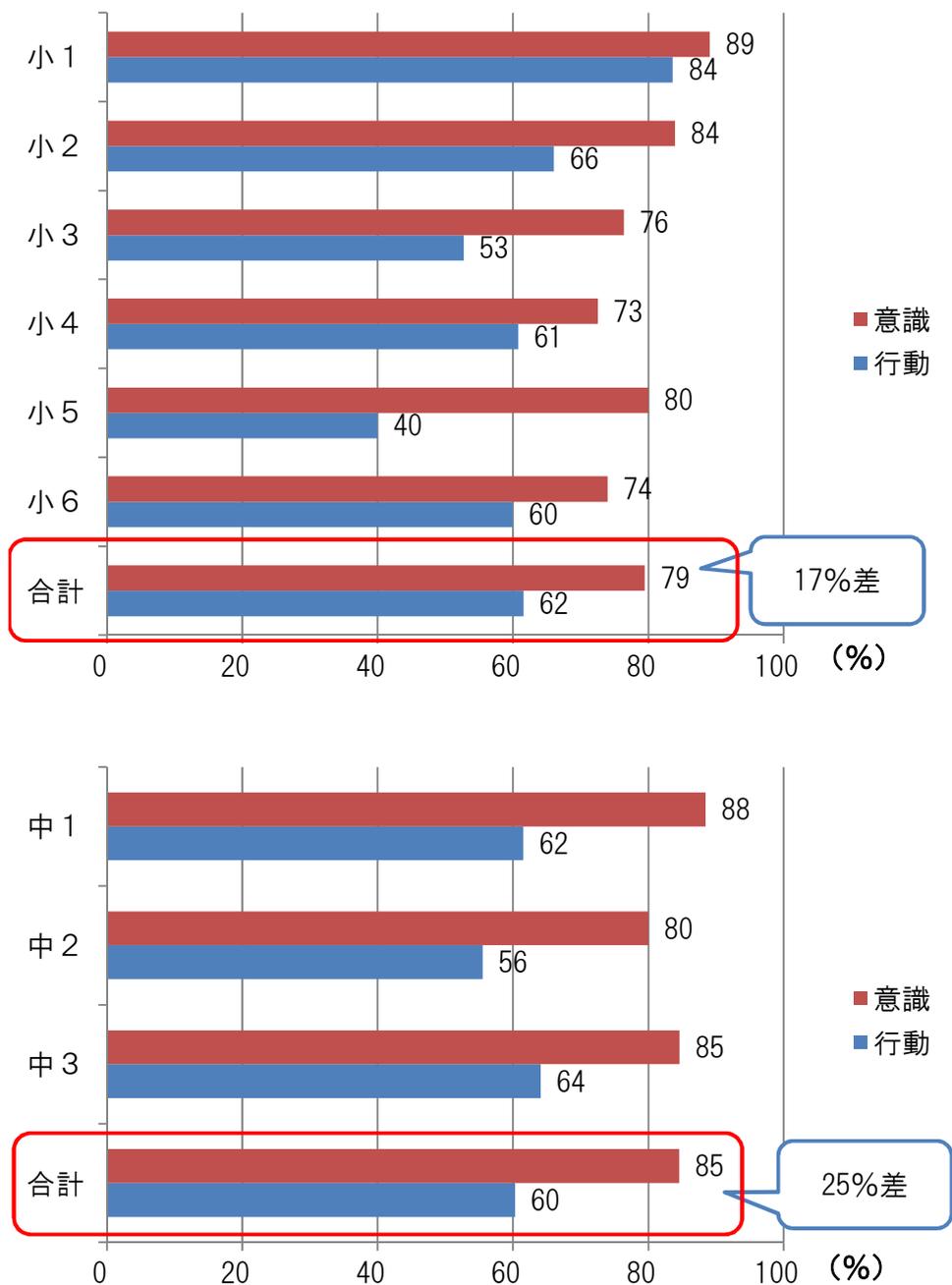
【出典】 鹿児島市教育委員会（保健体育課）調べ

【データ】 市、両性、市立中学生、2014 年度

【課題7】 遊んだり運動したりする際、安全に気をつけることは分かっているが、実際の行動が伴っていない児童生徒が約2割います。

図 4-4-②-8 けが防止に関する意識行動調査

『遊びや運動をする際、ルールやきまりを守ること』

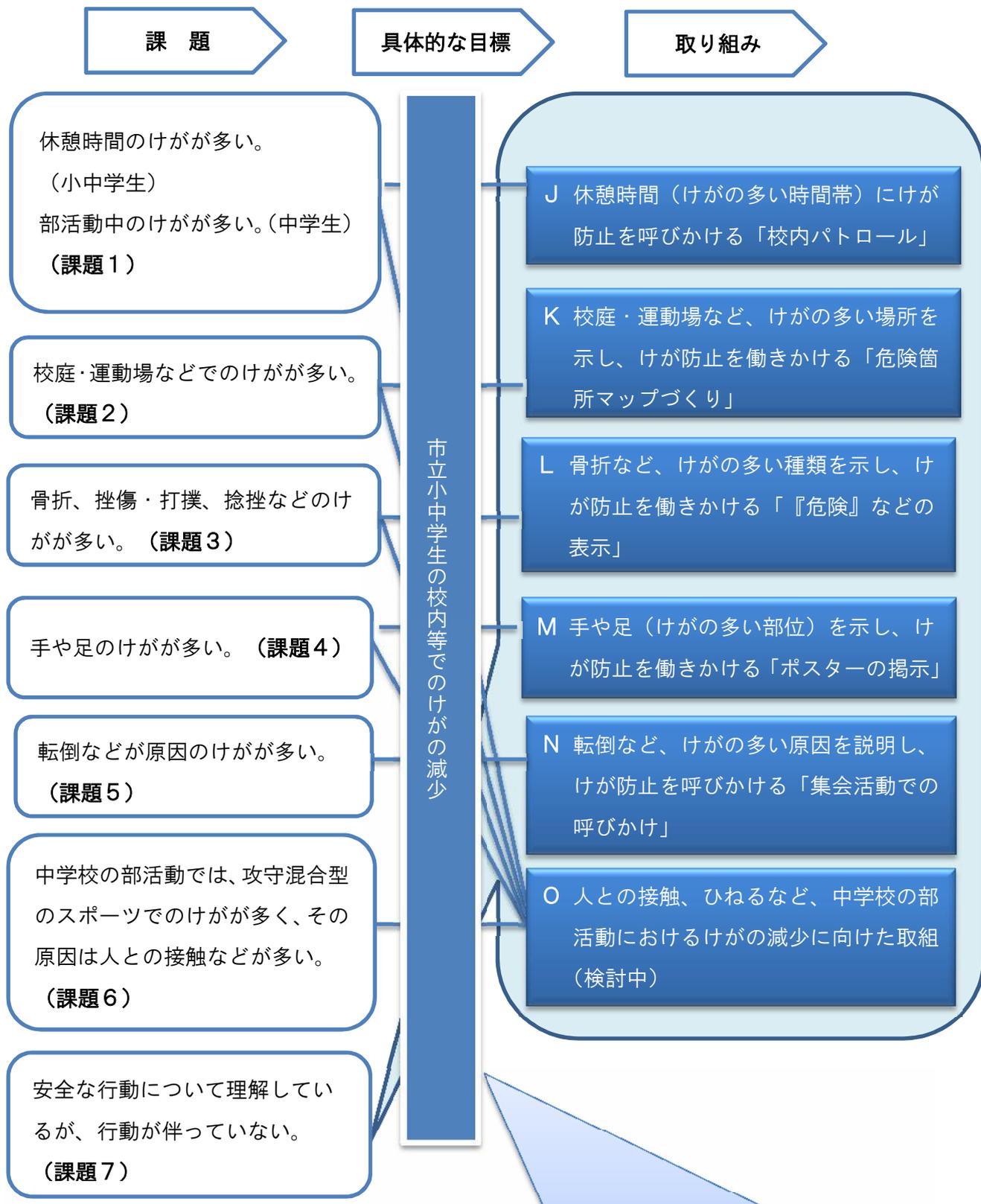


【出典】 鹿児島市教育委員会（保健体育課）調べ

【データ】 市、両性、市立小中学生、2013年度

※ 学校では児童生徒に対して学級活動（LHR）や朝・帰りの会（SHR）などの時間に学校の課題を踏まえた安全指導を計画的に行っています。

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見

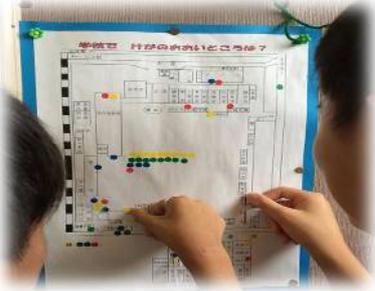


■対策委員会での主観的な意見

- ・けがをすることを考えずに遊んだり運動したりしている児童生徒が多いのではないかな。
- ・自分たちで主体的にけが予防に取り組めば、けがの発生件数は減少するのではないかな。

■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	
J 小中学生が休憩時間（けがが多く発生している時間）にけが防止を呼びかける「校内パトロール」 【拡充】	休憩時間に校内で活動している小中学生	
実施者		
「校内パトロール」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生		
実施内容		写真 4-4-②-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>危険箇所マップによりけがの多い場所を確認し、休憩時間にけがが多く発生している場所をパトロールし、けがを起こさない行動の仕方などを呼びかける。</u> ・ <u>学校の実態に応じて取組内容を選択し、新たな取り組みを実施する学校が増えている。</u> 		

取り組み	対象者	
K 小中学生が校庭・運動場など、けがの多い場所を示し、けが防止を働きかける「危険箇所マップづくり」 【拡充】	校内で活動している小中学生	
実施者		
「危険箇所マップづくり」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生		
実施内容		写真 4-4-②-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生が保健室来室者のけがの状況について調べ、けがが発生した場所にシールをはるなどしてけがの多い場所を把握し、けがの発生場所を周知するとともに、<u>けが防止に関する取り組みに役立てる。</u> ・ <u>学校の実態に応じて取組内容を選択し、新たな取り組みを実施する学校が増えている。</u> 		

取り組み	対象者	 <p data-bbox="1121 611 1305 645">写真 4-4-②-3</p>
<p>L 小中学生が骨折など、けがの多い種類を示し、けが防止を働きかける「『危険』などの表示」【拡充】</p>	<p>校内で活動している小中学生</p>	
<p>実施者</p>		
<p>「『危険』などの表示」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p>		
<p>実施内容</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童生徒が危険箇所マップでけがが多く発生している場所を確認し、骨折などのけがが起こらないようにするためにけがの多い種類に関する内容を示した表示を行い、けが防止を働きかける。</u> ・ <u>学校の実態に応じて取組内容を選択し、新たな取り組みを実施する学校が増えている。</u> 		

取り組み	対象者	 <p data-bbox="1121 1400 1305 1433">写真 4-4-②-4</p>
<p>M 小中学生が手や足（けがの多い部位）を示し、けが防止を働きかける「ポスターの掲示」【拡充】</p>	<p>校内で活動している小中学生</p>	
<p>実施者</p>		
<p>「ポスターの掲示」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p>		
<p>実施内容</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小中学生が危険箇所マップでけがが多く発生している場所を確認し、手や足のけがが起こらないようにするためにけがの多い部位に関する内容を示した表示を行い、けが防止を働きかける。</u> ・ <u>学校の実態に応じて取組内容を選択し、新たな取り組みを実施する学校が増えている。</u> 		

取り組み	対象者	 <p data-bbox="1118 667 1305 698">写真 4-4-②-5</p>
<p data-bbox="188 275 746 421">N 小中学生が転倒など、けがの多い原因を説明し、けが防止を呼びかける「集会活動での呼びかけ」 【拡充】</p>	<p data-bbox="774 275 979 365">校内で活動している小中学生</p>	
<p data-bbox="544 443 635 474">実施者</p>		
<p data-bbox="188 504 991 645">「集会活動での呼びかけ」に取り組んでいる小中学校における保健委員会などの委員会活動、各学級の代表者から組織される児童（生徒）保健委員会などの小中学生</p>		
<p data-bbox="531 667 647 698">実施内容</p>		
<ul data-bbox="199 723 1409 869" style="list-style-type: none"> ・ 小中学生が転倒など、けがの多い原因に関する内容を集会活動で説明し、転倒などのけがが起こらないようにするために全校小中学生に呼びかける。 ・ 学校の実態に応じて取組内容を選択し、新たな取り組みを実施する学校が増えている。 		

〔2015 年度の実施予定表〕

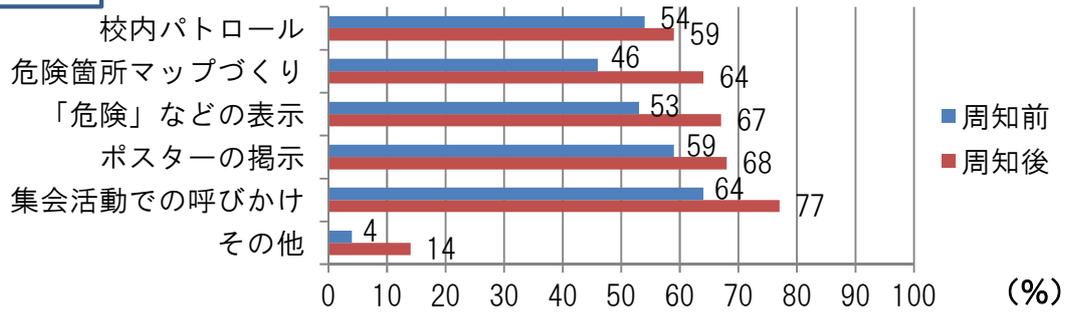
取り組み	4～7月	9～12月	1～3月
J 休憩時間（けがの多い時間帯）にけが防止を呼びかける「校内パトロール」	随時実施（取組内容増加・充実）		
K 校庭・運動場など、けがの多い場所を示し、けが防止を働きかける「危険箇所マップづくり」	随時実施（取組内容増加・充実）		
L 骨折など、けがの多い種類を示し、けが防止を働きかける「『危険』などの表示」	随時実施（取組内容増加・充実）		
M 手や足（けがの多い部位）を示し、けが防止を働きかける「ポスターの掲示」	随時実施（取組内容増加・充実）		
N 転倒など、けがの多い原因を説明し、けが防止を呼びかける「集会活動での呼びかけ」	随時実施（取組内容増加・充実）		
O 中学生が人との接触など、部活動におけるけがの多い原因をもとにして、けが防止を働きかける活動	取り組み検討	実施予定	

■セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 各学校の課題に応じて新たに、取組内容に取り組む学校が増えました。
- ◎ 小中学生の安全に関する取り組みを地域住民等に紹介するなどの活動により、交通安全教室などの学校行事への参加者が増えるなど、地域住民の安全への意識が高まっています。
- ◎ 児童生徒のけが防止に関する「意識」と「行動」のずれが小さくなり、安全に気を付けて行動しようとする児童生徒が増えてきました。
- ◎ 地域住民や関係団体、行政の関係課、市立小中学校代表者で、小中学校が実施しているけが防止対策の活動を共有することで、セーフコミュニティに対する認識が深まり、充実した学校の安全対策委員会ができつつあります。

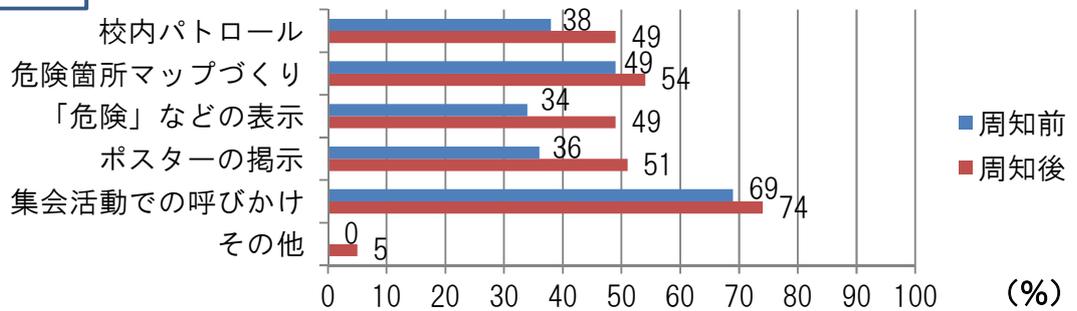
図 4-4-②-9 取組内容（対策プログラム）の取組状況

小学校：78校



※ その他：実態調査の実施、安全に取り組んだ学級へ賞状授与など

中学校：39校



※ その他：校内放送での呼びかけ、実態調査の実施など

【出典】 鹿児島市教育委員会（保健体育課）調べ

【データ】 市、両性、市立小中学生、2013年度、2014年度

※ 取組内容については、各学校の課題に応じて選択して実施しているものである。
 （全小中学校で1つ以上の取組内容を実施している。）

■課題	■今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各学校の取組内容を推進するとともに、随時内容の見直しを実施する必要がある。 ◎ さらに地域社会への取組を進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「取組状況調査」の分析による取組内容の見直し、改善を図っていく。 ◎ 校内の取り組みを地域に発信し、地域社会の安全への意識を高めていく。

③ 子どもの安全

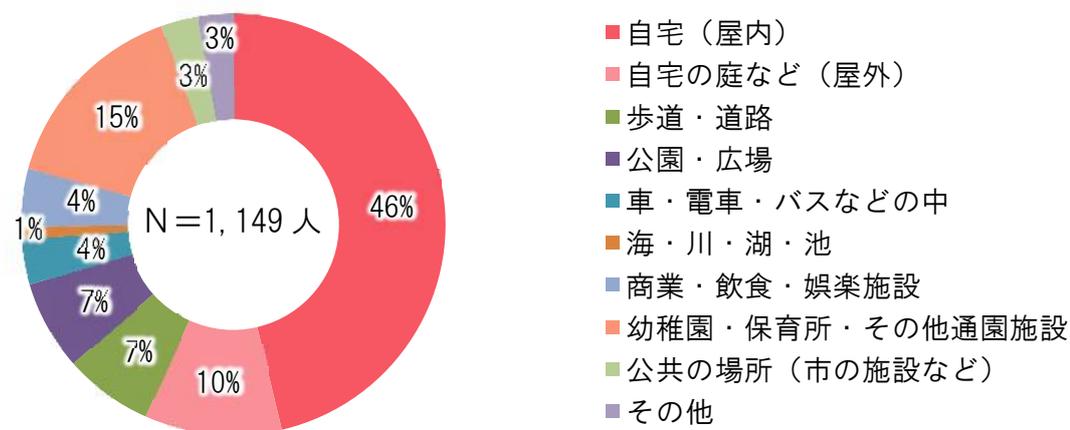
■データと課題

【課題1】 子どもの「けが」は、0～6歳の「一般負傷」が最も多くなっています。

(P13 図3-7)

【課題2】 けがの発生場所は、「自宅（屋内・屋外）」が最も多く、次いで、「幼稚園・保育所等」が多くなっています。

図4-4-③-1 0～6歳の事故発生場所の状況

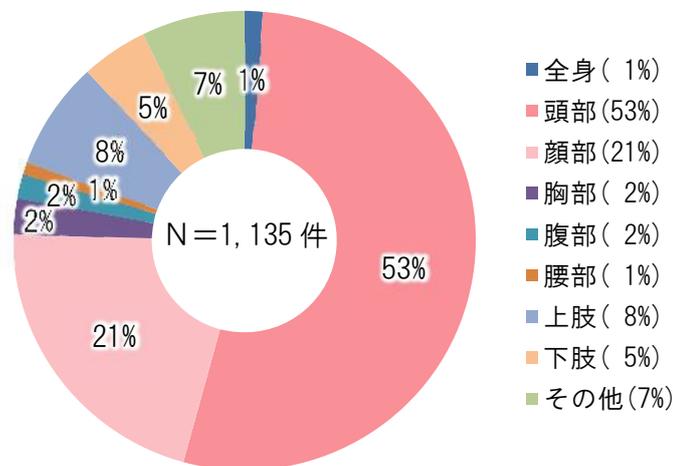


【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、0～6歳、2012～2014年度

【課題3】 子どものけがのうち、74%が頭部・顔部を受傷している。

図4-4-③-2 0～6歳の一般負傷受傷部位（救急搬送）



【出典】 市消防局調べ（市消防局）

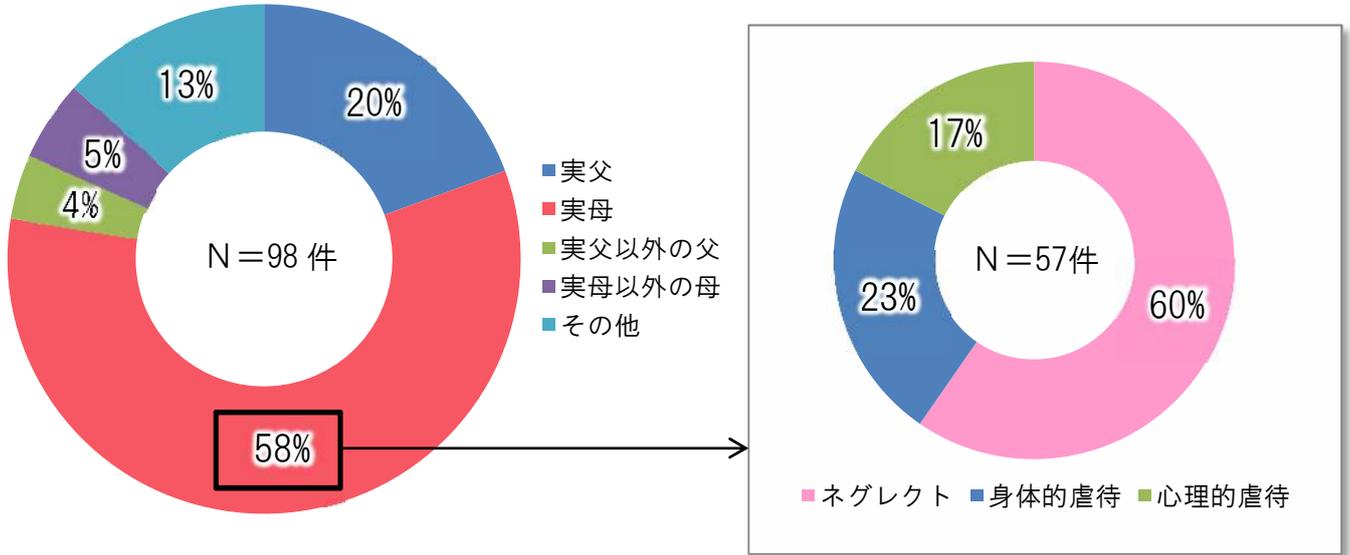
【データ】 市、両性、0～6歳、2014年度

【課題 4】 被虐待児のうち、0歳から6歳が約56%と過半数を占めています。

(P20 図 3-17)

【課題 5】 虐待者の約58%が実母で、虐待の種類は、ネグレクトが多くなっています。

図 4-4-③-3 虐待者の状況、主虐待者別虐待の種類

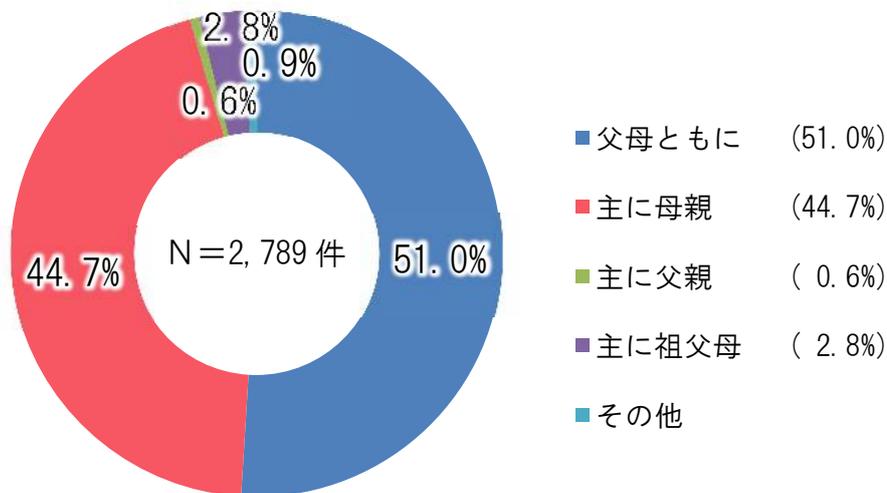


【出典】市こども福祉課調べ（本市受付分）

【データ】市、両性、0～18歳（2014年度）

図 4-4-③-4 子育てを主に行っている人（本市の子育ての状況）

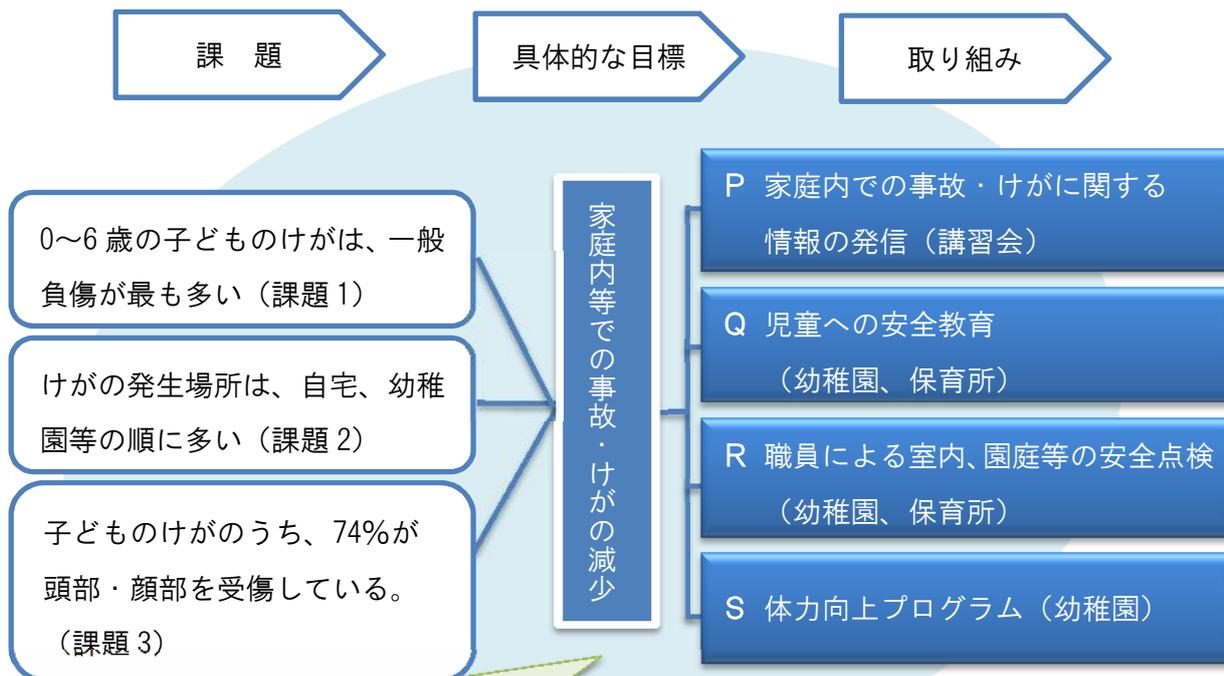
※鹿児島市では、主に母親が子育てを行っている状況が見られる。



【出典】子育てに関するニーズ調査（鹿児島市）

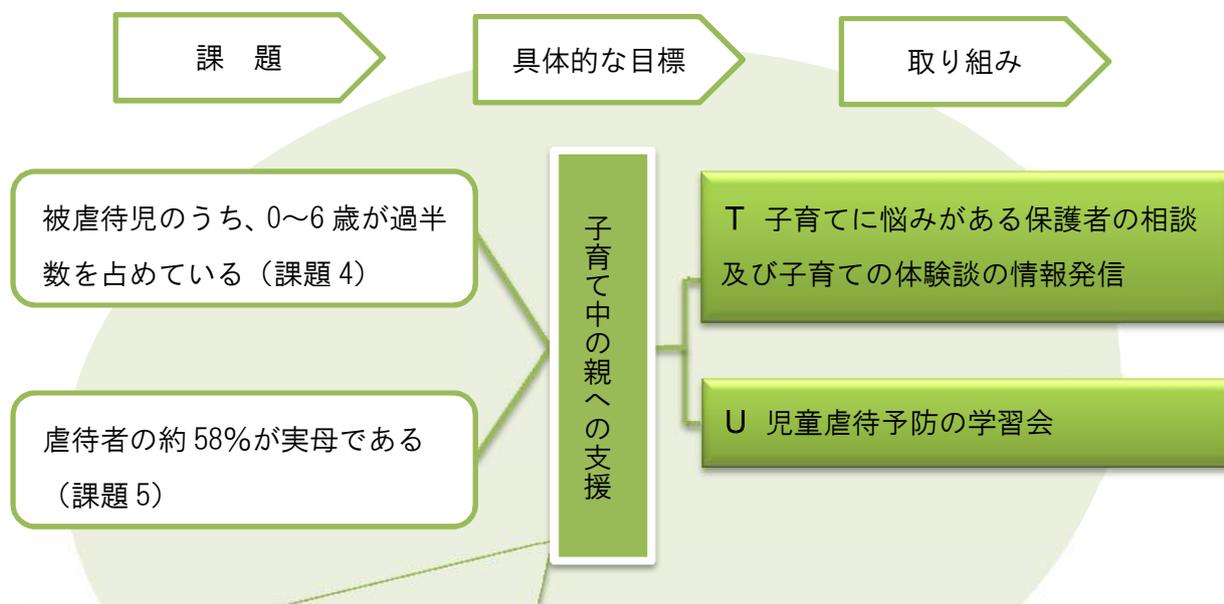
【データ】市、両性、0～9歳（2013年度）

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



■対策委員会での主観的な意見

- ・ 幼児期の運動能力の向上等を目的とした、「体力向上プログラム」を推進することで、子どもの事故・けがを防げると考える。



■対策委員会での主観的な意見

- ・ 子どもが健やかに育つ環境を大切にしたい。
- ・ 母親の不安を社会全体で見守る子育てや、父親の働き方の変化などが必要である。
- ・ 児童虐待になってからではなく、一次予防が重要であることから、職員への研修も必要である。

■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	(母親クラブ救命講習)
P 家庭内等での事故・けがに関する情報の発信（及び講習会） 【新規】	幼稚園、保育所、子育てサロン、母親クラブを利用している保護者	
実施者		
吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネット Early Years Center、鹿児島市 など		
実施内容		写真 4-4-③-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>保護者に対し家庭内での安全対策などを、アンケートや園便り等で情報発信を行う。</u> <u>また、家庭内の危険箇所マップをアンケート結果等を基に作成し、市内の全幼稚園、保育所、病院をはじめ、乳幼児健康診査時等に配布する。</u> 		

取り組み	対象者	(遊具の使い方指導)
Q 児童への安全教育	幼稚園、保育所の利用児童	
実施者		
吉田南幼稚園、興国保育園、鹿児島市		
実施内容		写真 4-4-③-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が児童に遊具の使い方や室内での過ごし方などの指導を行う。 特に、年長児には年下の児童にも注意することができるよう指導している。 		

取り組み	対象物	(注意喚起)
R 職員による室内、園庭等の安全点検	遊具、備品等	
実施者		
吉田南幼稚園、興国保育園		
実施内容		写真 4-4-③-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が、遊具等の安全点検を実施するとともに、けがが発生した場所、また、発生すると想定される場所を発見し、改善や注意喚起を行う。 		

取り組み	対象者	(体力向上プログラム) 
S 体力向上プログラム	幼稚園の利用児童	
実施者		
吉田南幼稚園		
実施内容		写真 4-4-③-4
<ul style="list-style-type: none"> 保育や自由遊びの中で「運動」・「身体を動かす楽しさ」・「発達」・「安全」など様々な視点から運動遊びの質、自由遊びの質の向上を目指すことで、体力も向上し、けがの予防につながることから、体幹を鍛えるプログラムを実施する。 		

取り組み	対象者
T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信【新規】	幼稚園、保育所、子育てサロン、母親クラブを利用している保護者
実施者	
吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネット Early Years Center、子どもの安全対策委員会、鹿児島市 など	
実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対する「事故・けが」のアンケートと同時に、子育てなどに悩みがある場合は、<u>記名していただき、対策委員が連携して相談を実施するとともに、保護者がこれまで体験してきた、子育て中の悩みや解決策を募集し共有することで、同じような悩みを抱えた方が、自分だけじゃないんだ。と思えるよう心のケアに取り組む。</u> 	

取り組み	対象者	(学習会) 
U 児童虐待予防の学習会【新規】	幼稚園、保育所の教諭・保育士	
実施者		
吉田南幼稚園、興国保育園、鹿児島子どもの虐待問題研究会、鹿児島市		
実施内容		写真 4-4-③-5
<ul style="list-style-type: none"> 対策委員などが講師となり、児童虐待に関する知識を深め、子どもからのサインを見逃さないよう、早期発見の方法を身に付ける。 		

〔2015 年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
P 家庭内等での事故・けがに関する情報の発信（及び講習会）		啓発活動の実施		
	危険個所マップの作成		危険個所マップの配付	
Q 児童への安全教育	随時実施			
R 職員による室内、園庭等の安全点検	随時実施			
S 体力向上プログラム	随時実施			
T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信		事例の募集	事例集の配布	実施
U 児童虐待予防の学習会	実施			

■モデル地区等の設定理由及び特徴

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園、保育所については、子どもの安全対策委員会に、市私立幼稚園協会、市保育園協会の代表者が所属していただいていることから、各代表者が運営する施設を選定（今後、モデル地区を協会内で順次広げていく予定） ・ 子育てサロンについては、興国保育園と同地域にあり、講師の派遣を受けるなど関連があることから選定 ・ 母親クラブについては、市母親クラブ連絡協議会の代表であり、また、公園、遊び場の事故防止のためのハザードチェックを日頃から行うなど、本対策委員会の取り組みに関連が深い活動をされていることから選定 	
モデル地区の特徴	吉田南幼稚園	対 象：0歳から小学校就学前の児童 定 員：95人
	興国保育園	対 象：0歳から小学校就学前の児童 定 員：90人
	大龍子育てサロン	対 象：0歳から3歳くらいまでの子どもと保護者 活 動：毎月1回 内 容：季節の行事や遊びなどを通して、仲間づくりや情報交換、育児についての悩みや不安などを語り合いながら、相互に交流を深め、子育てを地域ぐるみで支えあう
	地域子育てネット Early Years Center	対 象：0歳から小学校就学前の児童及びその兄弟、保護者 活 動：毎月1回 内 容：親子及び世代間の交流、文化活動、児童の事故防止等活動など

セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 市消防局において、データを細分化していただいたことにより、子どものけがについて、より具体的情報を得ることができるようになった。
- ◎ 子育て中の親に実施するアンケートを、ただのアンケートで終わらせるのではなく、相談まで行う体制を築くことができた。
- ◎ 「子どもの安全」に関し、多くの団体が関わっていることを再認識し、今後もネットワークを継続的に有意義なものとして維持していくことが必要であると考える。

■課題	■今後の展望
<p>◎取り組みT（子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信）について</p> <p>2014年度は、相談件数1件であった。</p> <p>推測であるが、相談するまでの内容ではない、「本市の相談体制が整っている」、「相談し辛い」など、1件という結果には様々な私情があるものと考えられる。</p>	<p>◎ 左記のようなことから、2015年度から新たに、「子育て体験談の情報発信」を加え、これまで保護者が体験してきた悩みを共有することで、相談に行くことのできない、保護者の心の支えとなるよう取り組みを進めていく。</p>

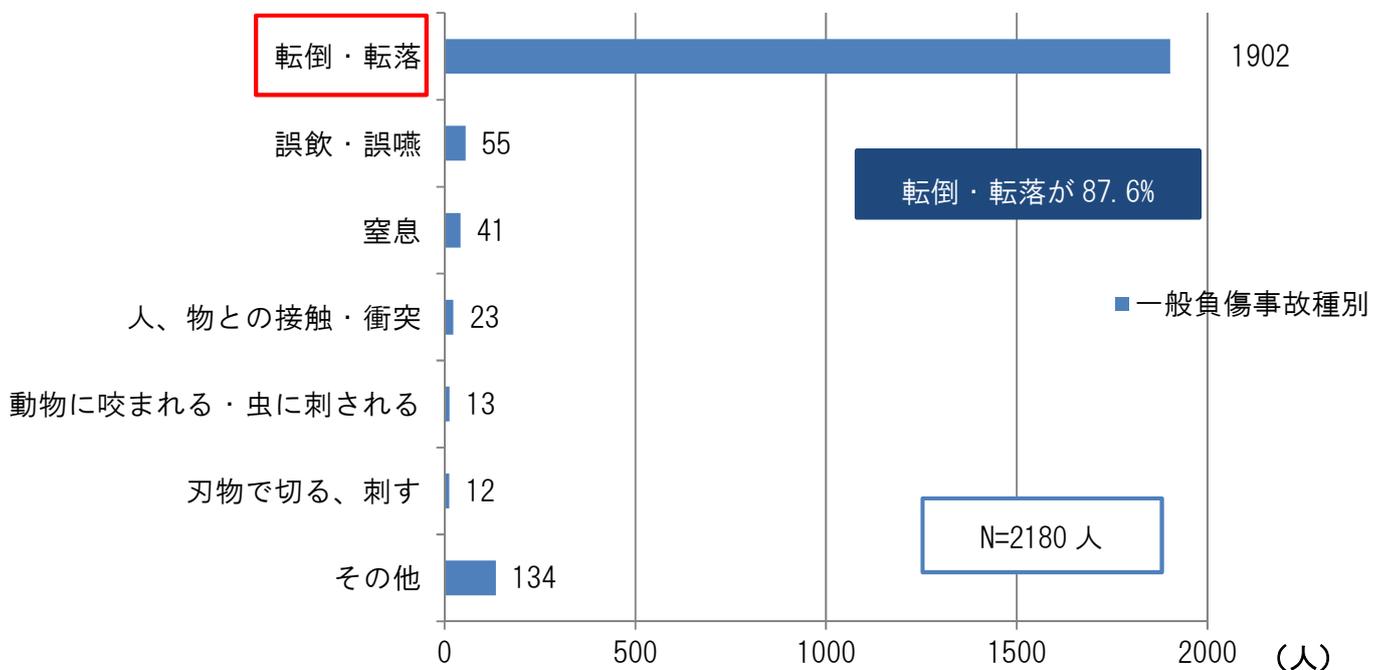
④ 高齢者の安全

■データと課題

【課題1】 高齢者の不慮の要因による死亡原因は、転倒・転落が多くなっています。
(P10 図3-3)

【課題2】 高齢者の一般負傷による救急搬送は、転倒・転落が約8割以上を占めています。

図4-4-④-1 高齢者の一般負傷による救急搬送



【出典】市消防局調べ（市消防局）

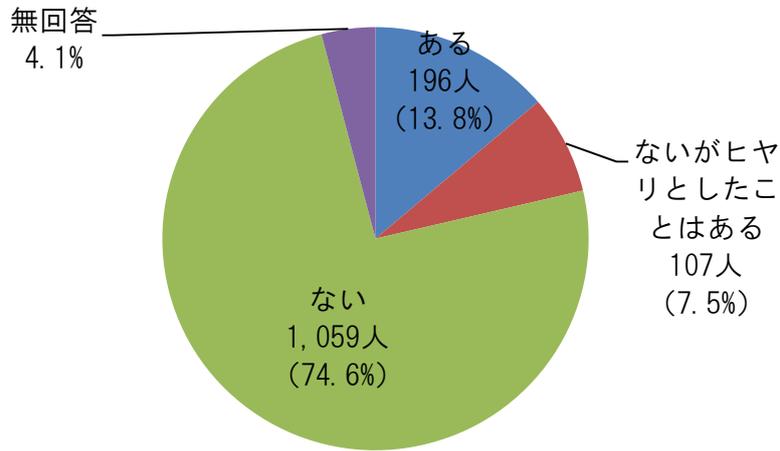
【データ】市、両性、65歳以上、2014年4月～2015年3月合計

【課題3】 事故やけがをした場所は、自宅や歩道・道路等が多く、事故やけがをした状況では、家事（日常の買物含む）や散歩時に多くなっています。

図 4-4-④-2 高齢者のけがの状況（けがの経験）

『問：この1年間のうち事故やけがの経験がありますか？』

(N= 1,420人、男738人、女682人)



【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

【データ】市、両性、65歳以上、2012年度

図 4-4-④-3 高齢者のけがの状況（けがした場所）

『問：この1年間のうち事故やけがをした場所はどこですか？』（LA）

(N= 211件)

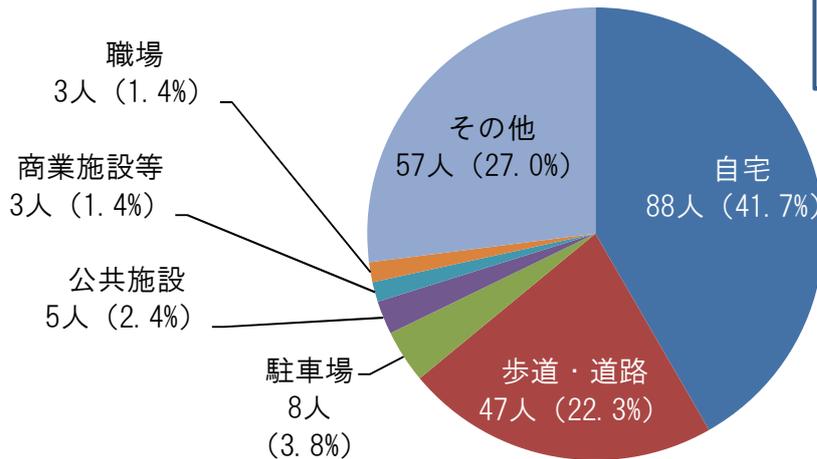


図 4-4-④-2 で
「ある」と回答した人

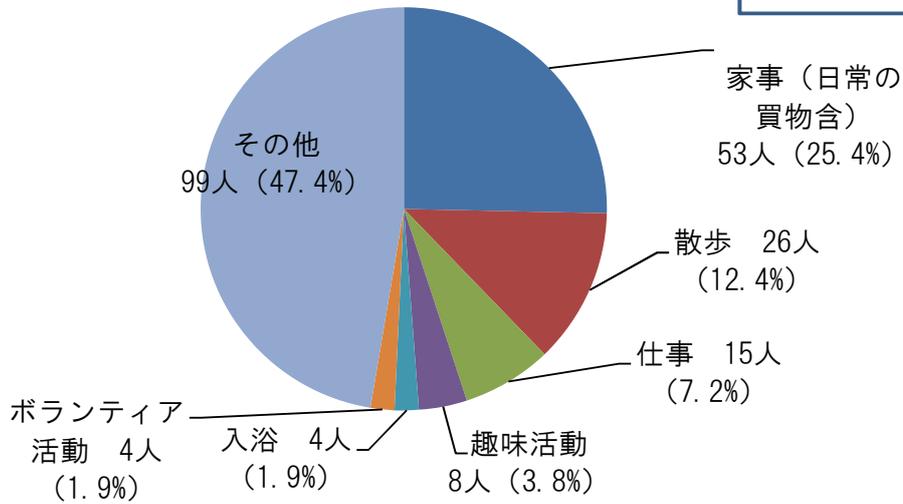
【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

【データ】市、両性、65歳以上、2012年度

図 4-4-④-4 高齢者のけがの状況（けがの状況）

『問：事故やけがをしたときの状況は？』（L A、N= 209 件）

図 4-4-④-2 で
「ある」と回答した人



【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

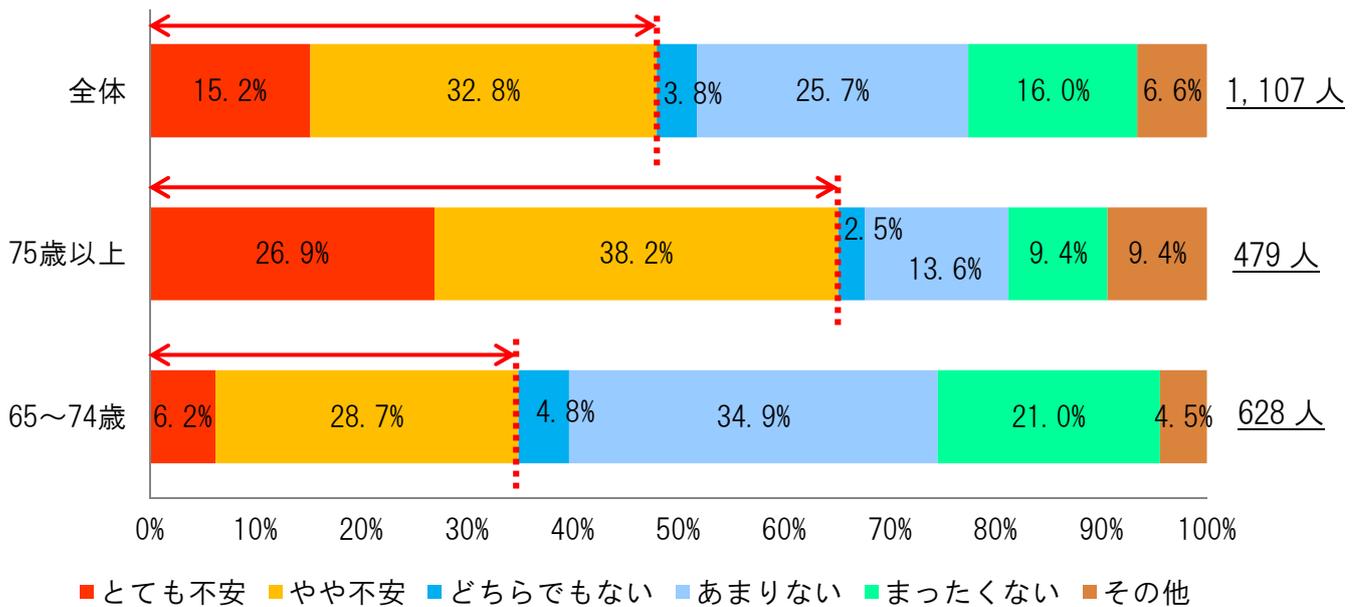
【データ】市、両性、65歳以上、2012年度

【課題 4】 転倒に対する不安は高齢になるほど大きくなっています。

図 4-4-④-5 高齢者の転倒に対する不安感

『問：転ぶことに対する不安はありますか？』（N= 1,107 人）

不安を感じている層（「とても不安」「やや不安」合計）

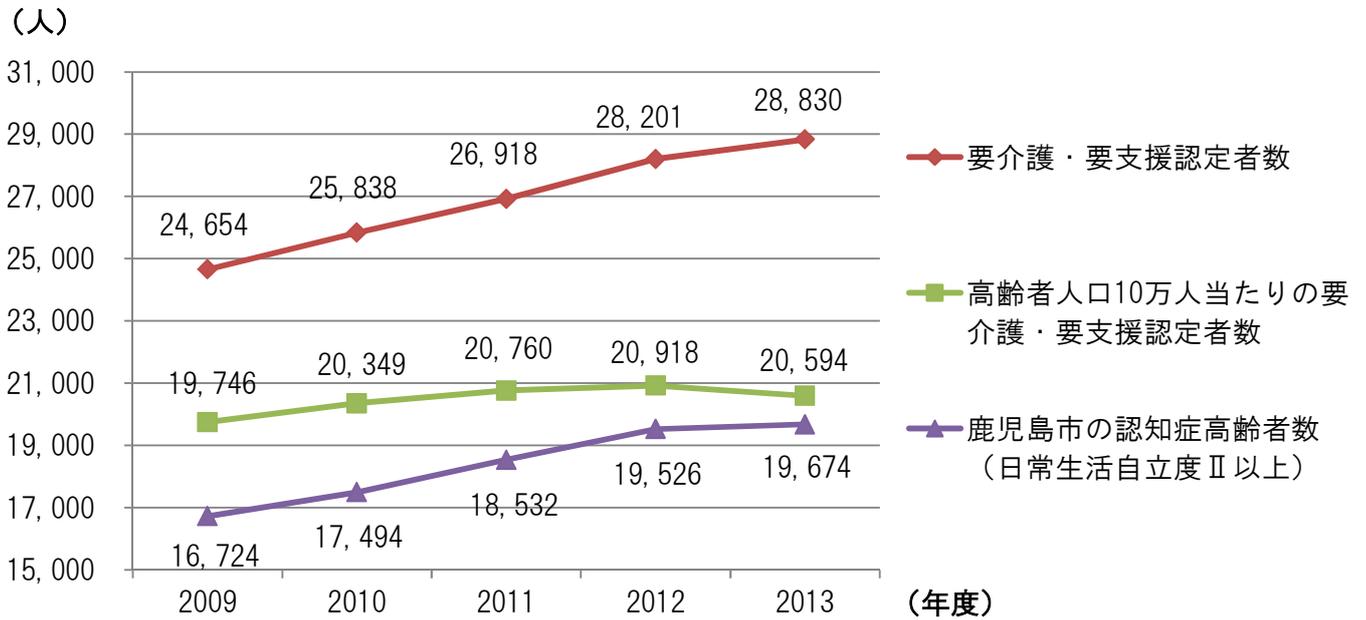


【出典】事故やけがに関するアンケート調査(鹿児島市)

【データ】市、両性、65歳以上、2014年度

【課題5】 要介護・要支援認定者が増えています。

図 4-4-④-6 要介護・要支援認定者の状況

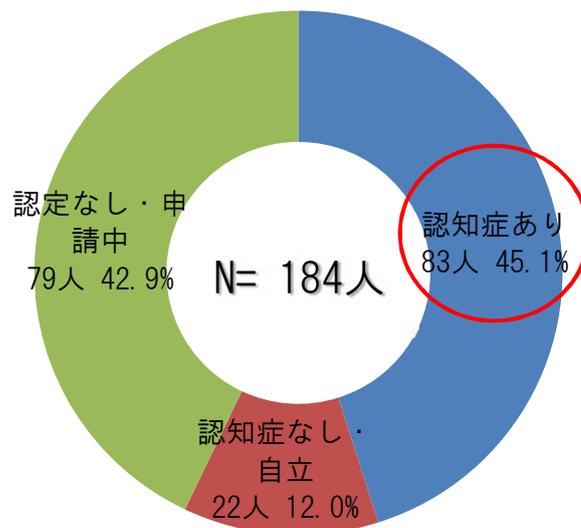


【出典】介護保険事業状況報告・住民基本台帳人口（鹿児島市）

【データ】市、両性、65歳以上、2009～2013年度

【課題6】 被虐待者のうち、45.1%の人が認知症です。

図 4-4-④-7 被虐待者のうち認知症高齢者の割合

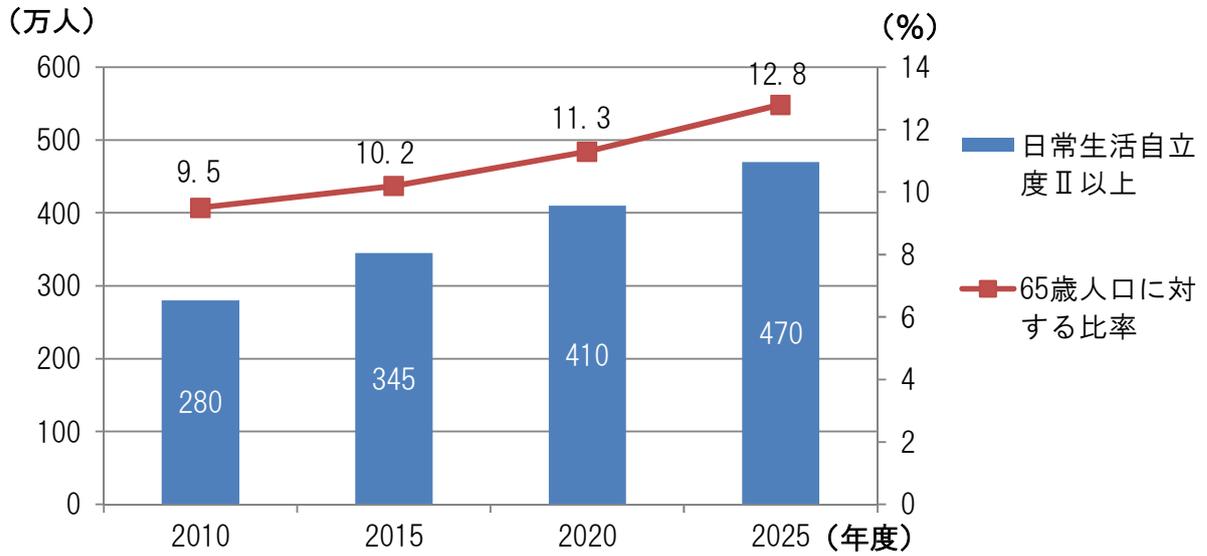


【出典】長寿支援課受付分（虐待対応件数のうち虐待を受けたと判断した事例）

【データ】市、両性、65歳以上、2011～2013年度

【課題7】 将来、認知症患者が増えると予想されます。

図 4-4-④-8 認知症高齢者の将来推計



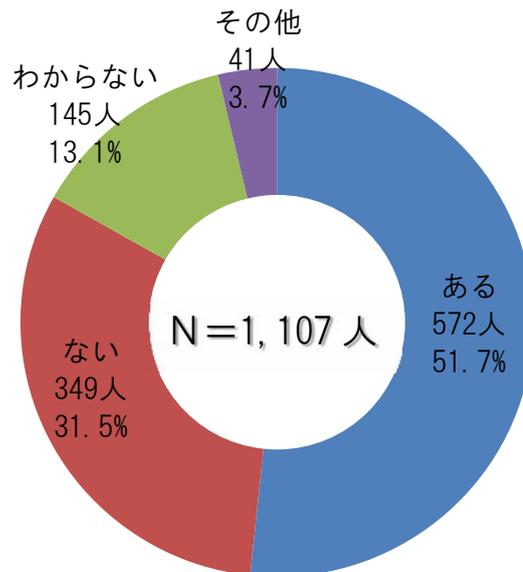
【出典】厚生労働省発表資料 (2012. 8. 24)

【データ】国、両性、65歳以上、2010~2025年度

【課題8】 認知症に対する不安や心配がある人が多くなっています。

図 4-4-④-9 自身の認知症に対する不安感

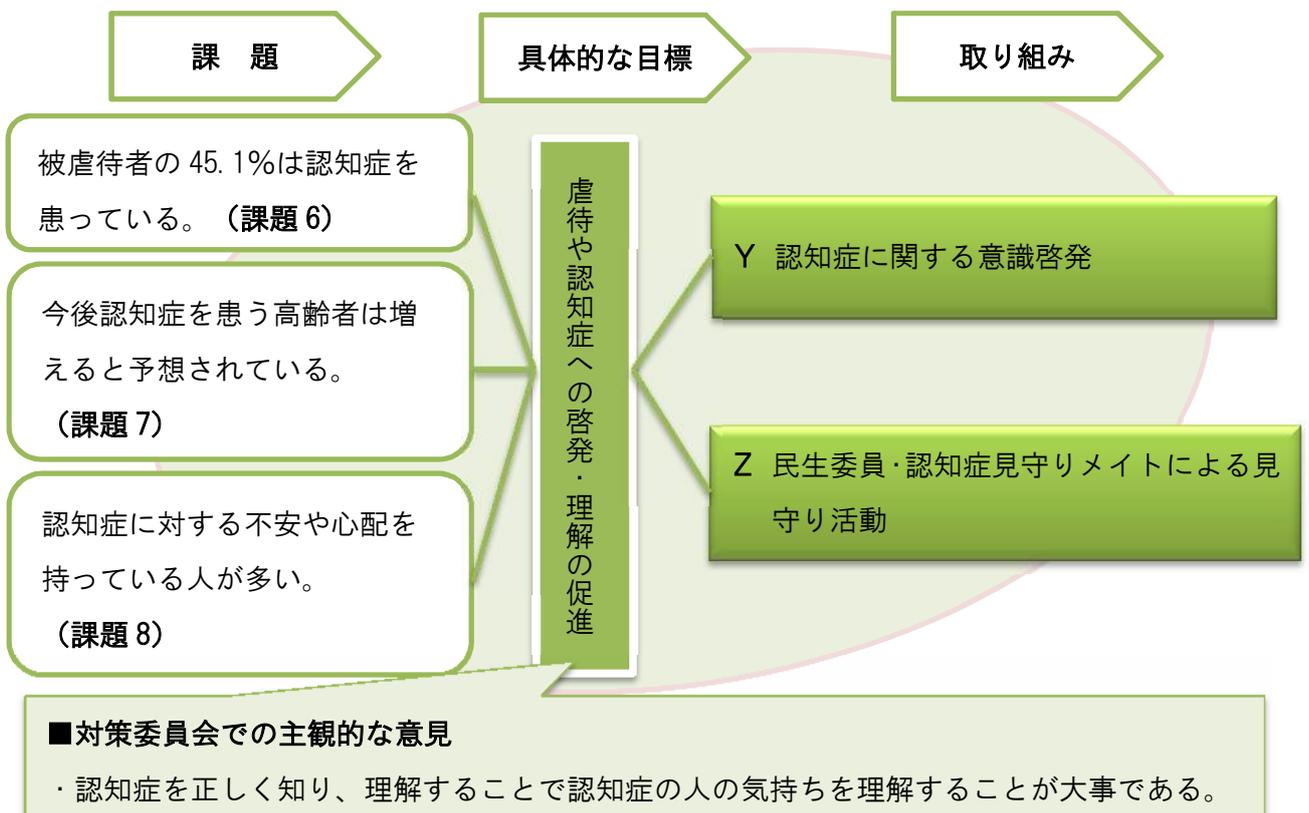
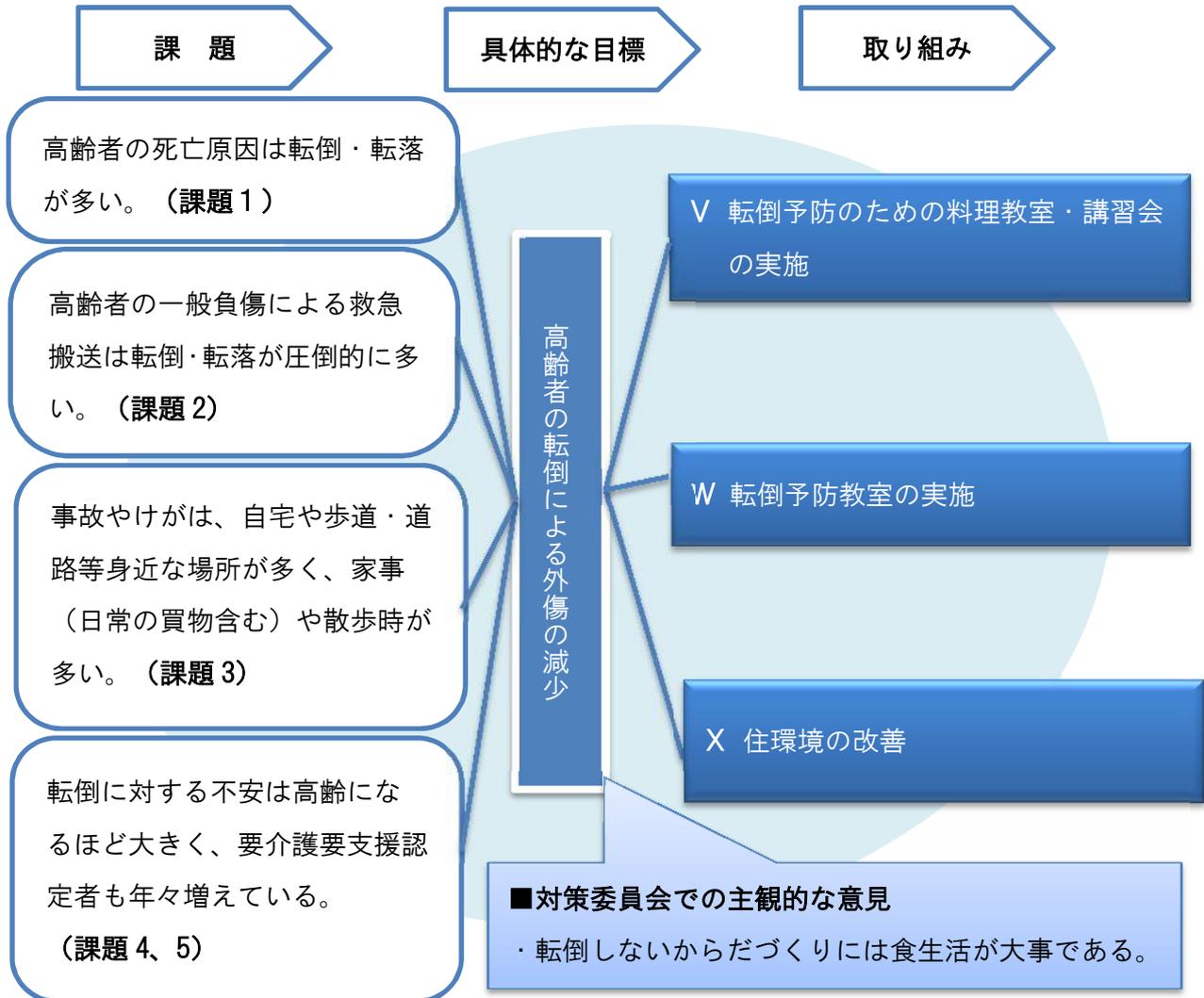
『問：あなたは、ご自身について、認知症に対する不安や心配がありますか？』



【出典】事故やけがに関するアンケート調査 (鹿児島市)

【データ】市、両性、65歳以上、2014年度

データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-④-1</p>
V 転倒予防のための料理教室・講習会の実施【拡充】	高齢者又は家族	
実施者		
皇徳寺台東町内会、市食生活改善推進員連絡協議会など		
実施内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 転倒しないためには丈夫な体づくりが大事で、高齢になると小食となり、たん白質やミネラルの吸収力も下がり気づくと栄養不足となりがちである。今までも料理教室を開催しているが、単なる料理教室ではなく、<u>食生活の大切さと体にいい献立を学んで、健康的な生活を維持するための食生活の意識向上を図る。</u> 		

取り組み	対象者
W 転倒予防教室の実施【拡充】	比較的元気な高齢者
実施者	
皇徳寺台東町内会、市健康づくり推進員協議会など	
実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 転倒しないための予防策として、加齢で生じる身体機能の低下を予防するためのトレーニングや日常生活の心がけを学ぶ。この教室は、<u>老人クラブ加入者のみを対象とした教室であったが、誰でも気軽に参加できるように対象者を拡充し、簡単に取り組みやすいくらく体操を実施するなど、一人でも安全にできる運動習慣を身につける。</u> 	

取り組み	対象者
X 住環境の改善【拡充】	高齢者又は家族
実施者	
高齢者の安全対策委員会、皇徳寺台東町内会、鹿児島市など	
実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居の段差解消、廊下や階段に手すりをつける等の改修をすることで、転ばないための住環境づくりを推進する。 ・ <u>寝たきりにならず、元気に高齢期をすごすため、「らくらく体操」や「住まいの点検」などを、ご家族や周囲の方々と一緒に行っていただくためのパンフレットを作成する。</u> 	

取り組み	対象者	 <p data-bbox="1121 488 1305 521">写真 4-4-④-2</p>
Y 認知症に関する意識啓発 【拡充】	地域住民、職域、学校、 高齢者又はその家族	
実施者		
皇徳寺台東町内会、認知症の人と家族の会鹿児島県支部 など		
実施内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症サポーター養成講座等で認知症がどのようなものであるのかを知り、認知症の予防やケアを知ることで自分自身への予防と、認知症の人の気持ちを理解する。 ・ <u>町内会の福祉部長を中心に開催し、家族や地域で認知症の人への接し方、相手の気持ちを大事にすることを学ぶ。</u> 		

取り組み	対象者
Z 民生委員・認知症見守りメイトによる見守り活動 【拡充】	認知症高齢者、地域住民（モデル地域）
実施者	
皇徳寺台東町内会、鹿児島市 など	
実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の実態把握のため、班長が各家庭を訪問し、家庭構成等聴取したことを地図に書き込み、一覧にまとめた福祉マップを作成する。このマップにより高齢者宅等見守り活動を行い、<u>今後、徘徊模擬訓練の開催を検討する。</u> ・ <u>認知症の予防・理解のためのパンフレットを作成し、住民の意識の向上を図る。</u> 	

〔2015 年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
V 転倒予防のための料理教室・講習会の実施		月1回実施		
W 転倒予防教室の実施		月2回実施		
X 住環境の改善		啓発活動の実施（随時）		<u>パンフレット作成</u>
Y 認知症に関する意識啓発		啓発活動の実施（随時）		
Z 民生委員・認知症見守りメイトによる見守り活動		随時実施		<u>パンフレット作成</u>

■モデル地区等の設定理由及び特徴

<p>設定理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会発足 23 年、加入率 93%と高く地域のために継続して活発に活動しているが、住民の高齢化が進むなかで将来を見越しての取り組みを必要としている。
<p>モデル地区等の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市の谷山地区で、市の中心部より西に位置している。 ・周辺に星ヶ峯ニュータウンや桜ヶ丘団地等大型団地があり、人口も増加傾向にある。 ・世帯数は 1,400 世帯である。 ・町内会発足当時は子育て世代であったが、現在は団塊の世代へ移行しつつある。 
<p>設定後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会でセーフコミュニティ会議を結成するとともに、住民主体の取り組みを積極的に行い、5年後、10年後の町内会を見据えた様々な取り組みを計画・実行しており、町内会が一体となり、住みやすいまちづくりを目指している。

セーフコミュニティ活動による変化や気づき

- ◎ 皇徳寺台東町内会役員が中心となり、モデル地区で新たにセーフコミュニティ会議が結成されるなど、地域の連帯感が強化されました。
- ◎ 対策委員会を通じて、町内会と各団体組織、行政などが実施している活動を共有でき、モデル地区においては、料理教室は食生活改善推進員の指導、認知症のことは認知症と家族の会鹿児島県支部からの講師派遣と、連携・協力体制が充実しました。
- ◎ これらのことから、対策委員会委員やモデル地区住民の双方の問題意識が向上し、高齢者の安全対策が充実してきました。

■課題	■今後の展望
◎ 参加者が一定の高齢者だけになってしまう傾向がある。	◎ 活動に参加しない人へは参加を促していき、高齢者だけでなく若い世代の参加が必要であり、地域住民が一体となって取り組んでいけるような具体的な方法を考える。
◎ 住民主体型のモデル地区取り組みをどう全市的に広めるか。	◎ モデル地区での取り組みを検証し、効果的な取り組みとなるよう、それぞれの地域に合うものを全域に拡大していく。

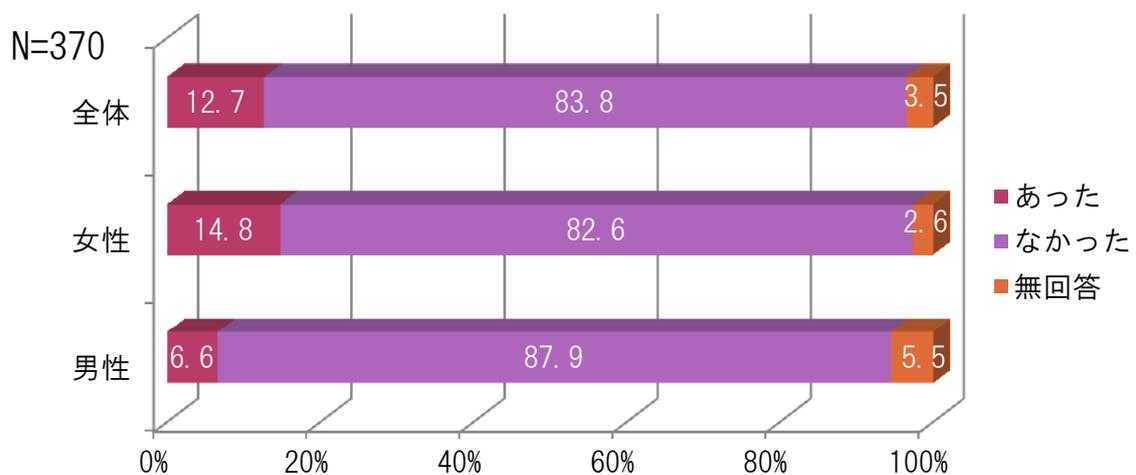
⑤ DV防止

■データと課題

【課題1】 男性に比べて女性の方がDV被害に遭う割合が高く、女性のDV被害者からの相談件数は増加傾向にあります。

(P18~19 図3-14、図3-14②、図3-15) (図4-4-⑤-1)

図4-4-⑤-1 配偶者からのDVにより命の危険を感じたことの有無



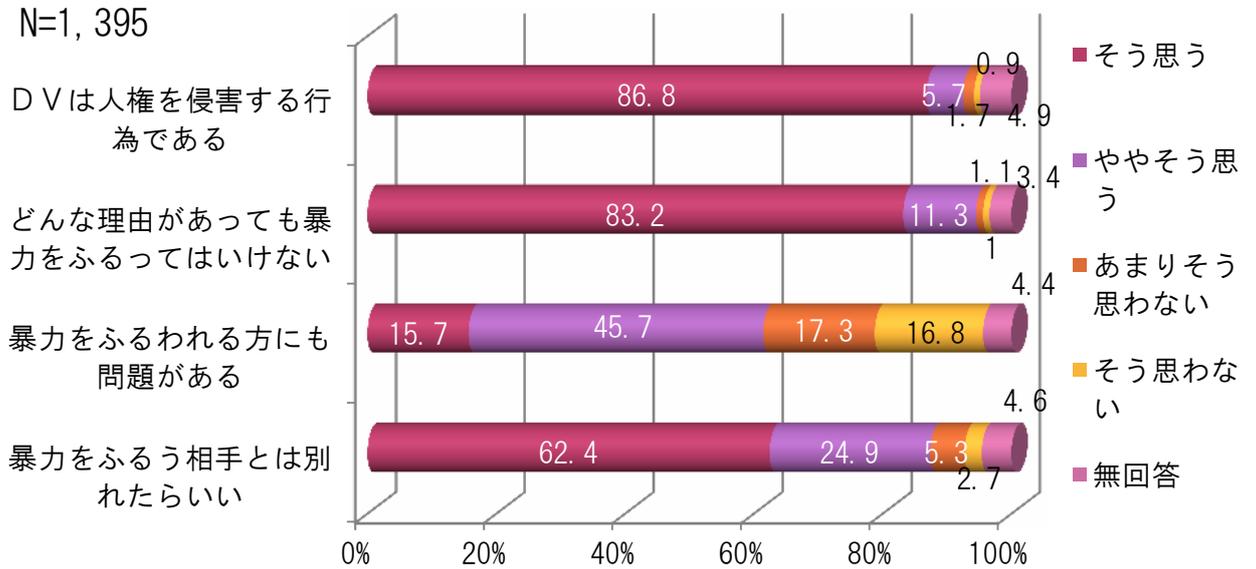
【出典】 鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、20歳以上、2010年度

【課題2】 誰にも（どこにも）相談しない人が多く、DVへの理解や相談先情報を充実させる必要があります。

図4-4-⑤-2 ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する市民意識

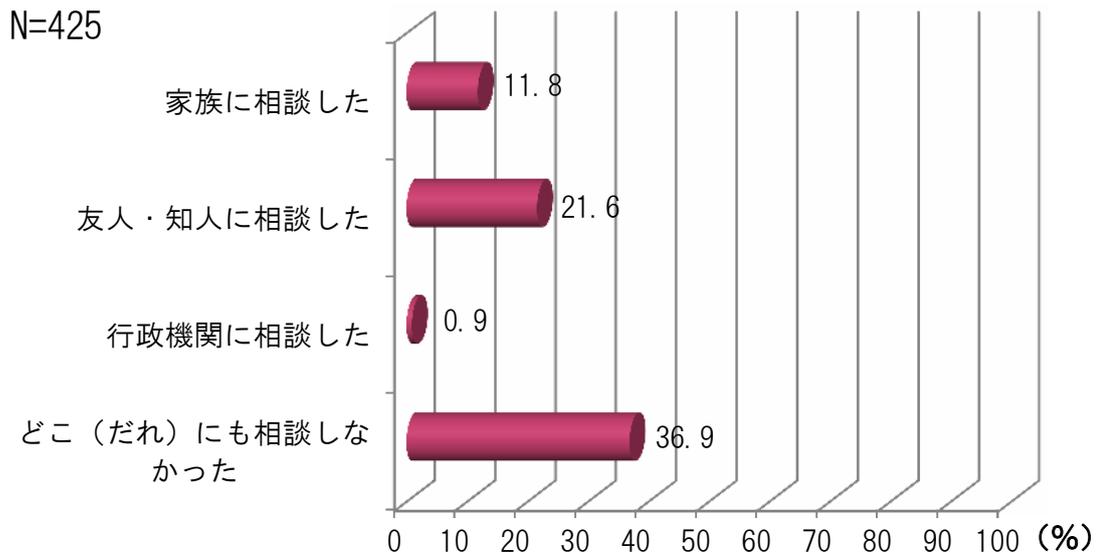
※複数回答、男女合計



【出典】 鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、20歳以上、2010年度

図4-4-⑤-3 DVにあった際の相談先の有無 ※複数回答、男女合計



【出典】 鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、20歳以上、2010年度

表 4-4-⑤-1 DVにあった際の相談先の有無 ※複数回答

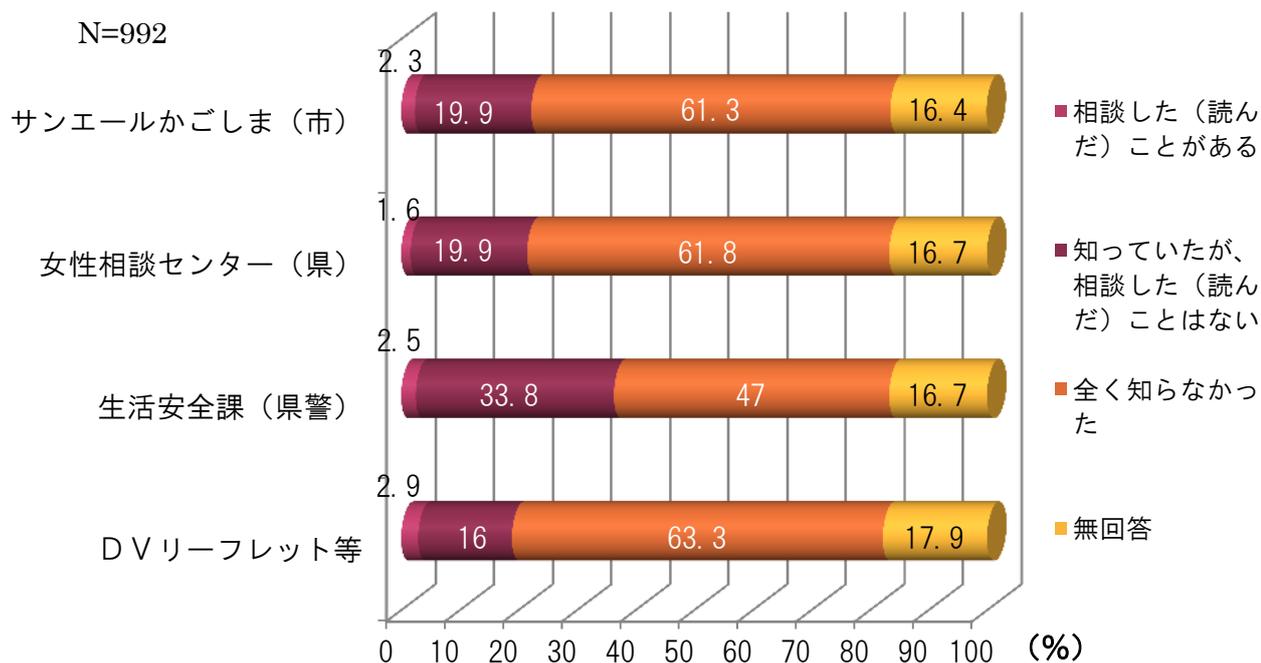
N=311 単位：%

	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した	どこ(だれ)にも相談しなかった
女性計	14.1	24.4	1.3	34.7
20代	16.0	48.0	0.0	36.0
30代	21.4	50.0	3.6	23.2
40代	19.6	35.3	0.0	41.2
50代	14.7	10.3	0.0	29.4
60代	7.1	11.8	2.4	40.0
70代以上	7.7	3.8	0.0	42.3

【出典】 鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査（鹿児島市）

【データ】 市、女性、20歳以上、2010年度

図 4-4-⑤-4 DVについての相談先やリーフレット等の認知度 ※複数回答、男女合計



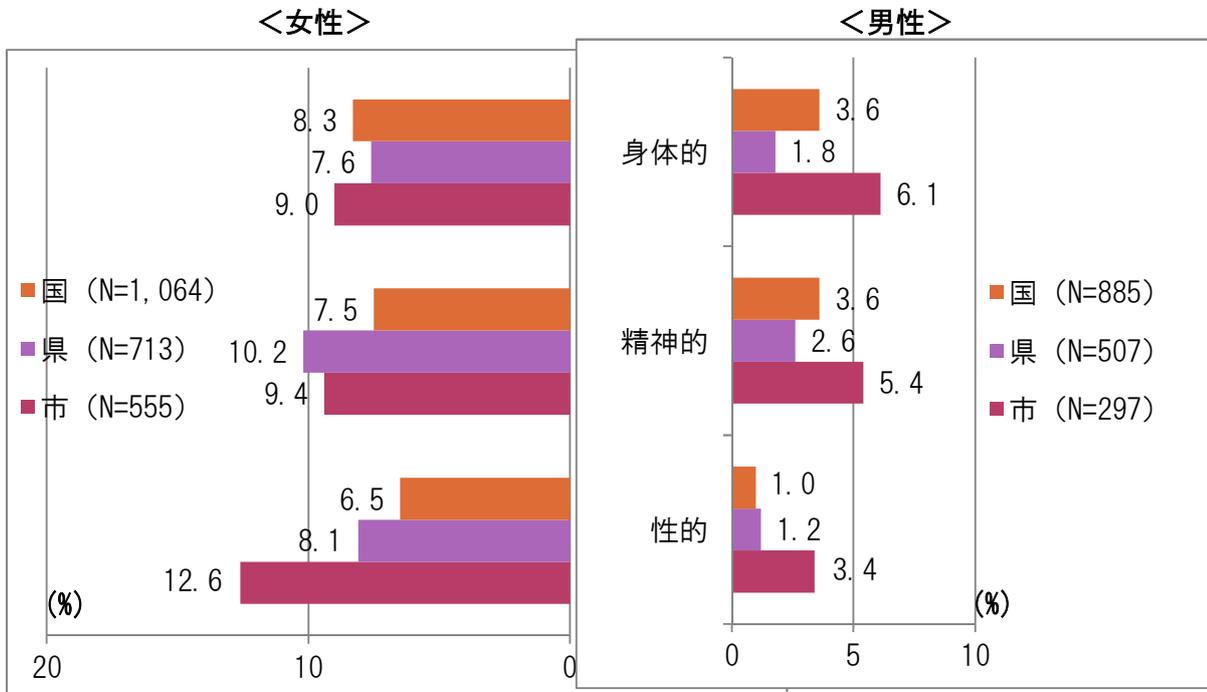
【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、16～64歳、2013年度

【課題 3】 DVは若者の間でも起きています。

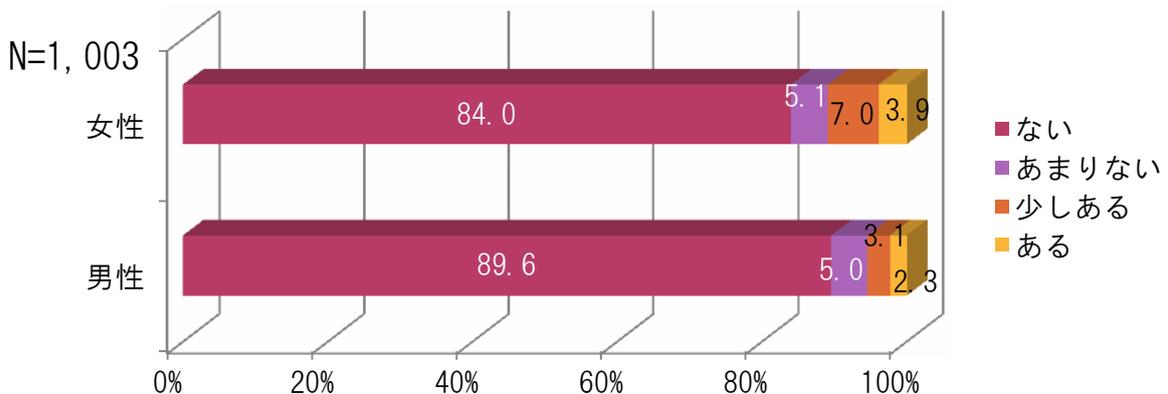
図 4-4-⑤-5 10～20 代における交際相手からのDV被害経験

※ 20 歳以上の方に、自身が 10～20 代のときにおける経験について質問したもの
(回答：何度もあった及び 1・2 度あった)



【出典】男女間における暴力に関する調査(国) 【データ】国、両性、20 歳以上、2012 年度
鹿児島の男女の意識に関する調査(県) 県、両性、20 歳以上、2012 年度
鹿児島市男女共同参画に関する市民意識調査(市) 市、両性、20 歳以上、2010 年度

図 4-4-⑤-6 鹿児島県高校生のデートDV被害体験率



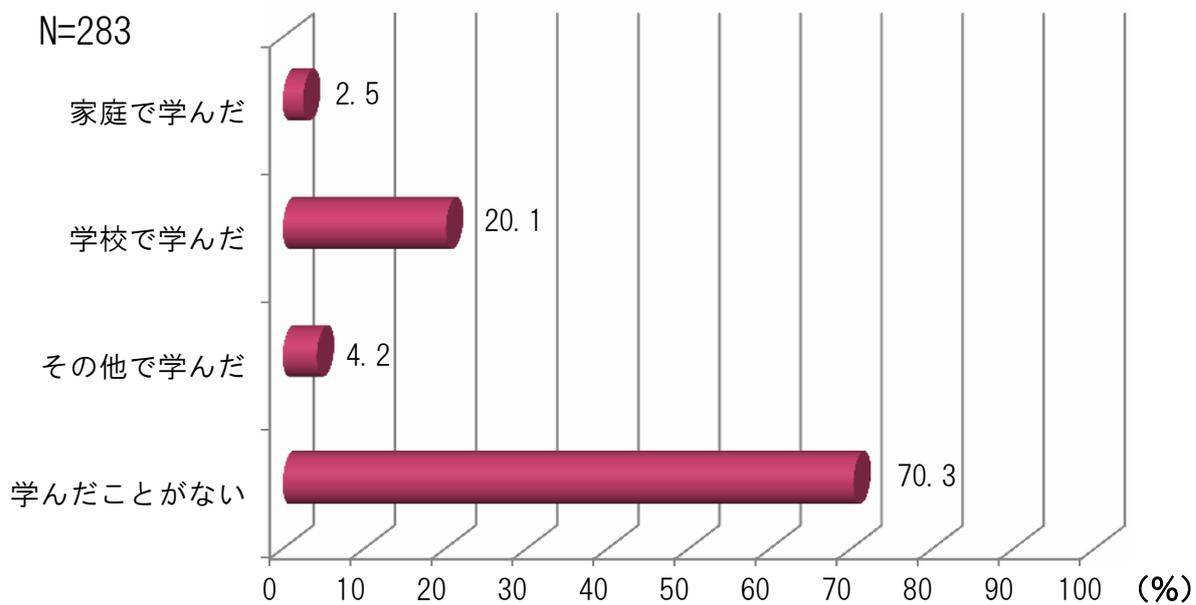
【出典】日本母性衛生学会発表(下敷領須美子氏他)

【データ】県内 5 校の高校生、両性、2007 年度

【課題 4】 若者の予防学習経験が少ない状況にあります。

図 4-4-⑤-7 DVの被害者や加害者にならないための学習経験（中学生）

※複数回答、男女合計



【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 市、両性、中学生、2013年度

DVの相談者は幅広い年齢層にわたっており、その多くは30代・40代 (P18 図 3-14②)

これまでのDVの予防啓発は、主にこの世代がケアされていた

既存の取り組みでカバーしている。

一方で、若年層でもDVは起きているが、相談件数は少なく、学んだことがない人が多い (P86~P87 図 4-4-⑤-5~7)

異性との交際や婚姻関係が増加する世代

予防という観点から既存の取り組みだけでカバーできない

10・20歳代の重点的な分析・取組が必要?

10・20代時の被害を予防する観点

将来の30・40代を予防する観点

若年層より上の世代でのDVの現状
【課題1】 【課題2】

・年々増加する被害者
・相談先を知らない(相談をしない)被害者が多い

若年層へのアプローチ

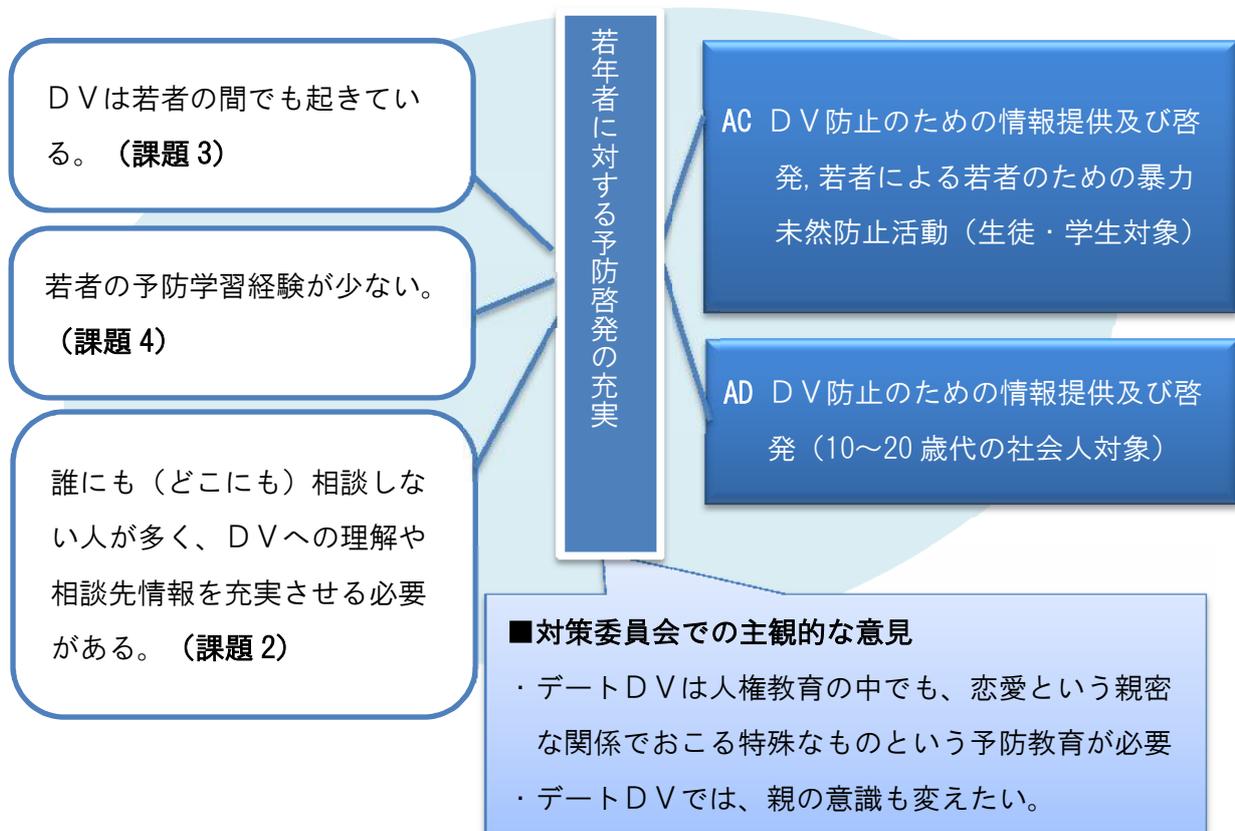
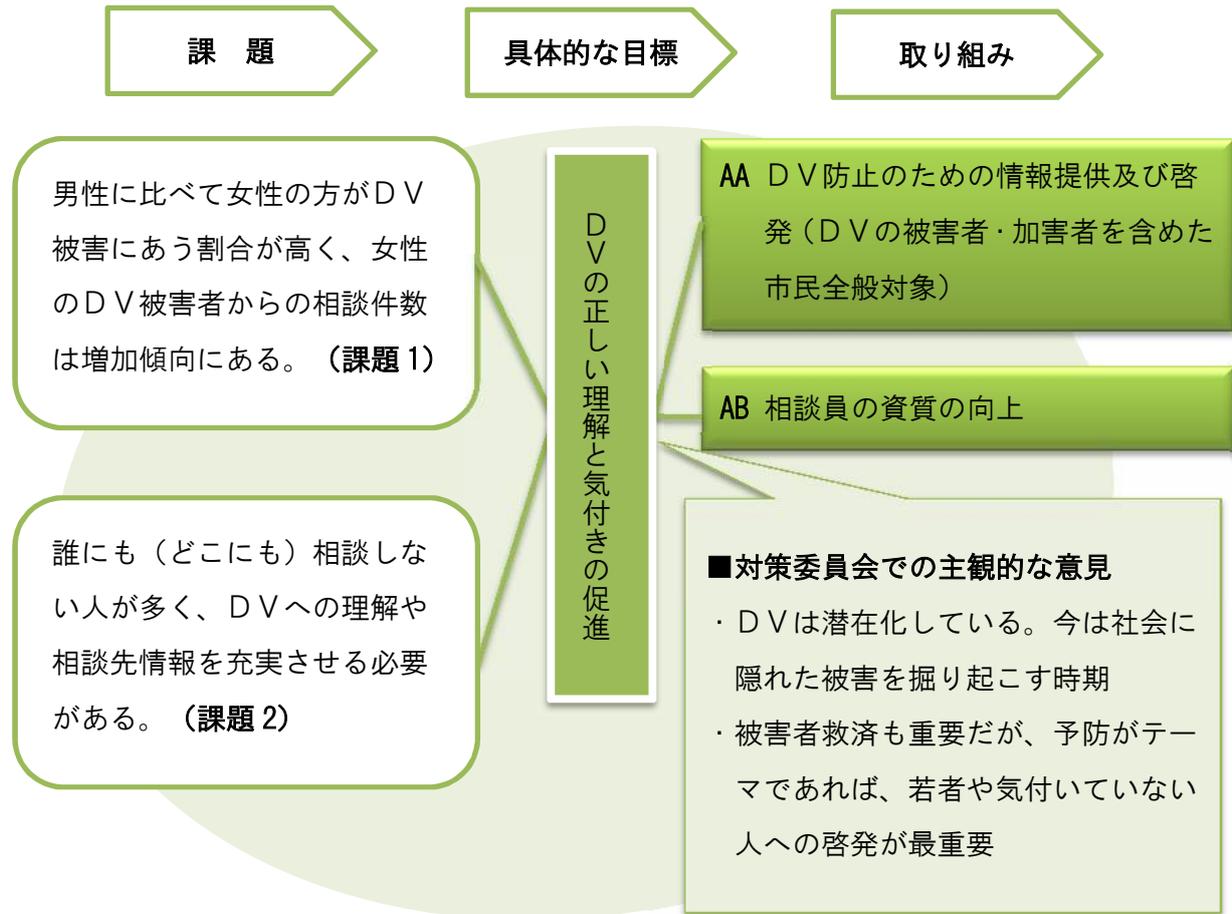
若年層のDVの現状と理解度の把握
【課題3】 【課題4】

DVについて正しく理解していれば将来、①加害者にも被害者にもなりにくく、30・40代の相談も減るのでは。②困った時の相談先を知っている(相談しやすい)はず。

DVが30・40代に多い要因の1つとして、若年層におけるDVに対する理解不足と交際や結婚生活における暴力との関係性について着目し、データを分析しました。

他の年代同様、若年層でもDVは発生している (図 4-4-⑤-5、図 4-4-⑤-6)。
しかしながら、20代女性では友人・知人に相談した人が約5割いる一方で、約4割の人がどこ(だれ)にも相談しておらず(表 4-4-⑤-1)、他の年代に比べ、若年層の相談が極端に少なくなっている(図 3-14②)。
この背景の一つとして、異性との親密な交際が増加しはじめる10代において、DVについての学習経験が不足しており、正しい理解をしていない人が多いことが挙げられる(図 4-4-⑤-7)。

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑤-1</p>
AA DV防止のための情報提供及び啓発【 <u>拡充</u> 】	DV被害者・加害者を含めた市民全般	
実施者		
県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆びあ☆かごしま、民間団体、鹿児島県、鹿児島市		
実施内容		
<p>・ 鹿児島市が作成したカードサイズのリーフレットの配布や、鹿児島県や鹿児島市が主催するパープルリボンキャンペーン中の街頭啓発活動等を通して、DV防止のための情報提供、啓発を行う。</p> <p>実施に際しては、DV防止対策委員会では、<u>パープルリボンキャンペーン中の街頭啓発活動の参加団体の増加</u>を図った。</p>		

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑤-2</p>
AB 相談員の資質向上【 <u>拡充</u> 】	DVの被害者支援に携わる者	
実施者		
鹿児島県、鹿児島市、県弁護士会、市医師会等		
実施内容		
<p>・ 鹿児島県や鹿児島市がDVに係る相談業務研修会等を開催し、DV防止対策委員会に所属する関係団体の相談員の資質向上を図る。</p> <p>実施にあたっては、DV防止対策委員会は、<u>相談員の自己評価アンケート及び来談者の相談満足度アンケートの実施</u>を検討する。</p>		

※ 相談員：DV被害者やその周囲の方からの相談に対応し、必要に応じ適切な機関等につなぐ支援を行う人

取り組み	対象者	
AC ・DV防止のための情報提供及び啓発 ・若者による若者のための暴力未然防止活動【拡充】	生徒・学生（中学生・高校生・大学生・専門学生）	
実施者		
学校、ピア☆ぴあ☆かごしま、鹿児島県、鹿児島県警察、鹿児島市、県弁護士会、市医師会等		
実施内容		写真 4-4-⑤-3
<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島市やDV防止対策委員会の関係団体が、デートDV講演会などの啓発活動を行う。実施に際しては、鹿児島市では、<u>デートDV講演会の実施校数の増を図った</u>ほか、<u>鹿児島市とぴあ☆ピア☆かごしまでは、新たに大学生によるデートDVピアエデュケーションを実施する予定。</u> 		

取り組み	対象者	
AD DV防止のための情報提供及び啓発【拡充】	10～20歳代の社会人	
実施者		
県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆ぴあ☆かごしま、民間団体、鹿児島県、鹿児島市等		
実施内容		写真 4-4-⑤-4
<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島市が作成したカードサイズのリーフレットの配布や、鹿児島県や鹿児島市が主催するパープルリボンキャンペーン中の街頭啓発活動等を通して、DV防止のための情報提供、啓発を行う。実施に際しては、DV防止対策委員会では、<u>パープルリボンキャンペーン中の街頭啓発活動の参加団体の増加を図った。</u> 		

〔2015 年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
AA DV防止のための情報提供及び啓発（DV被害者・加害者を含めた市民全般向け）		啓発活動の実施		
		パープルリボンキャンペーン		
AB 相談員の資質向上		研修会等の実施		
		アンケート実施に向けた検討		
			アンケート実施予定	
AC DV防止のための情報提供及び啓発 ・若者による若者のための暴力未然防止活動		デートDV講演会等の実施		
AD DV防止のための情報提供及び啓発（10～20歳代の社会人向け）		啓発活動の実施		
		パープルリボンキャンペーン		

セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 対策委員会ができたことにより、関わりの少なかった関係団体と繋がり、ナマの声を聞けたことで、DV被害者支援活動を連携して取り組める雰囲気は生まれました。
- ◎ 官民の支援者の顔が繋がったことで、実際に実務での連携がスムーズになりました。
- ◎ これらのことから、対策委員会委員及びその所属団体の問題意識がさらに向上し、例えばDV防止対策委員会委員の所属団体が新たに参加して行った街頭啓発活動や、鹿児島市と「ぴあ☆ピア☆かごしま」が協力して開催準備を進めているデートDVピアエデュケーションなど、セーフコミュニティをきっかけにDV防止対策がより充実したものとなりました。

■課題	■今後の展望
<p>◎ 潜在化しているDV被害者の掘り起こし ⇒行政等からの情報に気付いてもらうのが 難しい現状</p> <p>◎DVの被害状況の把握⇒相談件数ではな く、被害実数の把握が困難</p> <p>◎ デートDV講演会等実施校の増⇒学校や 講師との日程調整等が難しい現状</p> <p>◎ 相談員や相談者を対象としたアンケート の実施方法⇒特に相談者の相談満足度を把 握するアンケートの実施について検討が必 要</p> <p>◎ アルコールがらみの虐待</p>	<p>◎ パープルリボンキャンペーン期間中に、 カップルや子ども連れの若い夫婦が多く訪 れる水族館や大型商業施設における街頭啓 発活動など効果的な場所での街頭啓発活動 や、カードサイズのリーフレットなどの啓 発配付物の効果的な設置場所の検討</p> <p>◎ 潜在している被害の実数は把握が困難な ため、県警が把握しているDV被害認知件 数の活用についての検討</p> <p>◎ 学校のカリキュラムが固まる前の早期募 集やクラス単位での実施など、より多くの 学生へアプローチできる手段の検討</p> <p>◎ 相談員や相談者を対象とするアンケート 調査を実施するにあたり、実施方法や質問 方法等の検討</p> <p>◎ アルコール依存の解決を得意とする医療 機関への情報提供や連携の検討</p>

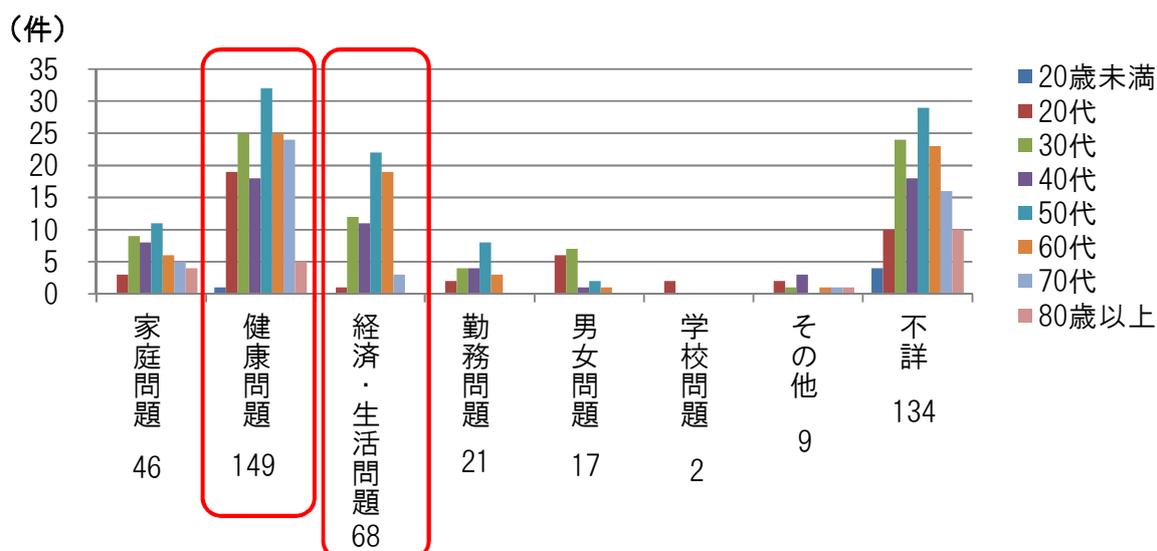
⑥ 自殺予防

■データと課題

【課題1】 50・60歳代の自殺の原因では、「健康問題」、「経済・生活問題」が多く、「経済・生活問題」の内訳をみると、「負債」が多い。

図 4-4-⑥-1 自殺の原因別件数

(複数回答3つまで、回答者実数 356 人、回答総数 446 件、両性、全年齢)



【出典】自殺統計原票データの特別集計（発見日・住居地）（内閣府）
【データ】市、2011～2013年合計

自殺統計において、自殺の原因は
①健康問題 ②経済・生活問題 の順で多い
(一人に3つまで挙げられる)

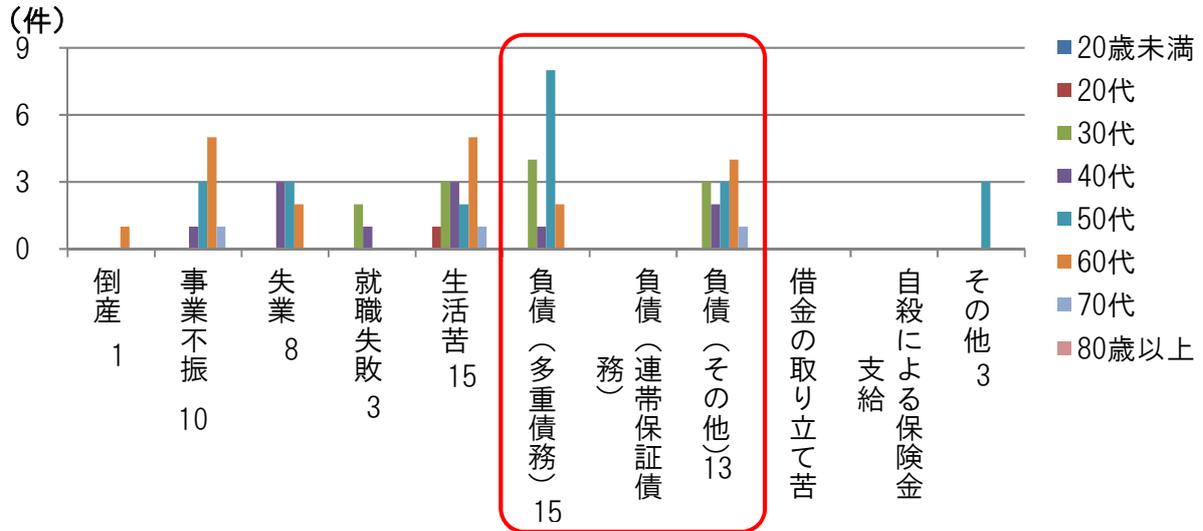


社会的な取り組みを進めるために「経済・生活問題」に着目して、データを分析しました。

自殺は、様々な要因が複雑に関係しており、多くは、自殺の直前にうつ病などの精神疾患を発症するとされている。

図 4-4-⑥-2 自殺の原因別件数（経済・生活問題の内訳）

（回答数 68 件、両性、全年齢）



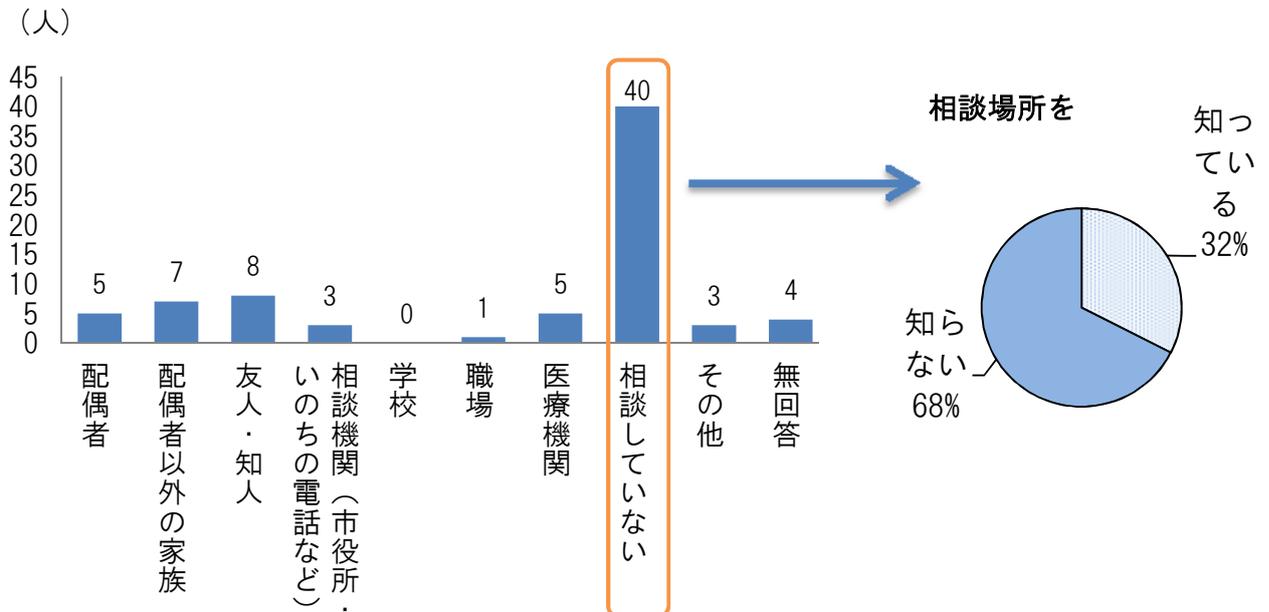
【出典】自殺統計原票データの特別集計（発見日・住居地）（内閣府）

【データ】市、2011～2013 年合計

【課題 2】 自殺を考えた時、相談していない人が多い。

図 4-4-⑥-3 自殺を考えた時の相談先

（複数回答可、回答者実数 68 人、回答総数 76 件、両性、50～69 歳）



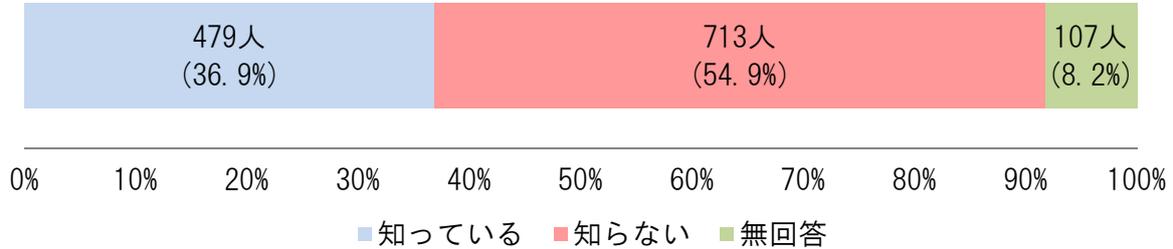
【出典】事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】市、2013～2014 年度合計

【課題3】 自殺に関する相談窓口を知らない人が多い。

図 4-4-⑥-4 自殺について相談できるところを知っている割合

(回答者 1,299 人、両性、50~69 歳)



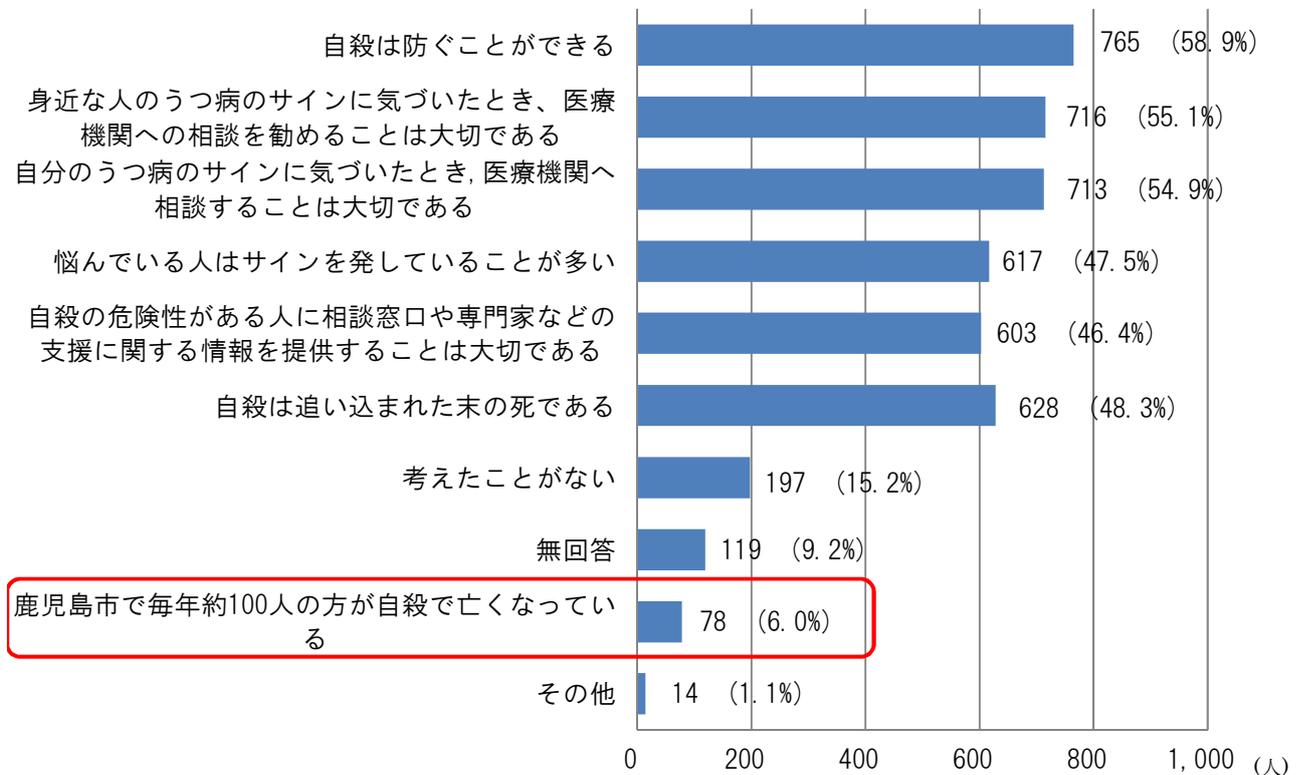
【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 市、2013~2014 年度合計

【課題4】 自殺の現状を知っている人が少ない。

図 4-4-⑥-5 自殺についての認識について

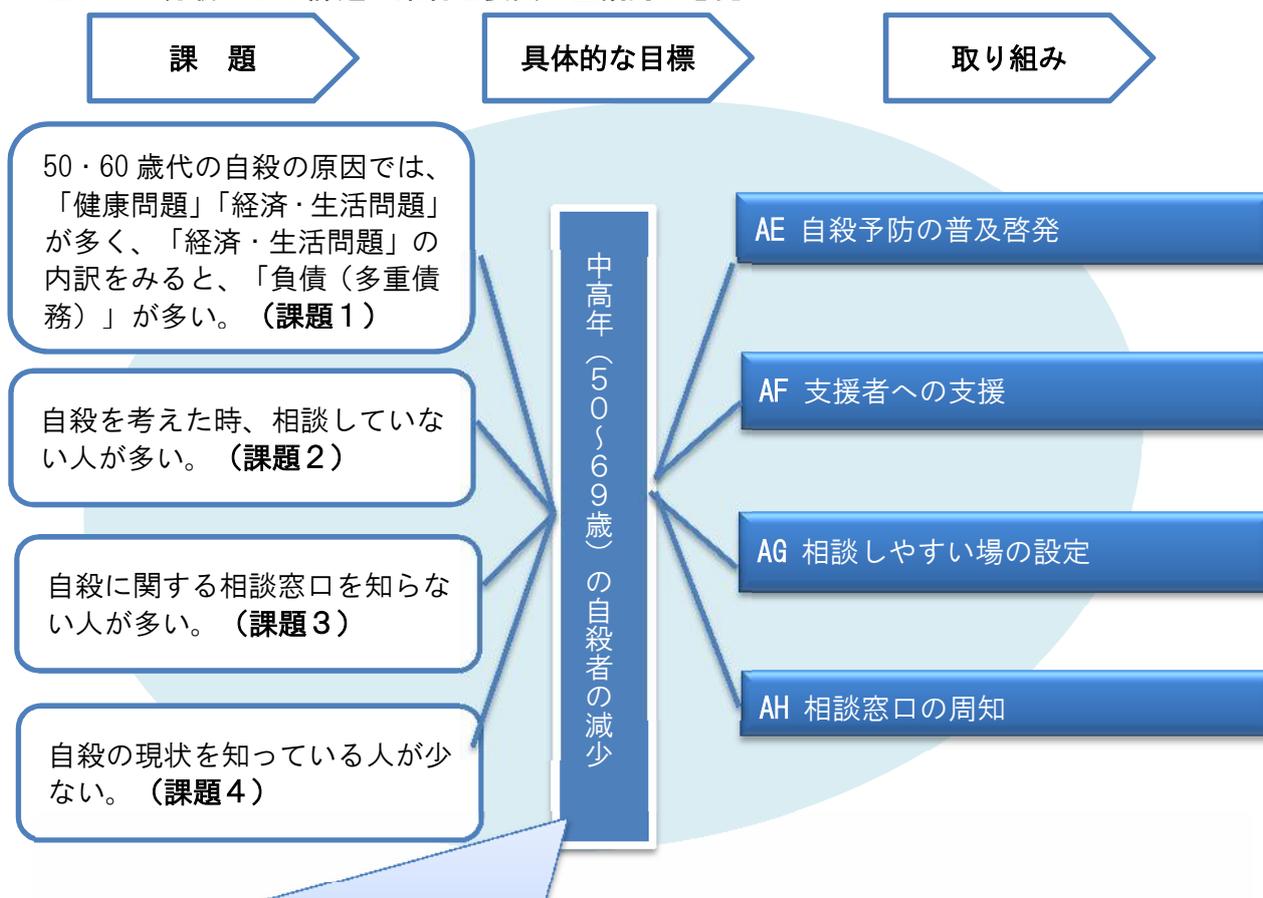
(複数回答可、回答者実数 1,299 人、回答総数 4,450 件、両性、50~69 歳)



【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 市、2013~2014 年度合計

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



■対策委員会での主観的な意見

広報は、対象者に効果的な方法を検討する必要がある。
相談窓口をなぜ知らないのか？そこが分かってくると対策のしほりこみができるのではないか。自分で相談できない状況もある。

■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	
AE 自殺予防の普及啓発 【拡充】	中高年(50~69歳) とその周囲の人	 <p>写真 4-4-⑥-1</p>
実施者		
市医師会、県看護協会、鹿児島労働基準監督署、鹿児島産業保健総合支援センター、県精神保健福祉士協会、県臨床心理士会、鹿児島県、鹿児島市など		
実施内容		
<p>・ <u>自殺予防対策委員会に属する関係機関が講演会等を開催し、本人やその周囲の人が精神疾患や自殺予防についての知識やその対応を学ぶことができる機会を提供する。自殺予防週間や自殺対策強化月間を重点的に、普及啓発のための広報やチラシの配布等を実施する。</u></p>		

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑥-2</p>
AF 支援者への支援【拡充】	自殺を考えている 人の周囲の人	
実施者		
県弁護士会、県司法書士会、県看護協会、県臨床心理士会、県 薬剤師会、市民生委員児童委員協議会、県精神保健福祉士協会、 県理容協会、鹿児島県、鹿児島市など		
実施内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺予防対策委員会が、悩んでいる人に気づき、寄り添い、適切な相談機関につなぐゲートキーパーを養成する。市民を対象とした講座や自殺予防対策委員会に属する関係機関が開催するなど、多くの人を受講できる機会を作っている。 また、<u>ゲートキーパーが養成講座受講後も継続して自殺の現状や知識・支援の方法を学べるようにスキルアップ講座を開催し、ゲートキーパーの資質向上を図る。</u> 		

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑥-3</p>
AG 相談しやすい場の設定【拡充】	中高年（50～69歳） とその周囲の人	
実施者		
鹿児島いのちの電話協会、市医師会、県弁護士会、県司法書士 会、県臨床心理士会、県精神保健福祉士協会、市社会福祉協議 会、鹿児島労働基準監督署、NPO いじめ対策プロジェクト、鹿 児島県警察、鹿児島県、鹿児島市など		
実施内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関が、自殺に至る様々な要因に対応できる既存の相談を、<u>事故やけがに関するアンケート調査の結果から得られた相談につながりやすい場所や時間、手段等を参考に検討し、必要に応じて変更する。</u>また、関係機関が連携して相談を受けられる場を自殺予防対策委員会で検討していく。 		

取り組み	対象者	
AH 相談窓口の周知【拡充】	中高年（50～69歳） とその周囲の人	
実施者	ゲートキーパー、鹿児島いのちの電話協会、市医師会、市薬剤師会、市立病院がん相談支援センター、鹿児島産業保健総合支援センター、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市など	
実施内容		
<p>・ 自殺予防対策委員会が、相談窓口案内カードを作成する。作成においては、対象者が相談につながるように内容を検討し、また対象者にカードが届く効果的な配布・設置方法についても検討する。相談窓口案内カードの配布・設置については、関係機関と連携して取り組む。</p>		

写真 4-4-⑥-4

〔2015年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
AK 自殺予防の普及啓発	随時実施	自殺予防週間	自殺対策強化月間	
AL 支援者への支援		随時実施		
AM 相談しやすい場の設定	詳細検討		随時実施	
AN 相談窓口の周知	設置場所の検討	カードの設置と状況確認	内容の再検討・作成	

■セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 内閣府から得られた「鹿児島市特別集計」とセーフコミュニティの「事故やけがに関するアンケート調査」から、取り組みの対象者（50～69歳）の自殺の原因やその背景を詳細に分析することができました。
- ◎ 自殺予防対策委員会を通して、会議の開催回数が増え、課題をより具体的に抽出することができるようになりました。
- ◎ 課題に対してどう取り組むかという具体的な意見が出され、委員の連帯感がうまれ、相談事業等において相互協力体制を取ることができました。
- ◎ 委員が協力し合い、相談しやすい場の検討を行う中で、相談会の開催に向けた検討がなされるようになりました。

■課題	■今後の展望
◎ 鹿児島市の自殺の課題を、地域の背景・特性（アルコールの消費量や性別の考え方の特徴など）をふまえてさらに検討を重ねる必要がある。	◎ 関係機関が、日頃の業務を行う中で感じる地域の背景や特性を出し合い、本市ならではの具体的な取り組みの検討を行い、関係機関での取り組みにつなげていく。

⑦ 防災・災害対策

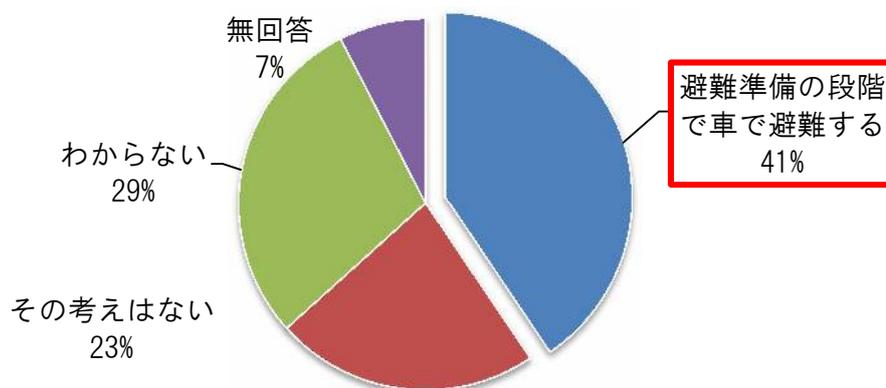
■データと課題

【課題1】 事前避難予定者が4割いますが、実際に避難した人と避難していない人を把握できない状況です。

【課題2】 課題1の結果、避難フェリーの出港判断が難しい状況です。

図 4-4-⑦-1 住民の避難状況

『問：「避難勧告」前の段階で、車等で島外に事前避難しますか？』（N= 439人）



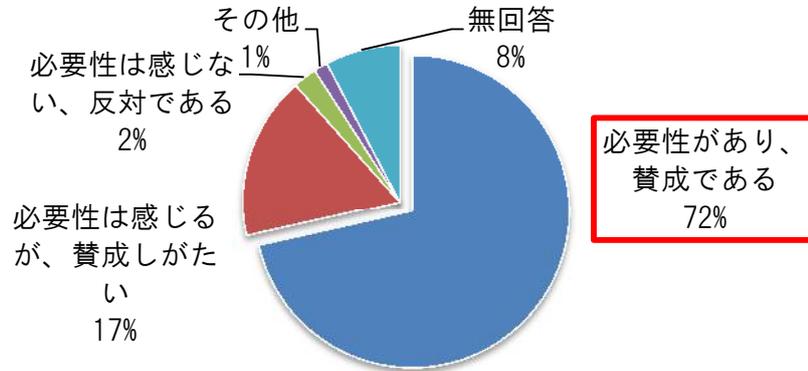
【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 桜島住民、両性、全年齢、2013年度

【課題3】 町内会等で家族情報の事前把握が必要です。

図 4-4-⑦-2 住民の避難状況の把握の必要性

『問：災害時に避難した人と避難しなかった人の把握のため、家族情報を事前に町内会などで把握しておく必要性を感じますか。またそうすることに賛成ですか。』 (N= 500 人)



【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

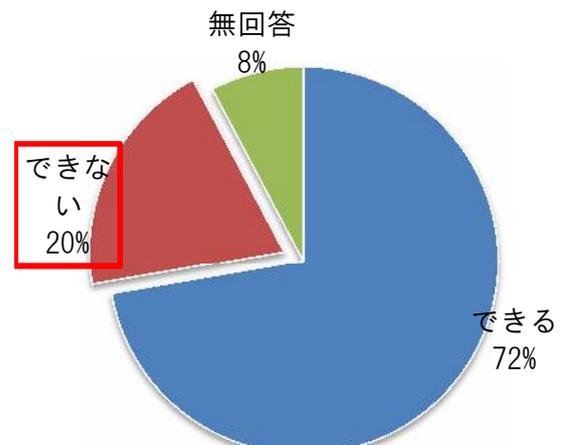
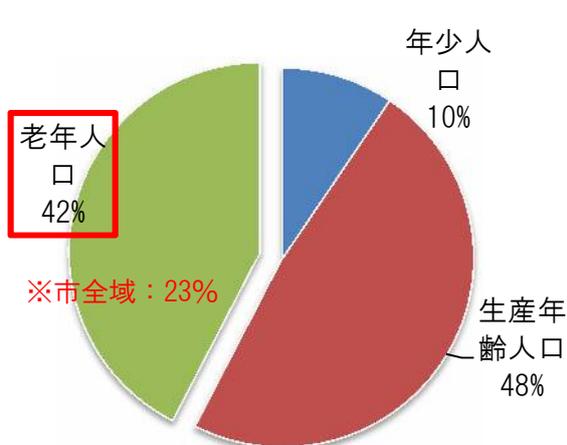
【データ】 桜島住民、両性、全年齢、2013 年度

【課題4】 高齢化率が高く、災害が発生した場合、高齢者のうち2割の人が自力で避難できない状況です。

図 4-4-⑦-3、4 自力避難の状況

『問：桜島住民の年齢別割合』 (N= 4, 956 人)

『問：災害が発生した場合、自力で避難できますか』 (N= 245 人)



【出典】 住民基本台帳（鹿児島市）

【データ】 桜島住民、両性、全年齢、2014 年 3 月

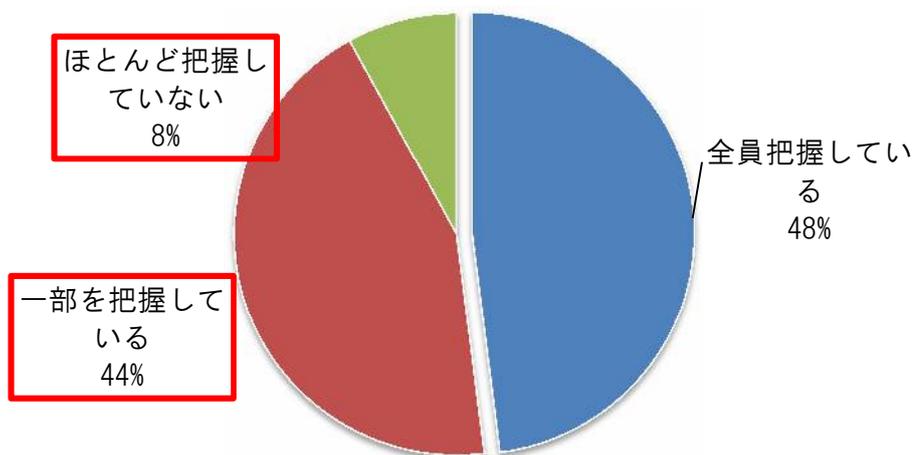
【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

【データ】 桜島住民、両性、高齢者、2013 年度

【課題5】 町内会では自力避難できない人を把握していない状況です。

図 4-4-⑦-5 自力避難できない人の把握状況

『問：避難の際に自力で避難できない人を把握できていますか。』（N= 25 町内会）



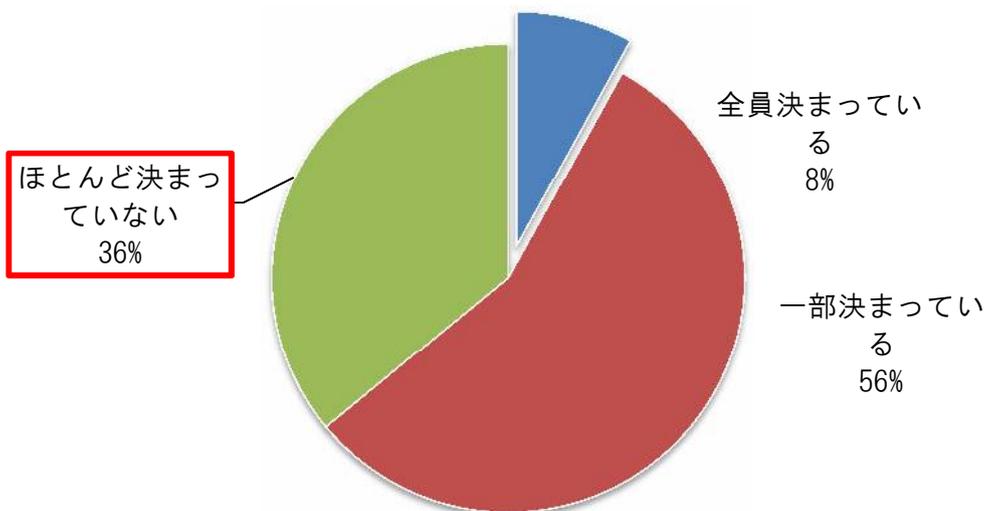
【出典】桜島の町内会への防災体制アンケート調査(鹿児島市)

【データ】桜島町内会、2013 年度

【課題6】 要支援者に対する支援者が決まっています。

図 4-4-⑦-6 自力避難できない人への支援状況

『問：あなたの町内会では、避難の際に自力で避難できない人を、誰がお手伝い（支援）をして島外へ避難させるか決まっていますか。』（N= 25 町内会）



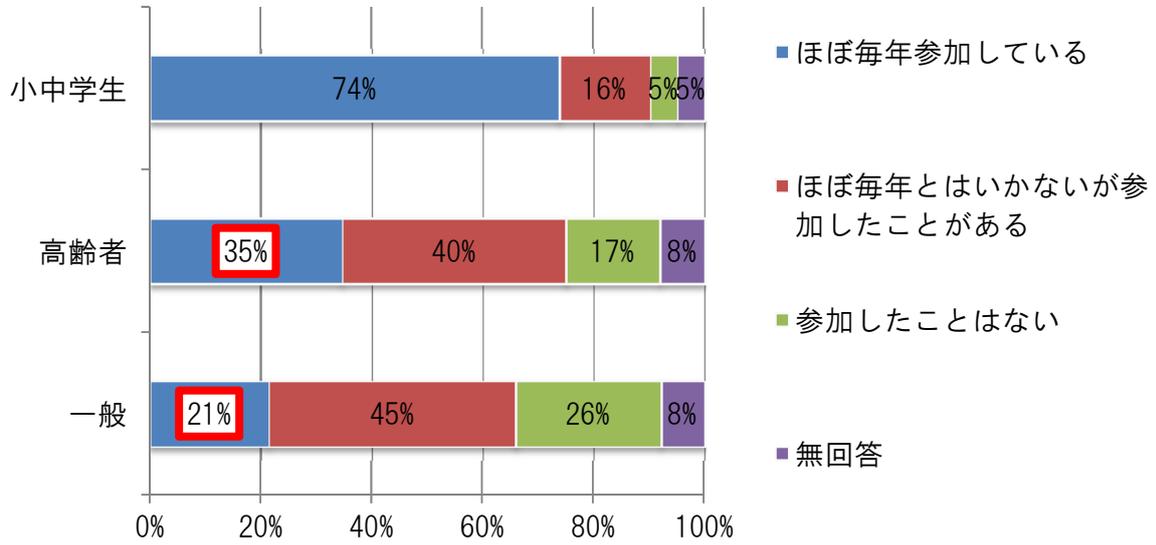
【出典】桜島の町内会への防災体制アンケート調査(鹿児島市)

【データ】桜島町内会、2013 年度

【課題7】 高齢者・一般の避難訓練の参加者が少ない状況です。

図 4-4-⑦-7 避難訓練の状況

『問：桜島火山爆発総合防災訓練に参加したことがありますか。』（N= 500 人）



【出典】 事故やけがに関するアンケート調査（鹿児島市）

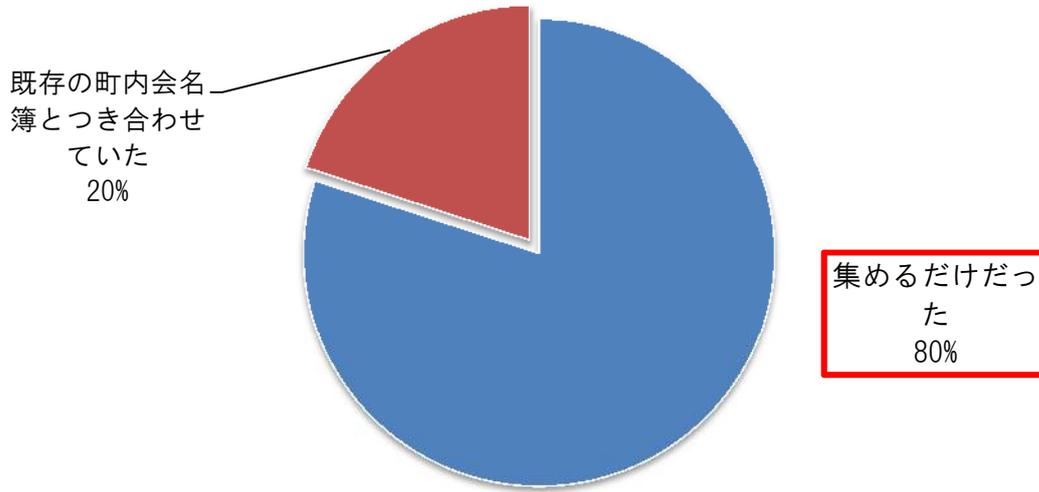
【データ】 桜島住民、両性、全年齢、2013 年度

【課題8】 毎年の訓練が形骸化してきています。

図 4-4-⑦-8 避難訓練の状況

『問：避難時に家族カードは、既存の町内会名簿などの突合を行ったか。』

(N= 20 町内会)



【出典】 避難訓練視察報告（鹿児島市）

【データ】 桜島町内会、2013 年度

参考：避難用家族カード

避難した住民がこの家族カードを提出することで安否確認ができる

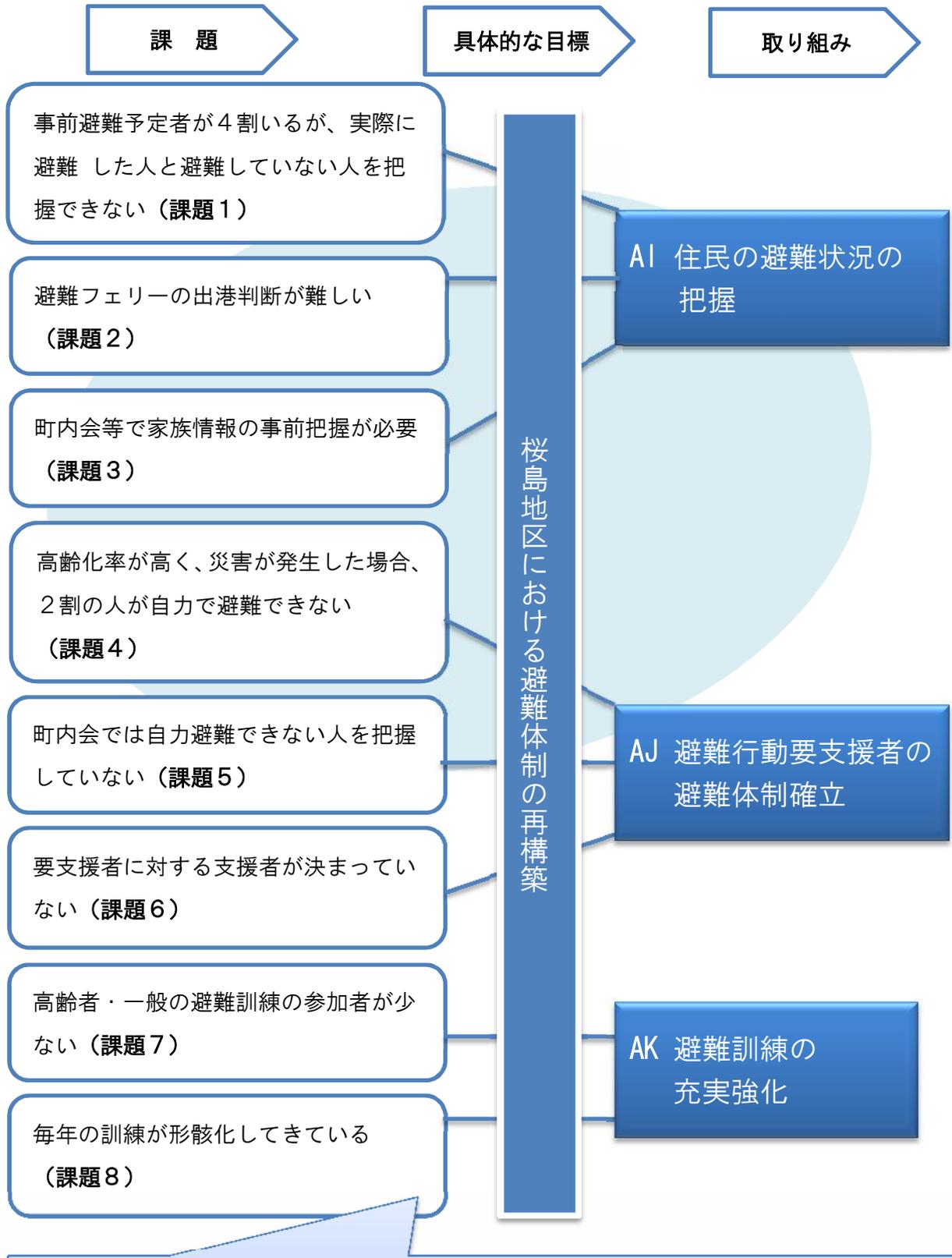
避難用家族カード (家族全員の名前を記入して下さい。)

住所	鹿児島市、町、番地				電話	町内会名
続柄	氏名	年齢	性別	避難の有無	緊急時の連絡(会社名・電話)	
世帯主						
避難集結地	港	避難誘導者		島外避難所		

◎三枚のうち、上2枚を避難誘導者に提出して下さい。

◎三枚複写ですので強く書いて下さい。

■データ分析による課題の集約と委員の主観的な意見



■対策委員会での主観的な意見

- ・住民票はあっても入院や仕事などで、実際にそこにいたい人の把握が重要。
- ・避難勧告などの情報を道のように住民に伝えるか、情報伝達方法も重要。

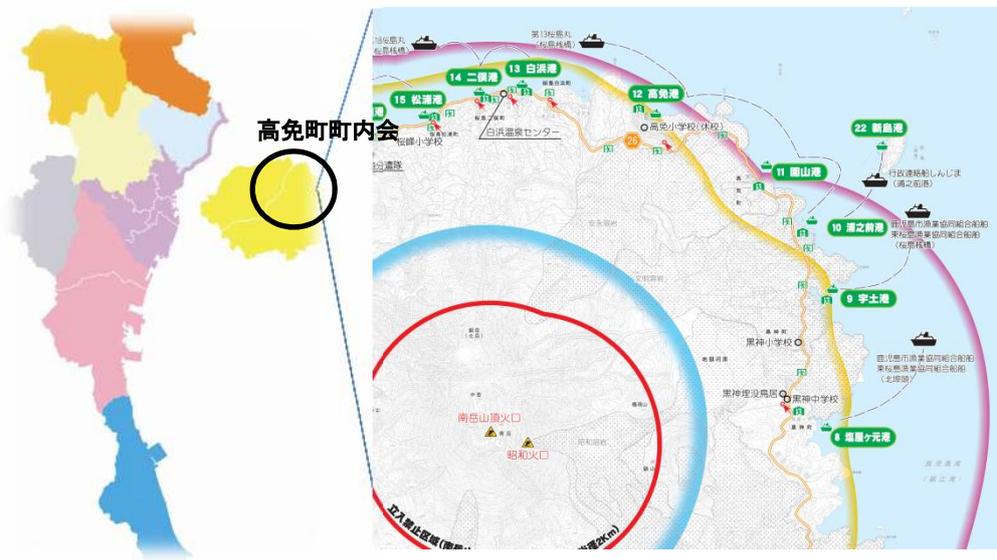
■課題に基づく取り組み ※下線は、セーフコミュニティを始めてからの拡充等部分

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑦-1</p>
AI 住民の避難状況の把握【新規】	町内会住民	
実施者		
町内会		
実施内容		<p>・ <u>全住民の把握のため、住民一覧表を作成し、町内会、民生委員、市、消防、警察で共有するとともに、避難者が提出する家族カードと住民一覧表を突合することにより、事前避難した人を含め住民の避難状況の把握方法を構築した。</u></p>

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑦-2</p>
AJ 避難行動要支援者の避難体制確立【新規】	町内の避難行動支援者	
実施者		
町内会（自主防災組織）、市消防団、民生委員 等		
実施内容		<p>・ <u>住民一覧表を作成する中で、自力避難の可否に係る調査により要支援者を把握し、町内会、消防団、民生委員の協議により消防団を支援者とする避難支援体制を構築した。</u></p>

取り組み	対象者	 <p>写真 4-4-⑦-3</p>
AK 避難訓練の充実強化【拡充】	町内会住民	
実施者		
町内会（自主防災組織）、市消防団、鹿児島市		
実施内容		<p>・ <u>毎年実施している島外避難訓練において、作成した住民一覧表を用いて全住民の把握を行うとともに、避難手順書を作成し、その手順書にしたがって避難訓練を実施した。</u></p>

■モデル地区等の設定理由及び特徴

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高免町町内会は、高齢化率の高い桜島においても特に高齢化率が約7割と高く、ここでの取り組みは、他の町内会へ広げる際に有用である。
モデル地区等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島島内の北東部に位置している。 ・居住者77人45世帯 
設定後	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会が積極的に取り組みを進めており、多数の打合せを重ね、独自で住民一覧表や避難手順書を作成するとともに、その効果を検証するため、島外避難訓練を実施するなど、町内会、消防分団が一体となって、避難体制の再構築を目指している。

■セーフコミュニティ活動による変化と気づき

- ◎ 例えば、住民一覧表や避難手順書の作成など行政だけ、町内会だけでは進まなかったことがセーフコミュニティの取り組みにより進みつつある。
- ◎ 住民の安否確認の基礎資料となる住民一覧表は、町内会が独自で作成し、住民の同意を得て、行政・消防・警察と情報共有を図ることで、個人情報の問題をクリアすることができた。さらに、火山災害に限らず、風水害や震災など他の災害においても活用が可能であり、この取り組みは、他都市においても先進事例となりうる重要な取り組みである。

〔2015 年度の実施予定表〕

取り組み	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
AI 住民の避難状況の把握	一覧表の更新	把握方法の確認・検討		訓練実施による検証
AJ 避難行動要支援者の避難体制確立	一覧表の更新	支援方法の確認・検討		訓練実施による検証
AK 避難訓練の充実強化		訓練準備		訓練実施による検証

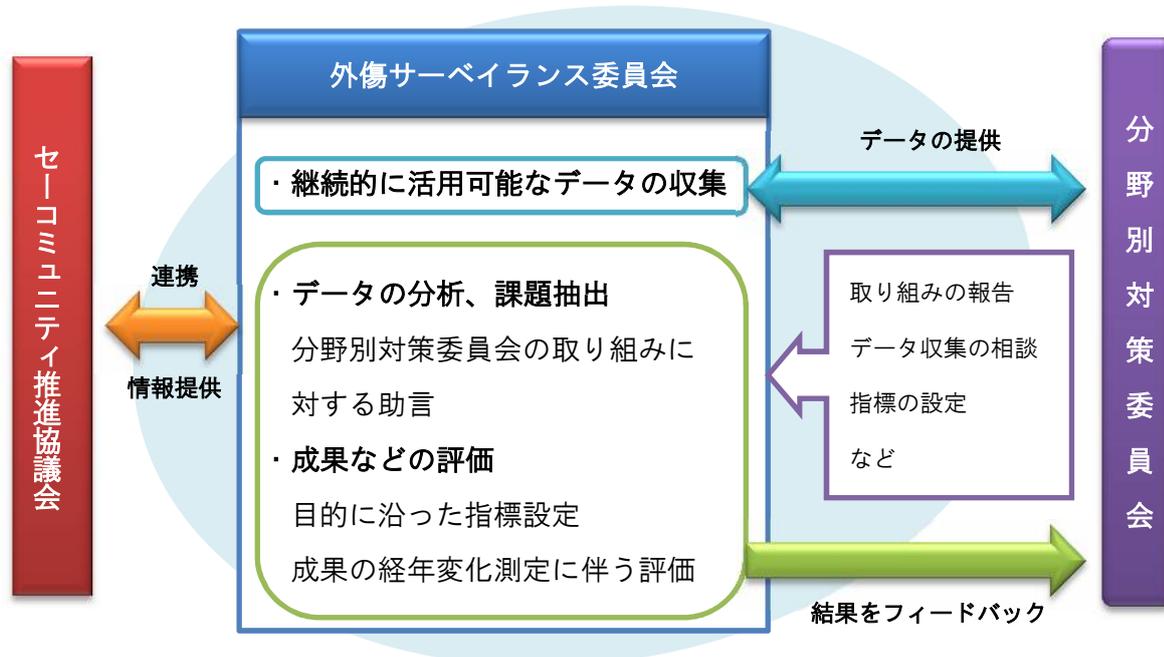
■課題	■今後の展望
<p>◎ 平成 2014 年度に実施した避難訓練において、事前の自主避難者からの家族カードの提出が少なかった（10 人）。</p> <p>◎ モデル地区の取り組みをいかに島内に広めていくか。</p>	<p>◎ 今回からの新しい取り組みであり、住民に浸透していないこともあることから、今後とも周知広報に努め、継続して実施する。</p> <p>◎ 研修会や訓練説明会等を通じて、島内住民に周知及び取組実施の呼びかけを行い、島内全域に拡大していく。</p>

指標5 傷害の程度や原因を記録する仕組み

(1) 外傷サーベイランス委員会の機能

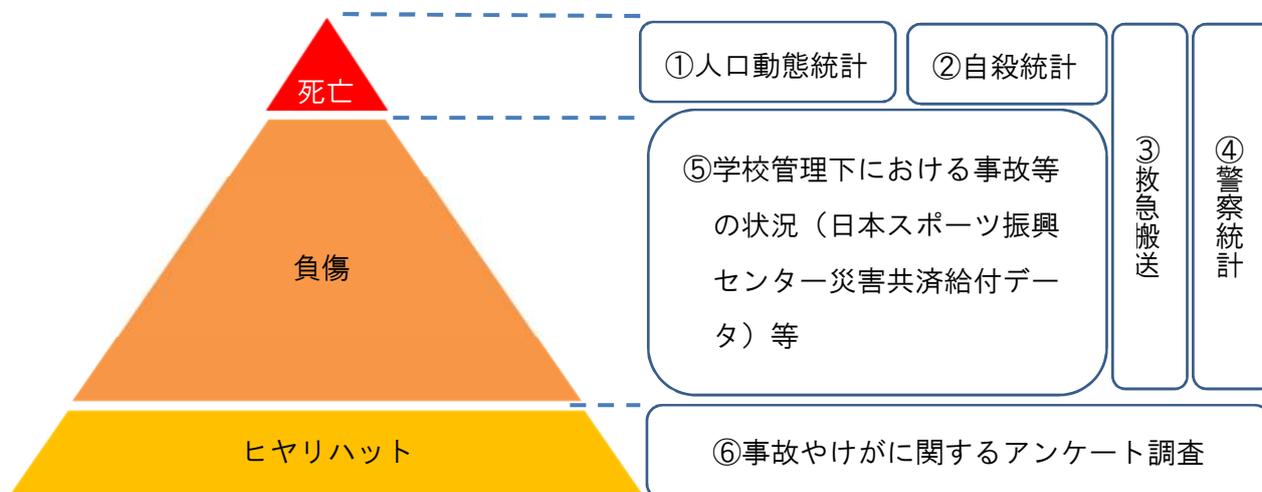
外傷サーベイランス委員会では、継続的に活用可能なデータの収集・分析、課題抽出を行うほか、分野別対策委員会で設定した評価指標が目的に沿っているかの確認や取り組みの成果などの評価を行い、それらの結果を分野別対策委員会等にフィードバックし、根拠ある取り組みの展開を推進しています。

また、セーフコミュニティ推進協議会が活動を推進するための判断材料となる情報の提供を行っています。



(2) 外傷サーベイランスの全体像

日本では、医療データが統一的に管理されていないことから、死亡や負傷など外傷の程度ごとの傷害発生状況については、次の様々な既存データを活用するほか、既存データでカバーできないヒヤリハットを把握するため、アンケート調査を実施しています。



(3) 外傷サーベイランスを構成するデータ

分野別対策委員会における課題抽出など効果的な予防活動を進めるために収集している
主なデータは、次のとおりになります。

表 4-5-1 分野別対策委員会で外傷サーベイランスを構成する主なデータ

外傷の程度				記録データ	記録内容	重点分野						
死亡	負傷	ヒヤリハット	その他			交通安全	学校の安全	子どもの安全	高齢者の安全	DV防止	自殺予防	防災・災害対策
●				人口動態統計（かごしま市の保健と福祉）	不慮の事故、自殺等に関する死亡状況	●		●	●		●	●
●				内閣府 自殺統計原票データの特別集計	自殺に関する死亡状況						●	
●	●			救急搬送（消防年報）	事故種別（交通事故等）搬送状況	●		●	●		●	●
●	●			警察統計（交通事故統計分析表）	交通事故による死亡、負傷状況	●						
	●			学校管理下における事故等の状況（日本スポーツ振興センター 災害共済給付データ）	児童・生徒の災害共済給付金対象の事故等の状況		●					
		●		事故やけがに関するアンケート調査	ヒヤリハットの経験など事故やけがに関する調査	●	●	●	●	●	●	●
	●			意識・行動調査	市立小中学生を対象としたけが防止に関する調査		●					
			●	児童虐待相談件数	児童虐待に関する相談状況			●				
			●	介護保険認定状況	介護保険の認定状況				●			
			●	高齢者虐待に関する相談件数	高齢者虐待に関する相談状況				●			
			●	DV（ドメスティック・バイオレンス）相談件数	DVに関する相談状況					●		
			●	男女共同参画に関する市民意識調査	男女共同参画に関する市民の意識と実態					●		
			●	桜島噴火回数・爆発回数	桜島の噴火及び爆発の状況							●

(4) 継続的なデータ収集の計画

外傷サーベイランスを構成する主なデータについては、持続可能なシステムにするため、次のとおりの頻度で収集・分析していきます。

表 4-5-2 継続的なデータ収集計画表

外傷サーベイランスを構成する主なデータ	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
①人口動態統計(かごしま市の保健と福祉)	●	●	●	●	●	●	●
②内閣府 自殺統計原票データの特別集計	●	●	●	●	●	●	●
③救急搬送(消防年報)	●	●	●	●	●	●	●
④警察統計(交通事故統計分析表)	●	●	●	●	●	●	●
⑤学校管理下における事故等の状況 (日本スポーツ振興センター災害共済給付データ)	●	●	●	●	●	●	●
⑥事故やけがに関するアンケート調査	●	●	●		●		
⑦意識・行動調査		●	●	●	●	●	●
⑧児童虐待相談件数	●	●	●	●	●	●	●
⑨介護保険認定状況	●	●	●	●	●	●	●
⑩高齢者虐待に関する相談件数	●	●	●	●	●	●	●
⑪DV(ドメスティック・バイオレンス)相談件数	●	●	●	●	●	●	●
⑫男女共同参画に関する市民意識調査				●			
⑬桜島噴火回数・爆発回数	●	●	●	●	●	●	●

(5) 外傷サーベイランス委員会の活動

外傷サーベイランス委員会では、既存データを収集・分析するほか、分野別対策委員会からの要請により、新たなデータ収集の方法等も協議・検討しており、新たに①救急搬送データの細分化や②内閣府自殺統計原票データの特別集計の収集、活用ができるようになりました。

また、既存データでカバーできないヒヤリハット等を把握するため、③事故やけがに関するアンケート調査を実施しています。

①救急搬送データの細分化・活用

【課題】

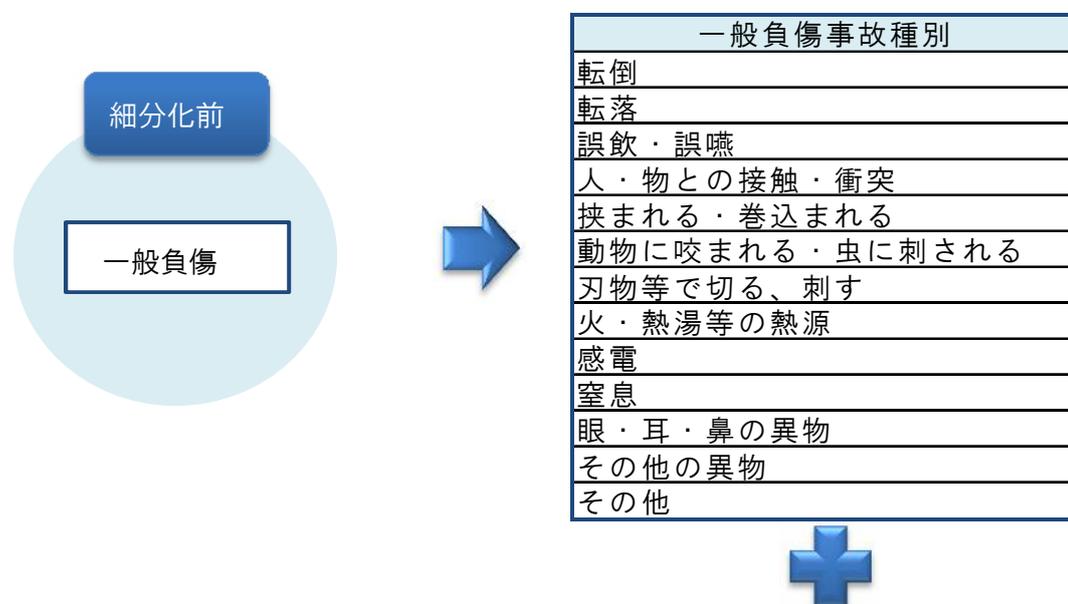
事故種別救急搬送の状況を見ると、0～6歳、65歳以上の「一般負傷」が多いが、「一般負傷」の具体的な事故種別が分からない。（子どもの安全分野から）

【検討結果】

救急搬送データの収集を管轄している鹿児島市消防局に「一般負傷」の細分化の検討を依頼した結果、2014年4月から、以下の転倒、転落や誤飲などの詳細な事故種別が収集できるようになったほか、発生場所、けがの分類や部位なども併せて収集できるようになりました。（収集データについては、P13、図3-8参照）

【今後の方向性】

年齢別などの分析をさらに進め、分野別対策委員会の予防活動に活用し、効果的な取り組みに繋げていきます。



場所種別	住宅等内種別	けがの分類	けがの部位	窒息・誤飲等の内容物
自宅（住宅）	玄関	脳損傷	全身	餅
保育園・幼稚園	居室	内臓損傷	頭部	こんにやく
公園（遊具）	台所／ダイニング	血管損傷・血腫	顔部	肉片
公園（遊具以外）	階段	神経損傷	頸部	飴
道路・歩道	廊下	骨折	胸部	豆類
駅・バス停・電停	洗面所	脱臼	腹部	その他の食物
商業・飲食・娯楽施設	トイレ	捻挫	背部	おもちゃ
スポーツ施設	風呂	挫創	腰部	コイン
海、河川	ベランダ	打撲	臀部	タバコ
山	庭、校庭、園庭（遊具）	擦過傷	上肢	薬
学校	庭、校庭、園庭（遊具以外）	切創	下肢	P T P 包装シート
老人福祉施設	駐車場	刺創	その他	その他
職場	教室（保健室）	杵創		
その他	体育館	剥離創		
	プール	咬傷		
	その他	熱傷		
		誤飲		
		中毒		
		溺水		
		窒息		
		歯の破折		
		眼・耳・鼻の損傷		
		その他		

②内閣府自殺統計原票データの特別集計の収集・活用

【課題】

鹿児島市の自殺統計では、性別・年齢層別の分析は収集できるものの、年齢別の自殺原因が分からない。（自殺予防分野から）

【検討結果】

年齢別の自殺原因の入手方法を検討したところ、鹿児島県警から入手先の情報提供があり、内閣府から自殺統計原票データの特別集計を入手することができるようになりました。（収集したデータについては、P94～95、図 4-4-⑥-1、図 4-4-⑥-2 参照）

【今後の方向性】

自殺予防対策委員会の予防活動に活用し、効果的な取り組みに繋げていきます。

③事故やけがに関するアンケート調査の実施

【目的】 鹿児島市の事故等の防止策を検討・実施するために必要な既存データでカバーできない負傷による入院・通院経験などの実態やヒヤリハットのほか、安心安全に関する意識などについて調査する。

【実施時期】 2012、2013、2014 年度

【対象者】 鹿児島市民

【調査区分及び調査数】

調査区分	乳幼児	小中学生	一般	高齢者	合計
調査数	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人	8,000 人

【調査方法】 鹿児島市内に居住する市民を無作為に抽出し、郵送による発送・回収

【有効回答数】 2012 年度：61.9% 2013 年度：40.6% 2014 年度：45.4%

【主な質問】 ヒヤリハットの経験の有無、経験した負傷に関することやその未然防止の可能性、日頃からの安全対策 など

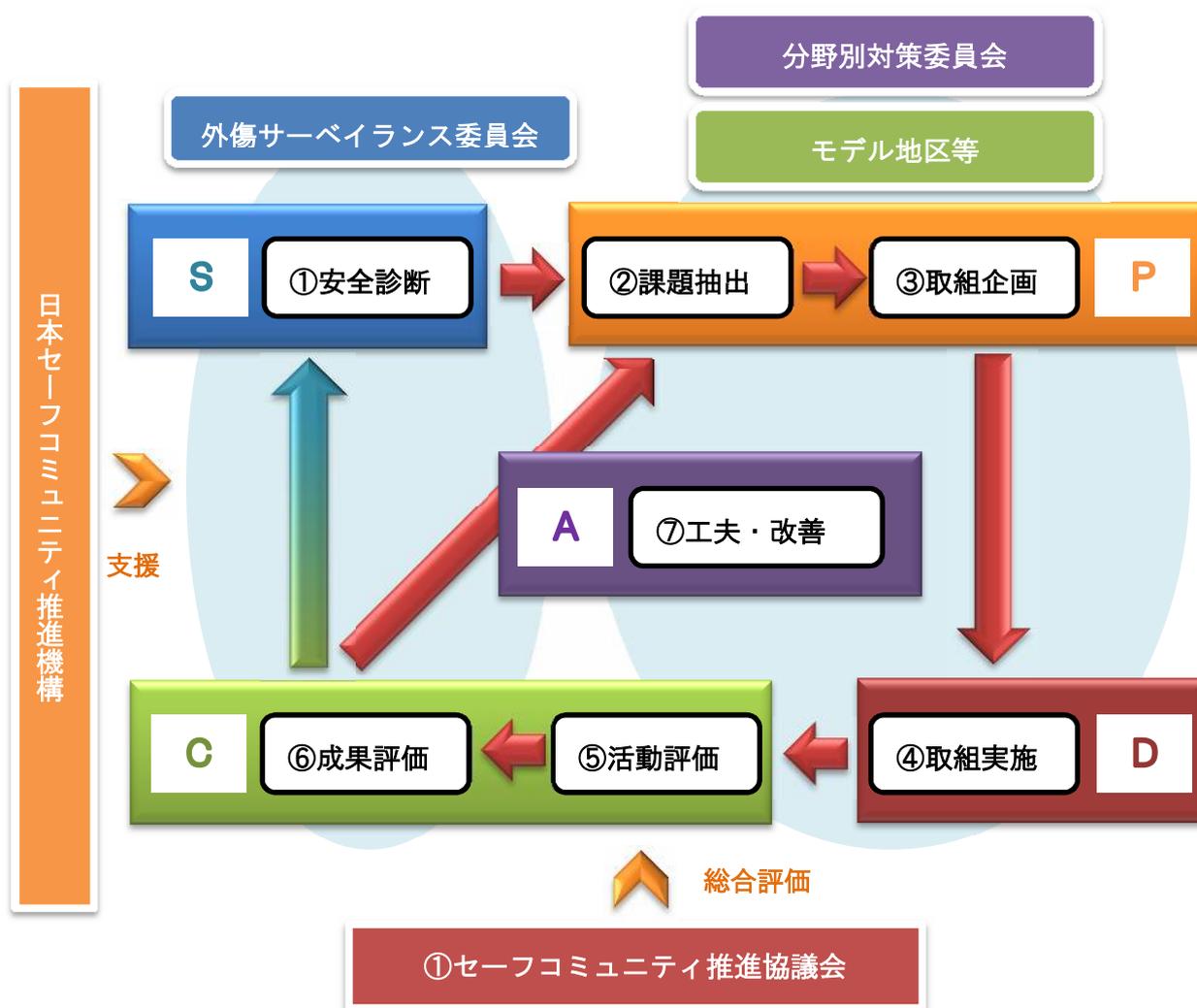
指標6 評価の仕組み

(1) セーフコミュニティプログラムの進行管理

鹿児島市では、様々なデータ等による地域診断等に基づき、課題の抽出や取り組みの企画を実施するなど、SPDCAサイクルの手法を導入し、セーフコミュニティ活動を展開しています。

※SPDCAサイクル

See (安全診断) ⇒ Plan (取組企画) ・Do (取組実施) ・Check (成果評価) ・Action (工夫改善)
を継続的に繰り返す手法



(2) 各重点課題の取り組みに対する評価指標

鹿児島市では、地域診断等から得られた課題に対するそれぞれの取り組みについて、活動指標、短期、中期及び長期の指標を定め、活動を実施しています。各対策委員会の取り組みに対する指標は、次のとおりです。

取り組みを進めていく中で、進捗状況等に応じて、各対策委員会において、指標の変更等についても検討していきます。

① 交通安全

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

目的：交通事故の減少

具体的な目標1：自動車による交通事故減少

取り組み	活動指標	実績
A シートベルト着用 の啓発活動(全席シート ベルトの着用)	街頭キャンペーン等 での啓発活動の実施 回数・配布数	街頭啓発活動：2回、872枚配布（2013年度） ：2回、400枚配布（2014年度） 交通安全教室：3回、30枚配布（2013年度） ：5回、42枚配布（2014年度） ※他の取り組みとの重複集計あり
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①シートベルトの着用義務の 認識度 ②アンケート調査 ③運転者	①シートベルト着用率の推移 ②警察庁・JAF統計データ、 アンケート調査 ③運転者	①シートベルト未着用による 交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③運転者

取り組み	活動指標	実績
B 高齢運転者への安 全運転講習等	高齢運転者への安全 運転講習等の実施回 数・参加者数	交通安全教室：3回、30人（2013年度） ：4回、114人（2014年度） ※他の取り組みとの重複集計あり
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通ルール・マナーの認識 度 ②アンケート調査 ③高齢運転者	①交通ルール・マナーの認識 による行動の変化 ②アンケート調査 ③高齢運転者	①高齢運転者の交通事故死傷 者数 ②警察統計データ ③高齢運転者

取り組み	活動指標	実績
C 企業等への交通安全講習等	企業等への交通安全講習等の実施回数・参加者数	交通安全教室：2回、34人（2014年度） ※他の取り組みとの重複集計あり
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③運転者（20～60歳代） 交通安全講習等を実施した企業等	①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③運転者（20～60歳代） 交通安全講習等を実施した企業等	①稼働年齢層の交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③運転者（20～60歳代）

[全体評価（A～C）]

成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
/	/	①自動車による交通事故死傷者数と交通違反種別 ②警察統計データ ③運転者

具体的な目標2：高齢者の交通事故減少

取り組み	活動指標	実績
D 参加・体験型の交通安全教室等	交通安全教室等の実施回数・参加者数	交通安全教室：5回、232人（2013年度） ：5回、157人（2014年度） ※他の取り組みとの重複集計あり
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③高齢者	①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③高齢者	①歩行中の高齢者の交通事故死傷者のうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③歩行中の高齢者

取り組み	活動指標	実績
E 高齢者の世帯訪問による交通安全教育	高齢者の世帯訪問による交通安全教育の実施回数、訪問した世帯数・人数	今後実施予定
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査、訪問時の聴き取り調査 ③交通安全教室等に参加していない高齢者、訪問高齢者	①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査、訪問時の聴き取り調査 ③交通安全教室等に参加していない高齢者、訪問高齢者	①高齢者の交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③高齢者

取り組み	活動指標	実績
F 夜光反射材の着用啓発	街頭キャンペーン等での啓発活動の実施回数、反射材配付数	街頭啓発活動：3回、1,472枚（リーフレット）、1,022個（反射材）配布（2013年度） ：1回、200枚（リーフレット）、400個（反射材）配布（2014年度） 交通安全教室：4回、30枚（リーフレット）、60個（反射材）配布（2013年度） ：5回、74枚（リーフレット）、253個（反射材）配布（2014年度） ※他の取り組みとの重複集計あり
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①夜光反射材の重要性の認識度 ②アンケート調査 ③高齢者	①夜光反射材着用者の割合 ②アンケート調査 ③高齢者	①夜間における高齢者の交通事故死傷者に占める夜光反射材着用者の割合 ②警察統計データ ③歩行中の高齢者

具体的な目標3：子ども（中学生以下）の交通事故減少

取り組み	活動指標	実績
G 保護者等も含めた参加・体験型の交通安全教育等(歩行中の未就学児、小学生向け)	・交通安全教育等の実施回数・参加者数 ・保護者の交通安全教室等への参加率	交通安全教室：1回、27人（2013年度） ：1回、79人（うち保護者3人、保育士7人）（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③子ども	①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③子ども	①歩行中の子どもの交通事故死傷者にうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③歩行中の子ども

取り組み	活動指標	実績
H 保護者等も含めた参加・体験型の交通安全教育等(自転車乗車中の小学生、中学生向け)	・交通安全教育等の実施回数・参加者数 (自転車大会等も含む)	交通安全教室：1回、221人（2013年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①自転車の交通ルール・マナーの認識度 ②アンケート調査 ③自転車乗車中の子ども	①交通ルール・マナーの認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③自転車乗車中の子ども	①自転車乗車中の子どもの交通事故死傷者にうち交通ルールを守らないで死傷した数 ②警察統計データ ③自転車乗車中の子ども

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

具体的な目標 1・2・3：自動車による交通事故減少、高齢者の交通事故減少、
子ども（中学生以下）の交通事故減少

取り組み	活動指標	実績
I 交通安全マップの作成	交通安全マップの作成（更新）・配付数・活用方法	交通安全マップの作成：1回、配付：4,000枚（2014年度） 配布先：町内会、PTA、幼稚園、保育園 など
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①交通事故発生箇所、危険箇所等の認知度 ②アンケート調査 ③モデル地区住民	①交通事故発生箇所、危険箇所の認識による行動の変化 ②アンケート調査 ③モデル地区住民 ①交通事故発生箇所、危険箇所への整備や対策 ②危険箇所等の整備及び路面標示・看板等の設置・改善件数 ③整備及び路面標示・看板等の設置・改善箇所	①モデル地区における交通事故死傷者数 ②警察統計データ ③モデル地区住民

② 学校の安全

目的：児童生徒の事故の減少

具体的な目標：市立小中学校の校内等でのけがの減少

取り組み	活動指標	実績
J 休憩時間（けがの多い時間帯）にけが防止を呼びかける「校内パトロール」	1校あたりの校内パトロールの実施回数	「校内パトロール」実施回数：実施校平均 35 回（2014 年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①休憩時間に発生しているけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（校内パトロール実施校） ③「校内パトロール」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①休憩時間に発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（校内パトロール実施校） ③「校内パトロール」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①休憩時間のけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ（場合別事故発生件数） ③市立全小中学校の児童生徒

取り組み	活動指標	実績
K 校庭・運動場など、けがの多い場所を示し、けが防止を働きかける「危険箇所マップづくり」	1校あたりの危険箇所マップ追加回数	「危険箇所マップ」追加回数：実施校平均 5.9 回（2014 年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①校庭・運動場などで発生しているけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（危険箇所マップづくり実施校） ③「危険箇所マップづくり」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①校庭・運動場などで発生しているけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（危険箇所マップづくり実施校） ③「危険箇所マップづくり」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①校庭・運動場などのけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ（場所別事故発生件数） ③市立全小中学校の児童生徒

取り組み	活動指標	実績
L 骨折など、けがの多い種類を示し、けが防止を働きかける「『危険』などの表示」	1校あたりの表示の掲載箇所数、張り替え回数	「『危険』などの表示」掲示箇所数：実施校平均 6.1 箇所、張り替え回数：実施校平均 1.7 回（2014 年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（「『危険』などの表示」実施校） ③「『危険』などの表示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（「『危険』などの表示」実施校） ③「『危険』などの表示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①骨折、挫傷・打撲、捻挫などのけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ（種類別事故発生件数） ③市立全小中学校の児童生徒

取り組み	活動指標	実績
M 手や足（けがの多い部位）を示し、けが防止を働きかける「ポスターの掲示」	1校あたりのポスターの掲示箇所数、張り替え回数	「ポスター」掲示箇所数：実施校平均 5.5 箇所、張り替え回数：実施校平均 1.8 回（2014 年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①手や足などのけがを防ぐための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（「ポスターの掲示」実施校） ③「ポスターの掲示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①手や足などのけがを防ぐための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（「ポスターの掲示」実施校） 【確認の対象】 ③「ポスターの掲示」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①手や足のけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センター災害共済給付データ（部位別事故発生件数） ③市立全小中学校の児童生徒

取り組み	活動指標	実績
N 転倒など、けがの多い原因を説明し、けが防止を呼びかける「集会活動での呼びかけ」	1校あたりの集会活動での呼びかけ実施回数	「集会活動での呼びかけ」実施回数：実施校平均 4.3回（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①転倒などが原因のけがを防止するための安全な行動の仕方の認知度 ②けが防止対策取組状況調査（「集会活動での呼びかけ」実施校） ③「集会活動での呼びかけ」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①転倒などが原因のけがを防止するための安全な行動の実践度 ②けが防止対策取組状況調査（「集会活動での呼びかけ」実施校） ③「集会活動での呼びかけ」に取り組んだ市立全小中学校の児童生徒	①転倒などが原因のけがの発生件数 ②日本スポーツ振興センターに報告したけがの原因調査データ ③市立全小中学校の児童生徒

[全体評価（J～O）]

成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①けが防止に関する知識（意識） ②意識・行動調査 ③市立全小中学校の児童生徒	①けが防止に関する行動 ②意識・行動調査 ③市立全小中学校の児童生徒	①けが防止に関する意識と行動の差 ②意識・行動調査 ③市立全小中学校の児童生徒

③ 子どもの安全

目的：子どもの身体と心の安心・安全を守る

具体的な目標：家庭内等での事故・けがの減少

取り組み	活動指標	実績
P 家庭内での事故・けがに関する情報の発信（及び講習会）	情報発信の施設数、回数（講習会実施回数、参加者数）	園便りによる啓発：6回/2団体 アンケート調査：140人/4団体 (2014年度)
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①家庭内の安全対策についての認識度 ②アンケート調査 ③保護者（講習会参加者数）	①家庭内の安全対策に取り組んでいる人の割合 ②アンケート調査 ③保護者（講習会参加者数）	①子どもの事故・けがの人数 ②救急搬送データ ③子ども

取り組み	活動指標	実績
Q 児童への安全教育	児童への遊具等の使い方指導回数	31回/幼稚園・保育所（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①危険箇所に対する児童の認識度 ②アンケート調査 ③職員	①危険回避のための児童の行動 ②アンケート調査 ③職員	①園内での子どもの事故・けがの人数 ②事故報告書（各園） ③子ども

取り組み	活動指標	実績
R 職員による室内、園庭等の安全点検	職員による室内、園庭等の安全点検回数、箇所数	306回、18箇所/幼稚園・保育所(2014年度)
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①危険箇所に対する認識度 ②アンケート調査 ③職員	①危険箇所に対する安全点検方法の変化 ②アンケート調査 ③職員	①遊具等の改善箇所数 ②安全点検記録簿 ③室内、園庭等

取り組み	活動指標	実績
S 体力向上プログラム	アクティブタイム（定期的な集団運動時間）の参加者数	1,305人（2014年度延べ人数）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①園児が運動を身近に感じているか ②アンケート調査 ③職員	①自主的かつ積極的に運動に参加した割合 ②アクティブカードのスタンプ獲得数（特定種目を達成した際にスタンプ） ③幼稚園児	①学年始めと終了時の体力・運動能力 ②体力測定 ③幼稚園児

具体的な目標：子育て中の親への支援

取り組み	活動指標	実績
T 子育てに悩みがある保護者の相談及び子育て体験談の情報発信	子育てに悩みがある保護者の相談回数・人数、体験談事例集、情報発信数	アンケート調査：140人（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①保護者の悩み等の相談場所及び体験談事例集の認識度 ②アンケート調査 ③保護者	①支援が必要な保護者の相談者数及び事例集が参考になった人の割合 ②相談記録 ③保護者	①相談内容（悩み）が解消された割合 ②相談記録、アンケート調査 ③保護者

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取り組み	活動指標	実績
U 児童虐待予防の学習会	児童虐待予防の学習会数、参加者数	2回、参加者数：21人/幼稚園・保育所（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①児童虐待に対する認識度 ②アンケート調査 ③職員	①虐待の疑いがある家庭を行政につないだ件数 ②対応記録 ③職員	①児童虐待認定件数の減 ②児童虐待認定件数 ③被虐待児

④ 高齢者の安全

目的：高齢者の外傷の減少

具体的な目標：高齢者の転倒による外傷の減少

取り組み	活動指標	実績
V 転倒予防のための料理教室・講習会の実施	転倒予防のための料理教室・講習会の実施回数、参加者数	2回、38人参加（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①転倒予防のための食生活の必要性の認識度 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	①食生活、生活改善をした人の割合 ②アンケート調査 ③参加者 65歳以上の市民	①転倒、転落による救急搬送件数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉（人口動態統計） ③65歳以上の市民

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取り組み	活動指標	実績
W 転倒予防教室の実施	転倒予防教室の実施回数・参加者数	12回実施、120人参加(2014年度)
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
①転倒予防のための健康づくりの認識度 ②アンケート調査 ③・参加者 ・65歳以上の市民	①運動を習慣化している人の割合 ②アンケート調査 ③・参加者 ・65歳以上の市民	①転倒、転落による救急搬送件数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③65歳以上の市民

取り組み	活動指標	実績
X 住環境の改善	・住宅改修費補助件数 ・住宅改修指導件数 ・転倒予防のためのパンフレット配布枚数	改修費実績件数1件(2013年度、皇徳寺台東町内会のみ)
成果指標(短期)	成果指標(中期)	成果指標(長期)
①住宅危険個所の認識度 ②利用者へアンケート調査 ③補助の利用者 ・パンフレット配布枚数	①転倒予防の対策を行う人の割合 ②アンケート調査 ③補助の利用者 ・パンフレット配布世帯	①転倒、転落による救急搬送件数 転倒、転落による死亡者数 ②救急搬送データ かごしま市の保健と福祉(人口動態統計) ③参加者

具体的な目標：虐待や認知症への啓発・理解の促進

取り組み	活動指標	実績
Y 認知症に関する意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座・研修会の実施回数、参加者数 ・ 認知症に関するパンフレットの配布枚数 	認知症サポーター養成講座2回 合計80名参加（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
<ul style="list-style-type: none"> ①認知症、虐待に対する理解度 認知症サポーターの認知度 ②アンケート調査 ③参加者 市民 	<ul style="list-style-type: none"> ①・ 認知症サポーター数 ・ 見守りメイト登録数 ・ 認知症高齢者への対応の変化 ・ 認知症による虐待対応件数 ②アンケート調査 地域包括支援センター統計 ③参加者 市民 	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の虐待対応件数 ②高齢者虐待通報データ （かごしま市の保健と福祉） ③65歳以上の市民

取り組み	活動指標	実績
Z 民生委員・認知症見守りメイトによる見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員、認知症見守りメイトによる見守り活動の実施回数 ・ 地域の見守りのための福祉マップ作成 	福祉マップについては作成済（毎年更新）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
<ul style="list-style-type: none"> ①地域の認知症高齢者の把握 ②活動報告 ③民生委員、見守りメイト 65歳以上の高齢者とその家族 パンフレット配布世帯数 	<ul style="list-style-type: none"> ①認知症高齢者への対応の変化 認知症による虐待相談件数 ②活動報告 長寿支援課統計 地域包括支援センター統計 ③民生委員、見守りメイト 65歳以上の高齢者とその家族 パンフレット配布世帯 	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の虐待対応件数 ②高齢者虐待通報データ（かごしま市の保健と福祉） ③65歳以上の市民

⑤ DV防止

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

目的：DVの防止

具体的な目標：DVの正しい理解と気づきの促進

取り組み	活動指標	実績
AA DV防止のための情報提供及び啓発（DVの被害者・加害者を含めた市民全般向け）	啓発配布物の配布数	・市民のひろばへのDV防止啓発記事掲載：全世帯（約26万世帯） （毎年度） ・カードサイズDVリーフレットの設置箇所：：974施設（2010年度） 1,523施設（2013年度） ※金融機関や学校等へ設置増 ・パープルリボンキャンペーン街頭啓発活動：1000枚配布（2013年度） 1000枚配布（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①DVに対する市民の認識の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査 女性に対する暴力に関する講演会のアンケート ③市民全般	①DV相談件数の増 ②DV相談統計（市・県・警察等市内の相談窓口） ③DV相談者	①DVは人権を侵害する行為であるという考えの浸透 ②男女共同参画に関する市民意識調査 ③調査対象者に抽出された市民

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取り組み	活動指標	実績
AB 相談員の資質向上	相談員を対象とする研修会の実施回数及び参加者数	・研修会 計8回（市：2回、県：6回） （2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①相談員のスキルアップに対する認識の変化 ②アンケート ③市内相談機関相談員	①相談員のスキルアップに向けた行動の変化 ②アンケート ③市内相談機関相談員	①スキルが向上したと自己評価した相談員の割合 来談者の相談満足度 ②アンケート ③市内相談機関相談員 市内相談機関に相談をした相談者

具体的な目標：若年者に対する予防啓発の充実

取り組み	活動指標	実績
AC DV防止のための情報提供及び啓発、若者による若者のための暴力未然防止活動	デートDV講演会等の実施校数、対象学生数	・デートDV講演会： 9校、2,862人（2012年度） 12校、3,280人（2013年度） 12校、5,057人（2014年度） ・ピア☆びあ☆デートDVピア教育： 3校（2013年度） 3校（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①DVに対する学生、教職員の認識の変化 ②デートDV講演会等のアンケート ③講演会等を受講した学生	①DVに対する学生の態度や行動の変化 ②事故やけがに関するアンケート調査 ③調査対象者に抽出された市民（学生）	①20歳代のDV被害経験者の割合の減少 ②男女共同参画に関する市民意識調査 ③調査対象者に抽出された市民（20歳代）

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取り組み	活動指標	実績
AD DV防止のための情報提供 及び啓発（10～20歳代の社会人 向け）	啓発配布物の配布数	市民のひろばへのDV防止啓発記 事掲載：全世帯（約26万世帯） （毎年度） ・カードサイズDVリーフレットの 設置箇所：974施設（2010年度） ：1,523施設（2013年度） ※金融機関や学校等へ設置増 ・パープルリボンキャンペーン街頭 啓発活動：1,000枚配布（2013年度） 1,000枚配布（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①DVに対する市民の認識の 変化 ②事故やけがに関するアンケ ート調査 女性に対する暴力に関する 講演会のアンケート ③市民全般（10～20歳代）	①DVの認識による態度や行 動の変化 ②事故やけがに関するアンケ ート調査 ③調査対象者に抽出された市 民（10～20歳代）	①DVは人権を侵害する行為 であるという考えの浸透 ②男女共同参画に関する市民 意識調査 ③調査対象者に抽出された市 民（20歳代）

⑥ 自殺予防

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

目的：自殺者数の減少

具体的な目標：中高年（50～69歳）の自殺者数の減少

取り組み	活動指標	実績
AE 自殺予防の普及啓発	・ 広報回数、配布（チラシ）枚数・メンタルヘルス講演会等の実施回数、参加人数	広報回数：7回（2013年度） 14回（2014年度） チラシ配布枚数：26,314枚（2013年度） 18,922枚（2014年度） メンタルヘルス講演会： ・ 市民向け 77回、2,713人（2013年度） 91回、2,395人（2014年度） ・ 労働者向け 7回（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①自殺の現状の認識度 ②アンケート調査 ③市民	①死にたい気持ちになった時、相談する人の数 ②アンケート調査 ③市民	①自殺者数・率 ②かごしま市の保健と福祉（人口動態統計） ③50～69歳

取り組み	活動指標	実績
AF 支援者への支援	ゲートキーパー養成講座の回数・参加人数	ゲートキーパー養成講座： 7回、388人（2013年度） 7回、310人（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①ゲートキーパーの役割の認識度 ②アンケート調査 ③市民	①ゲートキーパーが相談窓口につなげた人数 ②相談機関への調査 ③相談機関	①自殺者数・率 ②かごしま市の保健と福祉（人口動態統計） ③50～69歳

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

取り組み	活動指標	実績
AG 相談しやすい場の設定	相談の開設数、相談者数 既存の相談の開設方法等を変更した数	相談の開催数 15 機関 15,170 人 (2014 年度)
成果指標 (短期)	成果指標 (中期)	成果指標 (長期)
①相談場所の認識度 ②アンケート調査 ③市民	①相談窓口の相談件数 ②相談機関への調査 ③相談機関	①自殺者数・率 ②かごしま市の保健と福祉 (人口動態統計) ③50～69 歳

取り組み	活動指標	実績
AH 相談窓口の周知	・相談窓口案内カードの配布枚数 ・広報の回数	相談窓口案内カード配布枚数： 10,160 枚 (2013 年度) 13,650 枚 (2014 年度) 相談窓口の広報： 3 回 (2013 年度) 9 回 (2014 年度)
成果指標 (短期)	成果指標 (中期)	成果指標 (長期)
①相談窓口案内カードの認識度 ②アンケート調査 ③市民	①相談窓口の案内件数 ②相談機関への調査 ③相談機関	①自殺者数・率 ②かごしま市の保健と福祉 (人口動態統計) ③50～69 歳

⑦ 防災・災害対策

凡例 ①指標名 ②確認方法 ③確認の対象

目的：地域防災力の向上

具体的な目標：桜島地区における避難体制の再構築

取り組み	活動指標	実績
AI 住民の避難状況の把握	・住民一覧表の更新回数	住民一覧表の更新回数：2回（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①事前に避難する場合、家族カードの提出が必要であることの認知度 ②アンケート調査 ③町内会住民	①訓練で事前避難する場合、家族カードの提出率 ②住民一覧表、聞き取り ③消防分団	①訓練における住民の避難状況の把握率（未確認者数が減少したか） ②住民一覧表、聞き取り ③消防分団

取り組み	活動指標	実績
AJ 避難行動要支援者の避難体制確立	・町内会の打合せの回数 (参加者、議題)	町内会の打合せの回数：4回（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①自力避難できない人の把握率 ②住民一覧表 ③町内会	①要支援者の支援者の決定率 ②住民一覧表 ③町内会	①訓練における要支援者の参加率（事前避難含む） ②住民一覧表 ③消防分団

取り組み	活動指標	実績
AK 避難訓練の充実強化	・避難手順書の配布数	避難手順書の配布数：70枚（2014年度）
成果指標（短期）	成果指標（中期）	成果指標（長期）
①避難先、避難方法の認知度 ②アンケート調査 ③町内会住民	①避難手順書の家での掲示率 ②アンケート調査 ③町内会住民	①避難手順書に従って訓練に参加した人の割合（事前避難含む） ②アンケート調査 ③町内会住民

指標7 ネットワーク・交流

鹿児島市は、セーフコミュニティに取り組む認証自治体など、国内外のネットワークに継続的に参加し、各コミュニティの取り組みについて学ぶとともに、情報共有や情報発信に努め、セーフコミュニティの推進を図っています。

(1) 国内ネットワークへの参加

年月	主要事項
2010. 10	・ 青森県十和田市を視察
	・ 京都府亀岡市を視察
11	・ 神奈川県厚木市認証式典に参加
2011. 10	・ 神奈川県厚木市を視察
2012. 2	・ 東京都豊島区現地審査を視察
5	・ 長野県小諸市現地審査を視察
	・ 長野県箕輪町認証式典に参加
10	・ 福岡県久留米市事前審査を視察
	・ 京都府亀岡市再認証現地審査を視察
11	・ JISC セーフコミュニティ勉強会に参加（京都府京都市開催）
	・ 東京都豊島区認証式典に参加
2013. 1	・ 神奈川県横浜市栄区現地審査を視察
2	・ 京都府亀岡市再認証式典に参加
	・ 第1回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（京都府亀岡市開催）
7	・ JISC セーフコミュニティ勉強会に参加（京都府京都市開催）
8	・ 大阪府松原市現地審査を視察
	・ 福岡県久留米市現地審査を視察
11	・ 大阪府松原市認証式典に参加
	・ 全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議に参加 （大阪府松原市開催）
12	・ 福岡県久留米市認証式典に参加
	・ 第2回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（福岡県久留米市開催）
2014. 5	・ 滋賀県甲賀市事前審査を視察
7	・ JISC セーフコミュニティ勉強会に参加（京都府京都市開催）
2015. 2	・ 埼玉県北本市認証式典に参加
	・ 第3回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（埼玉県北本市開催）

7	・ 埼玉県秩父市現地審査を視察
2015. 7	・ JISC セーフコミュニティ勉強会に参加（京都府京都市開催）

※JISC：日本セーフコミュニティ推進機構

(2) 視察対応

年月	主要事項
2013. 4	・ 埼玉県春日部市議会
9	・ 東京都豊島区長、区議会
11	・ 島根県松江市議会
2014. 1	・ 台湾新竹市
2	・ 兵庫県姫路市議会
5	・ 福島県郡山市
8	・ 神奈川県厚木市
10	・ 神奈川県厚木市、東京都豊島区、神奈川県横浜市栄区、福岡県久留米市、埼玉県北本市、埼玉県秩父市、埼玉県さいたま市（鹿児島市事前審査参加）
11	・ 茨城県守谷市議会

(3) 国際ネットワークへの参加

年月	主要事項
2012. 6	・ 韓国济州島日韓合同ワークショップに参加
2012. 11	・ 第6回アジア地域セーフコミュニティ会議に出席（東京都豊島区開催）
2014. 5	・ 第7回アジア地域セーフコミュニティ会議でポスター発表（韓国釜山市開催）



第 6 回アジア会議・豊島区認証式典 (2012. 11)



韓国済州島日韓合同ワークショップ (2012. 6)



亀岡市再認証式典 (2013. 2)



松原市認証式典 (2013. 11)



久留米市認証式典 (2013. 12)



JISC セーフコミュニティ勉強会 (2014. 7)



鹿児島市プレ現地審査 (2014. 10)



北本市認証式典 (2015. 2)

1 長期的な目標

(1) セーフコミュニティの基本理念の共有

「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」というセーフコミュニティの基本理念をより多くの市民と共有するために、今後も広報紙「市民のひろば」や市ホームページで広報するほか、イベント、会議等で周知し、セーフコミュニティの普及啓発に努めていきます。

また、地域住民、関係団体、行政が連携したセーフコミュニティ活動を推進していきます。

(2) 外傷データ等の有効活用

外傷サーベイランス委員会において、継続的に活用可能なデータの収集・分析に努め、分野別対策委員会の予防活動に有効活用していきます。

また、分野別対策委員会で設定した評価指標に基づき、外傷データ等から取り組みの効果を定期的に評価し、随時、取り組みを見直し、より効果的な取り組みを推進していきます。

(3) 地域活動の推進及び活性化

鹿児島市では、地域住民で構成し、地域課題の解決などに取り組む「地域コミュニティ組織」があることから、それらの組織へ継続的にセーフコミュニティ活動の情報発信を行い、鹿児島市全域でのセーフコミュニティ活動の展開を進め、地域の安全性の向上のほか、地域コミュニティの結束、地域住民、関係団体、行政の連携強化などを推進していきます。

また、モデル地区等を設定している5分野においては、モデル地区等の取り組みを検証、評価しながら、工夫・改善を行い、より効果的な取り組みを他地域に拡大していきます。

(4) 国内外のネットワークとの連携

計画的に国内外のセーフコミュニティネットワークに参加し、情報共有や情報発信に努めるとともに、特に、国内においては、セーフコミュニティ認証自治体及び準備自治体との連携を深め、セーフコミュニティ活動の発展に努めていきます。

2 長期的な活動を確保するためのプログラム

(1) 鹿児島市総合計画に基づく長期的な活動の展開

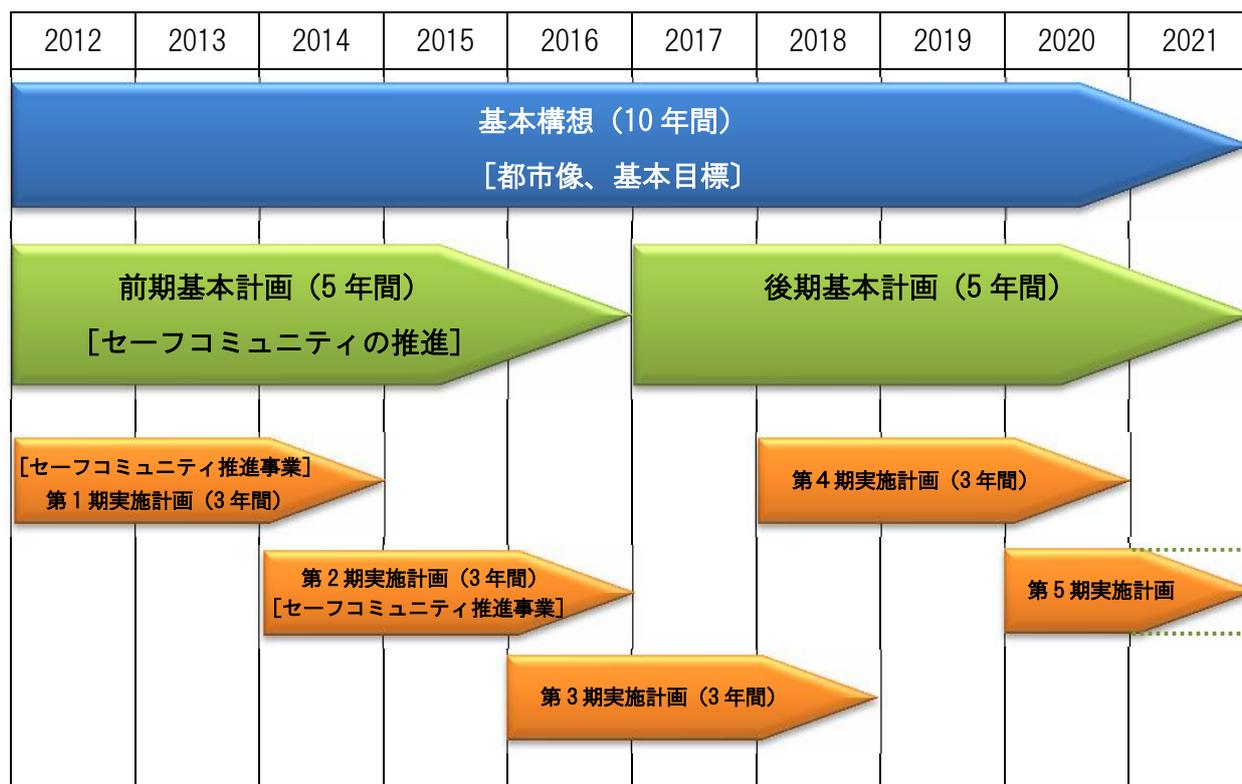
鹿児島市は、社会経済情勢の変化など時代の潮流を見据えた、将来における本市のあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針となる総合計画を策定しております。

総合計画は、行財政運営を総合的かつ計画的に進めるための最上位計画であり、この計画に即した施策等が策定され、展開されています。

2012年1月に策定した第五次鹿児島市総合計画（計画期間10年）では、本市の将来像と長期的なまちづくりの基本目標を明らかにし、その実現に向けた施策の基本的方針や体系を示した上で、市民と行政がともに考え、ともに行動する協働・連携のまちづくりを進めていくこととし、特に先導的かつ重点的に取り組むものとして、「セーフコミュニティの推進」を位置づけています。（P6 図2-1）

長期的にセーフコミュニティ活動を展開し、生涯にわたって安心安全に暮らせるまちづくりの推進を目指します。

図5-1 第五次鹿児島市総合計画におけるセーフコミュニティ活動の推進



1 セーフコミュニティ広報パンフレット

(表)

(裏)

桜島大噴火 避難手順書

高免町
町内会

1. 事前に自主避難する場合

チェック

- 避難勧告が出る前に自主的に避難をする場合は、**家族カードを分団長・副分団長に提出。**
- 家族カードの提出ができない場合は、**電話で連絡。**
(既に避難していた方も、電話で連絡)
- 電話で伝える内容【氏名・住所・連絡先・避難先】

- ◆ 1～4班 ⇒ 高免分団長 中山清光さん
【連絡先：293-0000 携帯 090-0000-0000】
- ◆ 5・6班 ⇒ 高免副分団長 上村利弘さん
【連絡先：293-0000 携帯 090-0000-0000】

行政からの情報

防災行政無線、
消防車、テレビ、
ラジオ、メールで
お知らせ

避難準備情報

噴火警戒レベル4

2. 避難勧告が出たら

チェック

- **高免港の高免退避舎**に集合。
※がけ崩れ等で行けない場合は、**園山退避舎**に集合。
- 携行品：**非常持出袋、家族カード**を持っていく。
- 隣近所に声をかけながら、**お互い協力**して全員が安全に避難。
- 要支援者の避難は、あらかじめ決められている支援者が避難支援。

◆私は、消防分団員と一緒に避難します。

- 三叉路・高免小で消防分団員に**家族カードを提出。**
- 避難フェリーで鹿児島港まで移動。
- **避難所は長田中学校。**

食糧・水、寝具類
ヘルメット等



避難勧告・避難指示

噴火警戒レベル5



平成26年12月21日作成